

JS-RA4シリーズ

5MPアナログHD対応
16chデジタルレコーダ

設置運用マニュアル



取扱説明書

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

取扱説明書を読む前に

本取扱説明書では、5MPアナログHD対応 16chデジタルレコーダ JS-RA4016の設置および運用のための基本的な説明を記述しています。

本機をはじめてご使用になるユーザーの方はもちろん以前多くの類似装置を使用してきたユーザーの方でも、ご使用の前には必ず本取扱説明書をよく読み注意事項をご確認の上、本機を使用することをお勧めいたします。なお、安全上の警告および注意事項は製品を正しく使うことで危険や財産上の被害を防ぐことにつながるため、必ずお守りください。

お読みになった後は、いつでも確認できる場所に必ず保管してください。

参考: 規格品以外の製品を使用することで発生した損傷、または取扱説明書の使用方法を従わずに発生した製品の損傷は、当社で責任を負いかねますので、ご了承ください。

参考: アナログHDデジタルレコーダを初めてご使用になるか、使い方がよくわからないユーザーは、設置や使用する途中で必ず販売店までお問い合わせいただき、専門のエンジニアのサポートを受けてください。

参考: 機能拡張および故障修理のために装置を分解する場合は、必ず販売店までお問い合わせいただき専門家のサポートを受けてください。

参考: 本機は業務用として電磁波適合登録を済ませた装置ですので、販売者または使用者はこの点にご注意ください。もし、誤って販売または購入した場合には、家庭用のものに交換してください。

参考: 予期せぬ停電による製品の損傷を防ぐため、UPS（Uninterruptible Power Supply、無停電電源供給装置）の設置をお勧めします。詳細はUPS代理店のお問い合わせください。

本文書は、事前の連絡なく情報が変更されることもあります。

本製品には一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。そのソフトウェアのソースコードをご希望の方には提供できます。詳しい内容はソフトウェアCDに(OpenSourceGuide¥OpenSourceGuide.pdf)または取扱説明書と一緒に提供されるオープンソースガイドを確認してください。

安全上の注意事項

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただきたい一般事項を、警告・注意として説明しています。

警告

- ・ 工事は販売店に依頼する。工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊を防ぐためにも、必ず販売店にご相談ください。
- ・ 異常があるときはすぐに使用をお止めください。煙が出る、臭いがするなどそのまま使用すると火災の原因になります。その場合は直ちに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
- ・ 異物を入れない。水や金属が内部に入ると火災や感電の原因となります。直ちに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
- ・ 不安定な場所に置かない。落下などでけがの原因になります。
- ・ 分解しない、改造しない。火災や感電の原因になります。修理や点検は販売店にご相談ください。
- ・ アース（接地）は確実にこなう。電源コードには感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアースに接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。
- ・ 電源コード・プラグを破損するような事はしない。傷つけたり、加工・固定したり、束ねたり・ねじったりしないでください。傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。コードやプラグの修理の相談は販売店にご相談ください。
- ・ 電源プラグのほこり等は定期的にとる。プラグにホコリなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布などでふいてください。
- ・ コンセントや配線器具の定格を越える使い方はしない。ブレーカが落ちなくても配線などの発熱による火災の原因になります。
- ・ 予想できない停電による製品の破損を防止するため、UPS (Uninterruptible Power Supply, 無停電電源供給装置)のご利用をお勧めします。関連内容は、UPS代理店でお問い合わせください。

警告

本製品に付属の「電源コード」は本製品専用のものです。他の製品に使用することはできません。なお、他の製品への転用は保証できません。

注意

- ・ 通風孔をふさがない。内部に熱がこもり、火災や故障、エラーの原因になります。
- ・ 湿気やほこりの多い場所に設置しない。火災や感電、故障の原因になります。
- ・ 振動や強い衝撃を与えない。内部部品の変形などで、火災や感電、故障の原因になります。

記号	規格	タイプ
	IEC60417, No.5032	交流
	IEC60417, No.5031	直流

取扱について

とくにシステム稼動中は、振動や衝撃を与えないでください

デジタルレコーダはハードディスクドライブに録画データを保存しています。ハードディスクはわずかに数ミクロンの隙間をディスクが高速で回転しており、システム稼動中に振動や衝撃を与えるとハードディスクが損傷し、デジタルレコーダが起動しなくなったり、録画データが読み出せなくなったりします。（ハードディスクは保証対象外になります）

内蔵ハードディスク、放熱ファンは消耗品です

約30,000時間（この時間は部品の性能を保証するものではありません）を目安に交換されることをお勧めします。交換の際は購入店にご相談ください。

電源について

使用電源はAC100Vです。設置の際は消費電力の大きな機器（コピー機や空調機など）と同じACコンセントからは電源を取らないでください。また本体は電源スイッチを“切”にしても電源からは遮断されません。必要に応じて本体と電源を遮断できるように、遮断装置ユニットの設置や、電源コードに容易に手が届くようにするなどしてください。

雑音源を避ける

強い磁界を発生する機器（テレビ、ラジオ、無線機、電動モーターなど）の近くでは、画像の乱れやノイズが発生するおそれがあります。また電灯線や動力線に近づけてケーブルを配線すると、ノイズが入る場合があります。このような時は設置場所やケーブル配線をかえるなどしてください。

お手入れ

安全のため、電源を遮断した状態で乾いた布や、薄めた中性洗剤等を染み込ませ固く絞った布で軽く拭いてください（ベンジン・シンナーは塗装がはげたり変形したりします）。お手入れの際、放熱ファンに物がはさまったり指をつめたりしないよう気をつけ、必要に応じて掃除機等もご利用ください。

ほこりを避け、熱がこもらないように設置する

本体には本体背面と本体右側に強制空冷ファン吹き出し口が設置され、本体の左側に空気取り入れ口が設置されています。設置の際は空気の流れを出来るだけさえずらないように側面・背面・上面は壁面から5cm以上の間隔をあけるなどして、熱がこもらないようにして下さい。また本体内部の空気を循環させているため、床の上や足元などのほこりのたまりやすいところや、熱がこもるところ、湯気や油の多いところの設置は出来ません。また空気取り入れ口にゴミやほこりが目立ってきた時は掃除機などで取り除いてください。

使用環境について

0～40℃でご利用ください。この範囲を越えると故障や誤作動の原因となります。また、温度差の大きいところや湿度の高いところへ移動すると、結露を生じることがあります。結露したまま使用すると故障の原因となりますのでご注意ください。

内蔵バックアップ電池について

時計や停電時の動作内容の保存などで内蔵バックアップ電池を利用しており、本体が通電していないときにはこの内蔵電池を利用しています。全く通電を行わない場合は、目安3年程で電池を交換されるか、必要に応じて交換されることをお勧めします。

その他

本体の故障、もしくは不都合により録画されなかった場合の補償についてはご容赦ください。

目次

第1章 — 製品紹介	9
製品の特徴	9
付属品の確認	10
第2章 — 設置	11
後面パネル	11
ビデオソース接続	11
アラーム接続	11
RS485接続	12
RS232ポート接続	12
eSATAポート接続	13
ファクトリーリセット	13
モニタ接続	13
ネットワークポート接続	13
オーディオ接続	14
電源コード接続	14
第3章 — システム設定	15
前面パネル	15
LED	15
USB端子	15
リモコン	16
① IDボタン	16
② SPOT モニタボタン	16
③ 画面分割ボタン	16
④ 画面自動切替ボタン	16
⑤ カメラボタン	17
⑥ トリプレックスボタン	17
⑦ オーディオボタン	17
⑧ 近距離 / 遠距離フォーカス	17
⑨ メニューボタン	17
⑩ エンターボタン	17
⑪ 緊急録画ボタン	17
⑫ 停止ボタン	17
⑬ 逆再生ボタン	17
⑭ 高速再生ボタン	18
⑮ アラームボタン	18
⑯ フリーズボタン	18
⑰ クリップコピーボタン	18

⑮ ブックマークボタン	18
⑯ 拡大/縮小ボタン.....	18
⑰ プリセット保存 / 読込ボタン	18
⑱ PTZモードボタン	18
㉑ 矢印ボタン.....	18
㉓ 拡大モードボタン	19
㉕ 再生ボタン.....	19
㉗ 一時停止ボタン	19
㉙ 次画面ボタン.....	19
㉛ 前画面ボタン.....	19
ログイン	19
メニューの使用法.....	20
仮想キーボードを利用した文字列入力	21
テーブルで全ての列の値を同時に設定する	21
マウスの使用.....	21
システム設定	22
一般	22
日付/時刻	28
ユーザー	29
HDD	31
モニタリング.....	32
録画設定	33
一般	33
スケジュール.....	34
プリイベント.....	36
インテリジェントコーデック	37
イベント設定	38
モーション	38
トリップゾーン.....	39
アラーム入力.....	41
映像信号なし.....	42
映像遮断	43
テキストイン.....	44
ネットワーク設定.....	45
一般	45
LAN	46
UCN.....	48
RTSP.....	49
WEB Client	50
VNC.....	50
NetFS.....	51

装置設定	53
オーディオ	53
アラーム出力.....	53
遠隔制御	54
その他	54
ディスプレイ設定.....	55
OSD.....	55
メインモニター	57
外部モニター.....	58
通知設定	59
コールバック.....	59
メール	59
FTP.....	61
スケジュール.....	62
カメラ設定	63
一般	63
イメージ	64
PTZ	65
クリッププライバシー	66
プライバシーマスキング	67
第4章 ー運用	68
電源を入れる	68
リアルタイム監視.....	68
ステータス情報ウィンドウ	68
リアルタイム監視メニュー	69
画面グループ編集機能	71
拡大機能	71
PTZ制御.....	71
イベントモニタリング機能	72
隠しカメラ機能.....	73
外部モニター監視機能	73
状態監視	73
映像録画	74
緊急録画機能.....	75
オーディオ録音.....	75
保存映像の再生.....	75
映像検索	76
検索メニュー.....	77
イベントログ検索.....	79
録画テーブル検索.....	80

モーション検索.....	82
テキストイン検索.....	83
サムネイル検索.....	84
ブックマーク.....	84
バックアップ.....	85
印刷.....	86
付録.....	87
USBハードディスクのインストール.....	87
テキストイン情報のクエリー例	87
クエリー例1.....	87
クエリー例2.....	88
WEB Client	89
ウェブ監視モード.....	91
ウェブ検索モード.....	92
時間重複	94
設定画面の構成図.....	94
システムログタイプ.....	96
エラーコードタイプ.....	97
故障の際の確認事項.....	98
製品の仕様	99
アフターサービスについて	100

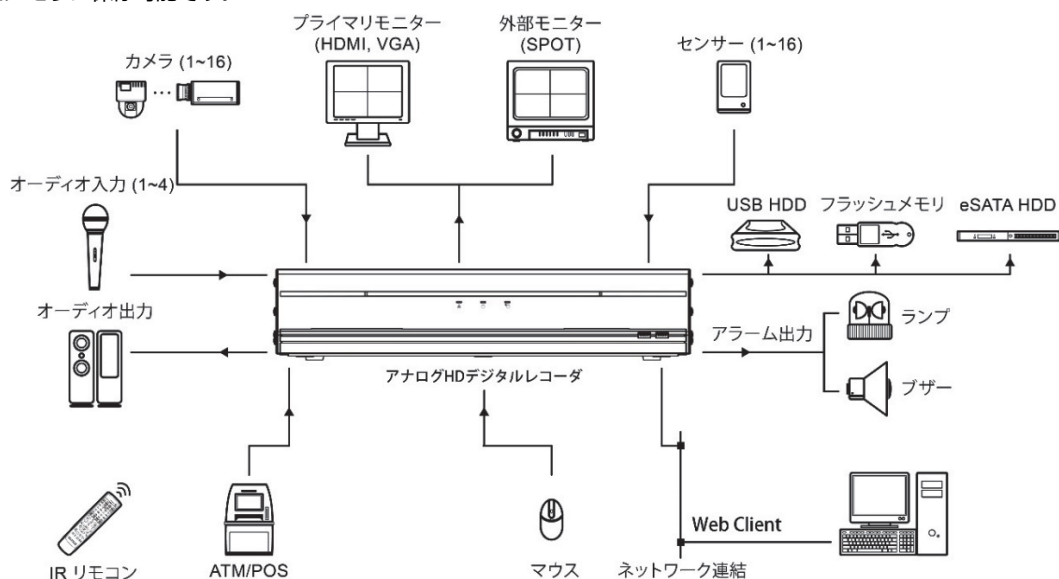
第 1 章 — 製品紹介

製品の特徴

本アナログHDデジタルレコーダ（以下、DVRという）は、16チャンネルのカメラ入力を録画できます。また、監視・再生の両モードの画質に優れ、以下のような特徴を備えています。

- ・ チャンネル別にビデオのリアルタイム監視
- ・ アナログHD入力自動感知
- ・ NTSCとPAL自動感知
- ・ H.264コーデック
- ・ HDMI、VGA、SPOT 同時出力サポート
- ・ カメラメニュー調整画面制御のためのCoCサポート（同軸ケーブルでカメラメニュー調整画面制御）
- ・ 速く手軽な検索モードを提供（日付/時刻、録画テーブル、イベント）
- ・ 480ips リアルタイム録画（Full HD 解像度基準）
- ・ ディスク上書きモードによる連続録画可能
- ・ eSATA（メイン録画拡張）インターフェースをサポート
- ・ 1 USB 3.0ポート装備、1 USB 2.0ポート装備（マウス、プリンタ、S/Wのアップグレードとバックアップ用）
- ・ 録画中止無く、再生及び遠隔伝送可能
- ・ 判り易いグラフィックユーザーインターフェース（GUI）と多言語提供
- ・ 多様な録画モード（スケジュール、イベント、プリイベント、緊急録画）
- ・ 双方向オーディオ通信
- ・ 4チャンネルオーディオ録音、1チャンネルオーディオ再生、
- ・ POS/ATM接続をサポート
- ・ 16アラーム入力、4アラーム出力、内部ブザー
- ・ 完全な遠隔機能を提供 - 遠隔監視、遠隔検索、遠隔管理、双方向オーディオ
- ・ IRリモコン機能
- ・ 自己診断機能を装備し、HDDなどシステムの状態をシステムイベントに通知。HDDの状態は、業界標準S.M.A.R.T.プロトコルを使用

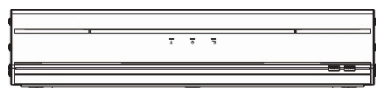
ネットワークによって、遠隔地から本DVRをコントロールしたり映像を監視したりできます。標準PostScript™パソコンプリンタを連結して保存されたビデオを出力できます。eSATAポートを使用して外付ハードディスクに映像を保存でき、USBポートを利用して外付HDDやフラッシュメモリに保存可能です。



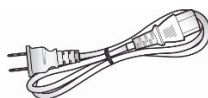
サンプル構成図

付属品の確認

製品の梱包を開けて、下記の付属品がすべて含まれているか確認してください。



デジタルレコーダ



電源ケーブル



簡易マニュアル



マウス



遠隔プログラム/製品のマニュアルCD



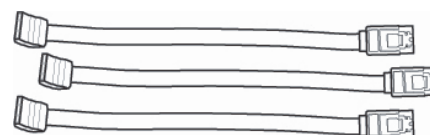
IRリモコン



保証書



ハードディスク固定用ねじ※



SATAケーブル※

※購入いただいたDVRのHDD容量によって同梱物の有無及び数量が異なります。

CD-ROMには次の各種取扱説明書（PDFファイル）、ソフトウェア等が収められています。

【取扱説明書】設置運用マニュアル（JS-RA4016_IM-OM_verX.XX.pdf）

【取扱説明書】簡易マニュアル（JS-RA4016_QG_verX.XX.pdf）

【取扱説明書】JSS遠隔監視システム（JSS-RMS_manual_verX.XX.pdf）

【ソフトウェア】JSS遠隔監視システム（JSS-RMS）

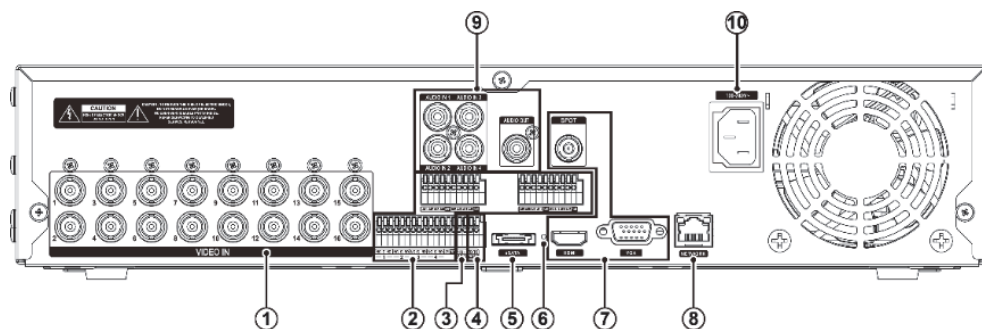
【ドキュメント】Open Source Guide（OpenSourceGuide.pdf）

※取扱説明書はPDFファイルのため、Adobe Acrobat Readerが必要です。

第2章 — 設置

後面パネル

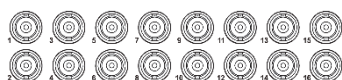
DVRの設置に際し、特別な専用工具は必要ありません。全体のシステムを構成する他の装置については、各装置の設置マニュアルを参照してください。



DVR後面パネル

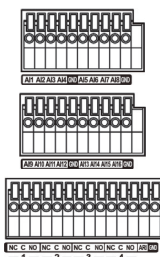
- | | | | |
|-------------|------------------|-------------|------------|
| ① ビデオ入力 | ② アラーム入力/出力 | ③ RS485ポート | ④ RS232ポート |
| ⑤ eSATAポート | ⑥ ファクトリーリセットスイッチ | ⑦ ビデオ出力 | |
| ⑧ ネットワークポート | ⑨ オーディオ入力/出力 | ⑩ 電源コードコネクタ | |

ビデオソース接続



ビデオソースからBNC Video Inコネクタまで、同軸ケーブルで接続します。

アラーム接続



参考: アラームコネクタを接続するには、ボタンを押したままケーブルをボタンの穴に挿入します。しっかりと接続されたかどうかボタンを離してケーブルを引っ張り、抜けないかどうかを確認します。ケーブルを抜く場合はケーブルの上のボタンを押したままケーブルを引っ張ります。

AI 1 ~ 16 (アラーム入力) : 外部装置を利用して、イベントが発生した場合にDVRが反応するように信号を送ることができます。機械的または電氣的スイッチをAI (アラーム入力) とGND (アース) コネクタに接続できます。電氣的スイッチのアラーム入力が出検されるためにはNC (ノーマルクローズ) の場合2.4V以上で、NO (ノーマルオープン) の場合、0.5V以下の電圧が少なくとも0.5秒以上続かなければなりません。アラーム入力の電圧範囲は0V~5Vです。アラーム入力の設定に関する内容はこの取扱説明書の“第3章 - システム設定 - イベント設定 - アラーム入力”を参照してください。

GND (アース) : アラームの入力や出力のアース側をGNDコネクタに接続します。

参考: GNDが表示されている全てのコネクタは共通です。

NC/NO (リレーアラーム出力) : このDVRは、ブザーやライトのような外部装置をオンオフできます。動作方法はNC (Normally Closed) あるいはNO (Normally Open) タイプの中で選ぶことができます。機械的、または電氣的スイッチをNCとC、あるいはNOとCコネクタに繋がられます。電氣的な仕様はAC125Vで2A、DC30Vで1Aシンク電流です。アラーム出力の設定に関する内容は、この取扱説明書の“第3章 - システム設定 - 装置設定 - アラーム出力”部分を参照してください。

ARI（アラームリセット）：アラームリセットコネクタで入力される外部信号によって、アラーム出力と内部ブザーをリセットできます。機械的または電氣的スイッチをARI（アラームリセット入力）とGNDコネクタに接続できます。アラームリセットが検出されるためには、0.3V以下の電圧を少なくとも0.5秒間維持する必要があります。ワイヤを、ARI（アラームリセット入力）及びGND（接地）コネクタに接続します。

コネクタの配置:

AI (1~16)	アラーム入力 1~16
GND	アース
NC	リレーアラーム出力 (Normally Closed) (アラームが発生しないとき、Common端子と接続)
C	リレーCommon
NO	リレーアラーム出力 (Normally Open) (アラームが発生した場合、Common端子と接続)
ARI	アラームリセット入力

RS485接続



このDVRは、RS485 half-duplexシリアル通信信号を利用して、外部装置または制御用キーボードのような制御システムによって遠隔制御できます。また、RS485コネクタはPTZ（Pan、Tilt、Zoom）カメラを制御するのに使用できます。外部機器のRX+/TX+、RX-/TX-をDVRの+、-に接続します。RS485を接続するためには、この取扱説明書の“第3章 - システム設定 - カメラ設定 - 遠隔制御設定、テキストイン設定”部分とPTZカメラ製造メーカーの取扱説明書を参照してください。

コネクタの配置:

マスター機器		スレーブ機器	
+	→ To	→	TX+/RX+
-	→ To	→	TX-/RX-

RS232ポート接続



RS232ポートは遠隔制御キーボード、PTZカメラおよびテキストインのデバイスなどの遠隔制御デバイスを接続するために提供されます。RS232を接続するためには、この取扱説明書の“第3章 - システム設定 - カメラ設定、遠隔制御設定、テキストイン設定”部分と遠隔制御 デバイス 製造メーカーの取扱説明書を参照してください。

コネクタの配置:

マスター機器		スレーブ機器	
RX	→ To	→	TXD
TX	→ To	→	RXD
GND	→ To	→	GND

参考: スレーブデバイスの9ピンのコネクタの配置は以下のようです。



Pin 2	RXD (Receive Data)
Pin 3	TXD (Transmit Data)
Pin 5	GND (Ground)

eSATAポート接続

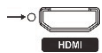


eSATAポートは、映像を保存するための外付ハードディスクを接続するために提供されます。

注意: システムの電源が点いている状態で、eSATAデバイスを接続したり取り除いたりしないでください。eSATAデバイスを接続する場合、まずシステムを終了してシステムの電源を抜いてから、eSATAケーブルを接続してデバイスの電源を点けてください。eSATAデバイスを取り除く場合、まずシステムを終了してシステムの電源を抜いてから、eSATAデバイスの電源を切ってeSATA接続ケーブルを抜いてください。

注意: システムの電源が入っている状態でeSATA装置の電源を切ったりeSATAケーブルを抜いたりすると、システムが誤動作することがあります。

ファクトリーリセット



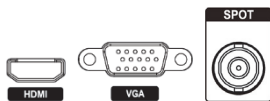
装置背面のHDMIコネクタの左側にあるファクトリーリセットスイッチは、DVRを工場出荷時の初期設定に戻す場合にのみ使用します。

注意: 工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。

本体の設定を初期化するために、まっすぐなピンが必要です。

1. DVRの電源を切ります。
2. DVRの電源をもう一度入れます。
3. ピンでHDMIコネクタの左側にあるファクトリーリセットスイッチの穴を押します。
4. DVRの内部ブザーが二回鳴るまでスイッチを押し続けます。
5. 押していたピンをスイッチから外せば、DVRの全設定は工場出荷時の初期設定状態になります。

モニタ接続



HDMI (High-Definition Multimedia Interface、高画質マルチメディアインタフェース) 及びVGAモニタを該当のポートに接続することができます。

SpotモニタをSPOT OUTコネクタに接続できます。外部モニタ監視機能の内容は“第4章 – 運用 – リアルタイム監視”部分をご参考してください。

参考: システム設定でそのモニタに設定した解像度で映像を表示するためには、DVRの起動前にモニタが接続されていなければなりません。

ネットワークポート接続



このDVRは、10Mbps/100Mbps/1Gbpsイーサネットコネクタを利用してネットワークに接続できます。DVRのネットワークポートにRJ-45ジャック付のCat5e ケーブルを接続します。DVRはコンピュータとネットワーク上で接続され、遠隔監視や遠隔検索、遠隔制御や遠隔ソフトウェアアップグレードができます。イーサネット接続の設定についての内容は、この取扱説明書の“第3章 – システム設定 – ネットワーク設定”部分を参照してください。

オーディオ接続



DVRは録音することができます。オーディオソースをオーディオ入力コネクタに接続して、オーディオ出力をアンプに接続します。

参考: 設置地域内の法規で録音が許可されているか判断するのは、ユーザーの責任です。

参考: DVRにはオーディオ出力アンプがないため、ユーザーはアンプとスピーカを準備してください。オーディオ入力は複数のソースを接続できますが、内蔵アンプのないマイクの場合、直接接続すると正常に動作しません。その場合は別途のプリアンプを経ってから接続してください。

電源コード接続



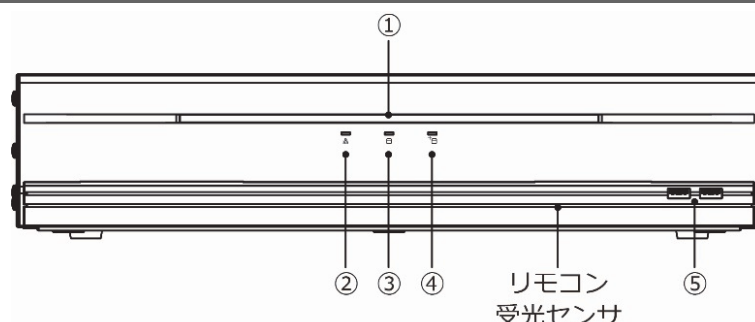
電源コードをDVRと電源コンセントに接続します。この装置には電源スイッチがないので、接続するとすぐに電源が入ります。

注意: 電源コードは配線を足に引っ掛からないようにし、コードが家具のせいで傷ついたりしないようにご注意ください。電源コードをじゅうたんやカーペットの下に設置しないでください。電源コードにはアースがありますが、コンセントにアース端子がないからといってプラグを改造したり、一つのコンセントにあまりたくさんの装置をつないで過負荷が生じたりすることのないようにしてください。

DVRはこれで作動準備が完了しました。この取扱説明書の“第3章 – システム設定”と“第4章 – 運用”部分を参照してください。

第3章 — システム設定

前面パネル



DVR前面パネル

- ① 電源LED ② ネットワークLED ③ HDD LED ④ eSATA ED ⑤ USB端子

以下の説明を参照してリモコンの各ボタンによってDVRを初期設定してDVRを起動させることができます。

参考: リモコンセンサがUSB端子の左にあります。物がセンサを遮らないように注意してください。センサが遮られるとリモコンが正常に作動しません。

参考: Wi-Fi（無線LAN）およびBluetoothのような無線通信装置をDVRの近くで使用する場合、リモコンが正常に作動しない可能性があります。

参考: 家庭用PCのように、USBマウスを利用して各設定ウィンドウやメニューに移動することができます。

参考: システム設定を円滑に行うため、USBマウスの使用をお勧めします。

LED

- ・ **電源LED:** この装置が稼動している間、電源LEDが点いています。
- ・ **ネットワークLED:** この装置がモデムやイーサネットによって遠隔地に接続されている場合、データ送受信するとネットワークLEDが点滅します。
- ・ **HDD LED:** HDDに映像を保存するか、保存された映像を検索する場合、HDD LEDが点滅します。
- ・ **eSATA LED:** eSATAデバイスが接続されているときに点灯します。

USB端子

・ HDD接続

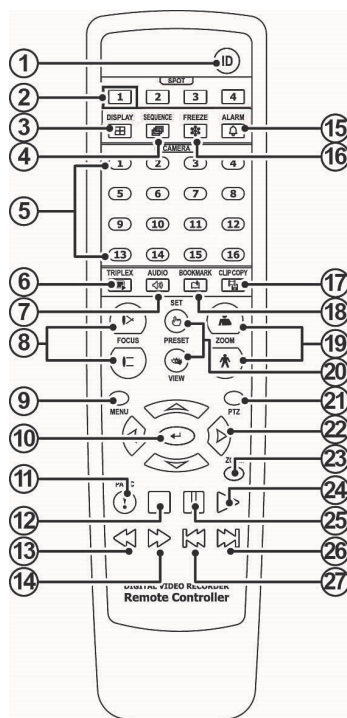
USB端子にUSB外付けハードディスクやフラッシュメモリを接続してバックアップに使用することができます。外付けハードディスクはなるべくDVRに近いところで接続してください。通常180cmを超えないケーブルで接続することをお勧めします。外付けハードディスクと一緒に提供されたUSBケーブルでNVRのDVR端子に接続してください。ビデオバックアップに関する内容は、「第4章 – 運用 – バックアップ」を参照ください。

・ 外部機器の接続（マウス、プリンター）

USB端子にUSBマウスを接続することができます。また、USB⇄シリアルコンバーターを接続し、テキストインデバイスをいくつか接続するのに使用できます。

参考: USBフラッシュメモリはFAT32フォーマットのみに対応します。

リモコン



- | | |
|----------------|-----------------|
| ① IDボタン | ⑮ アラームボタン |
| ② SPOT モニタボタン | ⑯ 一時停止ボタン |
| ③ 画面分割ボタン | ⑰ クリップコピーボタン |
| ④ 画面自動切替ボタン | ⑱ ブックマークボタン |
| ⑤ カメラボタン | ⑲ 拡大/縮小ボタン |
| ⑥ トリプレックスボタン | ⑳ プリセット保存/読込ボタン |
| ⑦ オーディオボタン | ㉑ PTZモードボタン |
| ⑧ 近距離/遠距離フォーカス | ㉒ 矢印ボタン |
| ⑨ メニューボタン | ㉓ 拡大モードボタン |
| ⑩ エンターボタン | ㉔ 再生ボタン |
| ⑪ 緊急録画ボタン | ㉕ 一時停止ボタン |
| ⑫ 停止ボタン | ㉖ 次画面ボタン |
| ⑬ 逆再生ボタン | ㉗ 前画面ボタン |
| ⑭ 高速再生ボタン | |

IRリモコン

① IDボタン

Ⓜ ボタンを押すとリモコンのIDを設定することができます。DVRのユニットIDが0の場合はリモコンのID設定をしなくてもシステムを操作できます。システムIDの意味と設定方法はこの取扱説明書の“第3章 - システム設定 - システム設定 - 一般”部分を参照してください。システムIDが1～16の場合にはⓂ ボタンを押してから1～16のIDに該当する数字ボタンを押します。該当システムの映像の左下にリモコンアイコン  が表示されリモコン入力によってシステムが制御できます。複数のシステムIDが0の場合、リモコンを操作すると複数が一度に遠隔制御されます。

② SPOT モニタボタン

SPOT モニタのチャンネル選択及び切替監視が設定できます。

③ 画面分割ボタン

DISPLAYボタンを押して別の画面分割初期化に転換します。

④ 画面自動切替ボタン

SEQUENSボタンを押すと、別のチャンネルを連続して表示するシーケンスモードに切り替わります。

⑤ カメラボタン

リアルタイム監視モードや再生モードでCAMERAボタンの1～16を押すと、該当カメラの映像を全画面で見ることができます。

⑥ トリプレックスボタン

リアルタイム監視モードで録画を維持した状態でTRIPLEXボタンを押すと、特定のチャンネルの映像が再生できます。

⑦ オーディオボタン

オーディオ出力を On / Off させることができます。

⑧ 近距離 / 遠距離フォーカス

PTZモードで近距離または遠距離のフォーカスを調整するとき（Focus +、-）に使用します。

⑨ メニューボタン

MENU ボタンをリアルタイム監視モードで押すとリアルタイム監視メニューが、検索モードで押すと検索メニューが画面の右側に表示されます。ボタンをもう一度押すとメニューは消えます。

再生モードでMENU ボタンを3秒以上押すとワンタッチモードでクリップコピーの設定窓の表示ができます。

⑩ エンターボタン

Enter ボタンはメニューの設定時、項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。

⑪ 緊急録画ボタン

Emergency ボタンを押すとEが表示されて、現在のスケジュールに関係なく映像を録画します。ボタンをもう一度押すと緊急録画モードが解除されます。

⑫ 停止ボタン

映像再生が停止し、リアルタイム監視モードに切り替わります。リアルタイム監視モードでボタンを押すと、トリプレックス/全チャンネルモードを選択するウィンドウが表示されます。

⑬ 逆再生ボタン

Reverse ボタンを押すとビデオを高速で逆再生します。ボタンを押す度に⏮、⏮⏮、⏮⏮⏮で速度が変わります。PTZモードではズーム焦点ボタンとして使用されます。

②③ 拡大モードボタン

画面で特定の部分を拡大して確認したいときに使用します。方向ボタンで拡大画面のウィンドウを移動させることができます。

②④ 再生ボタン

▶ ボタンを押すと普通の速度で再生します。

②⑤ 一時停止ボタン

再生中に || ボタンを押すとビデオは一時停止され、ビデオ再生中には画面に ▶ が、一時停止モードでは画面に || が現れます。PTZモードでは遠距離焦点ボタンとして使用されます。

②⑥ 次画面ボタン

再生モードの一時停止状態で ►► ボタンを押すと現在の画面ですぐ次の画面が見られます。PTZモードでは画面拡大ボタンとして使用されます。

②⑦ 前画面ボタン

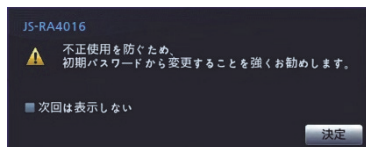
再生モードの一時停止状態で ◀◀ ボタンを押すと現在の画面のすぐ前の画面が見られます。PTZモードでは画面の縮小ボタンとして使用されます。

ログイン

MENU ボタンを押すか、マウスのポインタを画面の右側に移動させて、リアルタイム監視メニューから **🔒** (ログイン) を選ぶと、次のようなログイン画面が表示されます。

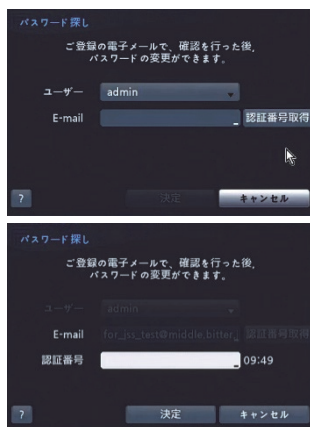
ログイン画面

環境設定、検索等、DVRの様々な機能を使用するには使用権限のあるユーザーでログインしてください。ユーザー選択をし、パスワードを 입력すると、そのユーザーとしてログインします。パスワードを忘れた場合、右下の **?** ボタンを押すと関連情報が現れます。



パスワード変更警告画面

初期パスワードのままだと表示されます。



パスワード探し画面

パスワードを忘れた場合、ログイン画面で“パスワード探し”をクリックしてください。ユーザーを選択し、E-mailアドレスを入力した後、“認証番号取得”をクリックしてください。

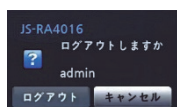
E-mailで届いた認証番号を入力して“決定”をクリックします。

注意：工場出荷時のadminユーザーのパスワードは“1111”です。セキュリティのため通常パスワードを設定してシステムを運営してください。パスワードなしでシステムを使うと警告メッセージが表示されます。

不正使用を防ぐため、工場出荷時のパスワードから必ず変更してください。

参考：リモコンを使用できない場合はマウスの右ボタンを利用してパスワード項目の右側の  ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は“メニュー使用法 - 仮想キーボードを用いた文字入力”部分をご参照ください。

参考：システムからログアウトするには、**(MENU)** ボタンを押すか、マウスポインタを画面の右側に移動させて、リアルタイム監視メニューから  (ログアウト) を選びます。



◀ ログアウト画面

メニューの使用法

リアルタイム監視画面で **(MENU)** ボタンを押すか、マウスのポインタを画面の右側に移動させ、リアルタイム監視メニューから  (設定) を選べと、設定メニューに入ります。設定メニューに入るためにはメニュー設定権限のあるユーザーでログインしてください。



設定メニュー画面

- ① システム
- ② 録画
- ③ イベント
- ④ ネットワーク
- ⑤ 装置
- ⑥ ディスプレー
- ⑦ 通知
- ⑧ カメラ

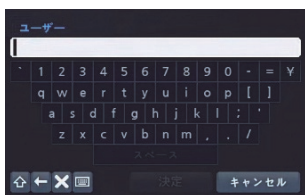
メニューのうち一つの項目を選択しようとする場合は、矢印ボタンで該当項目に移動してから  ボタン、またはマウスの左ボタンで該当項目をクリックしてください。

各項目の設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存してください。設定画面左下に  (初期化) アイコンが表示される画面でアイコンを選択すると設定値が初期値に戻ります。



“このページ”を選択すると、現在のページ設定値が、“全てのページ”を選択すると設定画面の全てのページ該当する設定値が初期値に戻ります。

仮想キーボードを利用した文字列入力

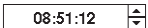


矢印ボタンを利用して任意の文字に移動して  ボタンを押すか、矢印を合わせてマウスをクリックすると、文字が入力されます。  ボタンは大文字と小文字を設定し、  はカーソルの前の文字を、  はカーソルの後の文字を消します。  ボタンはキーボードの配列を変更します。  を選択してから^を入力すると、コントロール文字を入力できます。例えば、^JはNL(New Line)、^MはCR(Carrage Return)として認識されます。これはテキストイン検索設定時に使用されます。

テーブルで全ての列の値を同時に設定する

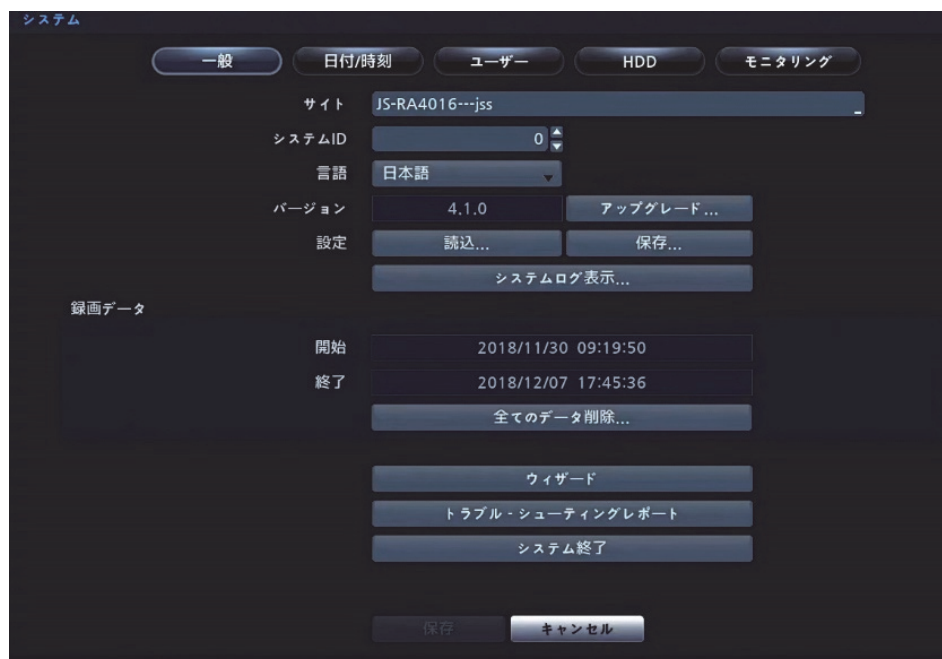
“第3章 – システム設定 – カメラ設定”の場合のように、メニューが表になった項目の場合、一部は表のタイトル値で変更できます。その場合、タイトル値を変更すると同じ列の全ての項目が同じように変更されます。PTZカメラのIDのように、その値が同じではいけない場合には、このような方法では変えられないようになっています。

マウスの使用

マウスを使うとより便利に環境設定することができます。望みの項目をクリックして選択するのも早いし、スクロールバーのあるメニューでマウスのホイールを上下に回してメニューを手軽に上下させることもできます。また、  のように数字を増減させる場合にも、マウスのホイールを回すと楽に望みの数字に設定できます。

システム設定

一般



システム – 一般設定画面

“サイト”項目には入力されたシステムインストール場所についての説明が表示されます。説明部分を選択して ボタンを押すかマウスをクリックすると、仮想キーボードが表示されます。それを利用して場所についての説明を変更できます。

“システムID”は別のDVRと接続された場合に、機器を区別するのに使用され、RS-485で数台のシステムを接続して遠隔キーボードによって遠隔制御したり、IRリモコンによって遠隔制御を行ったりする場合に、2台以上のDVRに同じIDを使用することはできません。システムIDの初期値は0で、0～99に変更できます。リモコン接続については、“リモコン接続”部分を参照してください。

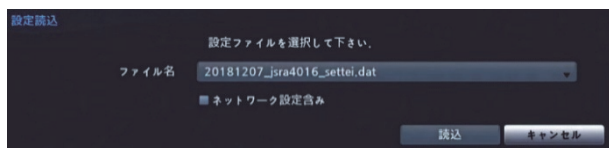
“言語”項目を選択していろいろな言語のうちの一つを選択することもできます。

“バージョン”項目にはソフトウェアバージョンが表示されます。ソフトウェアをアップグレードするには、アップグレードパッケージファイルのあるUSB装置をDVRに接続します。NetFS機能が使用中の場合（ネットワーク > NetFS）、登録されたFTPサイトからファイルをダウンロードできます。“アップグレード…”を選択すると 検索画面が表示され、USBメモリまたはNetFSを選択できます。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。アップグレード設定窓が現れます。アップグレードパッケージを選択してから、“実行”ボタンを選択してシステムをアップグレードします。



アップグレードパッケージの中にruiのファイルはシステムアップグレード用です。USBに保存されたプログラムが読み込めない場合には、マウントに失敗したという画面が表示されます。成功した場合には装置が自動的に再起動され、それからアップグレードされたバージョンのソフトウェアが実行されます。

“設定”項目でDVR設定を保存したり読み込んだりできます。保存されている設定ファイルを読み込む場合にはDVRの設定ファイルが保存されているUSB保存装置をDVRに接続します。NetFS機能が使用中の場合（ネットワーク > NetFS）、登録されたFTPサイトから設定ファイルをダウンロードできます。“設定 – 読み込み…”を選択します。USBメモリまたはNetFSを選択します。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。



“ファイル名”で設定ファイルを選択してから“読み込み”ボタンを選択します。この時、ネットワーク設定も共に読み込むかを選択できます。“ネットワーク設定込み”を選択しないとDVRのネットワーク設定は変更されません。



“設定 – 保存…”を選択するとUSB保存装置に“ファイル名”項目で入力したファイル名で設定ファイルが保存されます。NetFS機能が使用中の場合（ネットワーク > NetFS）、登録されたFTPサイトに設定ファイルをアップロードできます。設定-移出を選択します。USBメモリまたはNetFSを選択します。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。

注意: 設定読み込みを行ってもシステムの時間関連の設定は変更されません。（日付/時間/標準時間帯/サマータイム）

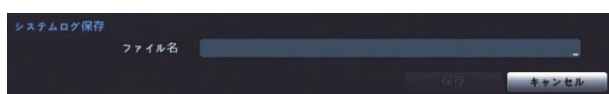
注意: システムアップグレード及び設定読み込み/保存用USBドライブのファイルシステムは、必ずFAT16かFAT32で初期化したものを使用してください。

“システムログ表示…”を選択して、システムログリストの検索ができます。ここに表示されるシステムログのタイプは、“付録 – システムログとエラーコードタイプ”を参照してください。システムログは最近5,000件まで表示されます。もし、遠隔接続で記録されたログの場合、一番右側の欄に  アイコンが表示されます。



“システムログ”画面で“保存…”を選ぶとUSBに接続された保存装置に“ファイル名”の項目で入力したファイル名でログ情報を保存します。NetFS機能が使用中の場合（ネットワーク > NetFS）、登録されたFTPサイトにログ情報をアップロードできます。移出を選択します。USBメモリまたはNetFSを選択します。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。

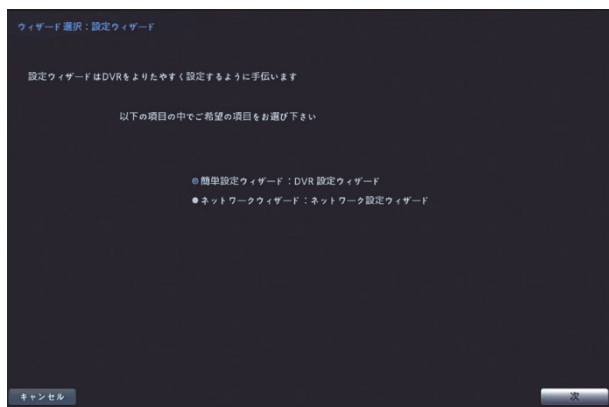
参考: 保存したシステムログ.txtファイルを開く場合、ファイル内容を見るには適切な文字エンコードに設定し固定幅の書体を使います。



“録画データ – 開始”項目には録画されたデータの最初の時間が表示され、“録画データ – 終了”項目には、録画されたデータの最後の時間が表示されます。“全てのデータ削除…”を選択すると確認画面が表示され、もう一度“削除”を選択すると全ての録画データが削除されます。

参考: “全てのデータ削除…”を選択してもシステムログはそのまま残っており、“全てのデータ削除”というシステムログが追加されます。

“ウィザード”選択すると設定ウィザードを通じてシステムの運営に必要な基本設定ができます。



簡単設定ウィザードかネットワークウィザードの中でご希望の設定ウィザードオプションを選択してから、“次”を選択し、その設定ウィザードを始めます。

参考: ウィザード画面の全体で“キャンセル”を選択すると変更された設定をキャンセルし、メイン設定メニュー画面に戻ります。



“次”を選択して簡単設定ウィザードを始めます。

日付/時刻の設定

“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時刻”を選択すると、矢印ボタンを利用して時刻を変更できます。“日付 – 形式”と時刻 – 形式”を選択すると、日付表示方式と時刻表示方式を変更できます。

“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。以下の地図で前面パネルの左/右矢印ボタンを利用するかマウスホイールを上/下に動かしてご希望の標準時間帯を選択することもできます。

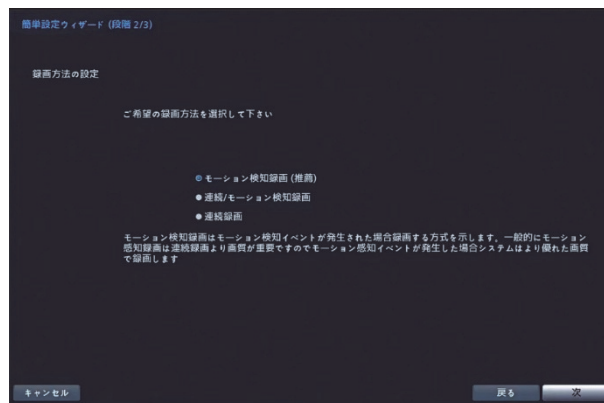
“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

参考: 変更された日付/時刻の設定値は“次”を選択した後、システムに適用されます。



録画方法の設定

ご希望の“録画方法”を選択します。



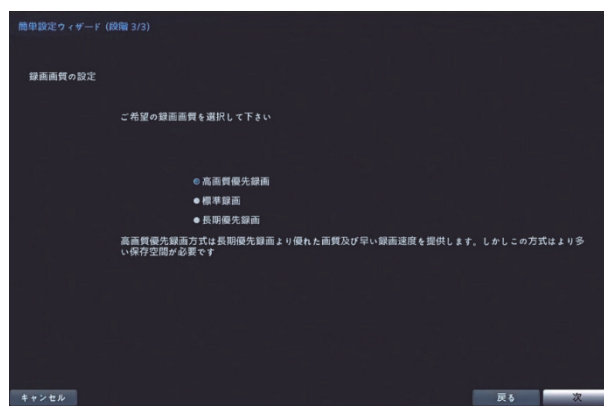
録画画質の設定

ご希望の“録画画質”を選択します。

参考: 高画質を選択すればするほどハードディスクで大きい空間を占めます。

参考: 選択した録画方法及び画質によってチャンネル当たりの録画速度、録画解像度 及び画質は以下のようです。

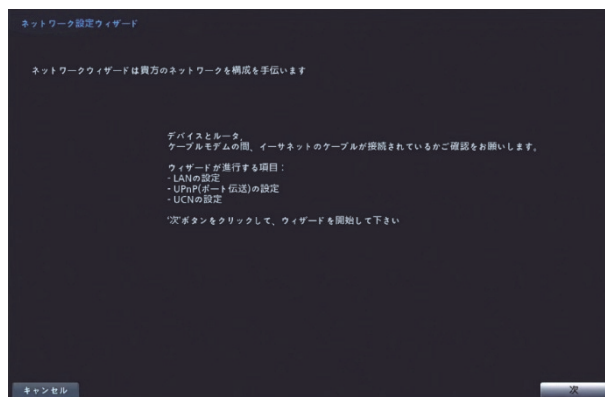
	高画質優先録画	標準録画	長期優先録画
モーション検知録画	30 ips / 最高画質 / 最高	15 ips / 高画質 / 最高	5 ips / 標準画質 / 高解像度
連続/モーション検知録画	連続、モーション: 30 ips / 最高画質 / 最高	連続: 15 ips / 高画質 / 最高 モーション: 30 ips / 最高画質 / 最高	連続: 5 ips / 標準画質 / 高解像度 モーション: 15 ips / 高画質 / 最高
連続録画	30 ips / 最高画質 / 最高	15 ips / 高画質 / 最高	5 ips / 標準画質 / 高解像度



“完了”を選択すると簡単設定ウィザードを完了します。“ネットワーク設定に移動”を選択するとネットワーク設定ウィザードを始めます。

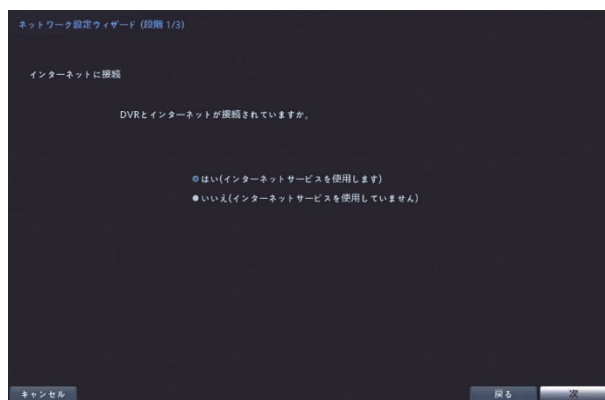


“次”を選択してネットワーク設定ウィザードを始めます。



インターネットに接続

インターネットに接続されているか選択します。



LANの設定

“自動構成”及び“手動構成”の中でご希望のネットワーク構成を選択して“テスト”を選択し、そのネットワーク構成を使用するか確認することができます。

参考: “自動構成”を選択するとIPアドレス、ゲートウェイ、サブネットマスク、DNSサーバのアドレスなどのLAN設定値を自動に取得します。“手動構成”を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することができます。

参考: “テスト”を選択し、そのネットワーク構成が使用可能であるか確認していなかった場合、次の設定に移動できる“次”のボタンを押すことができません。



UCNの設定

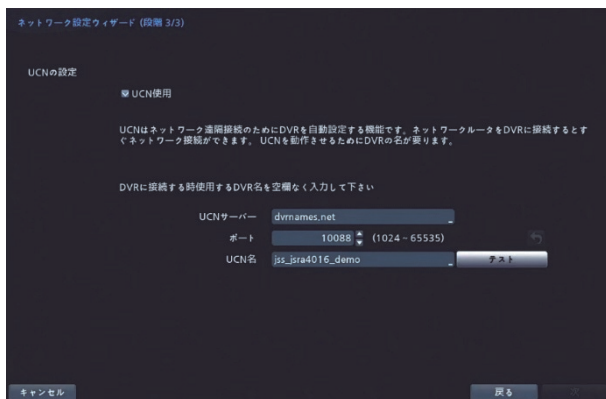
UCNサービスを使用するためには、“UCN使用”を選択してください。

参考: UCNは、インターネット接続を遠隔から把握し、ネットワークを簡単に接続できるよう、DVRを自動設定させる機能です。ネットワークルータをDVRに接続することで、即座にネットワークができます。また、UCNを動作させるため、UCN名（UCNに登録するDVRの名前）が必要です。

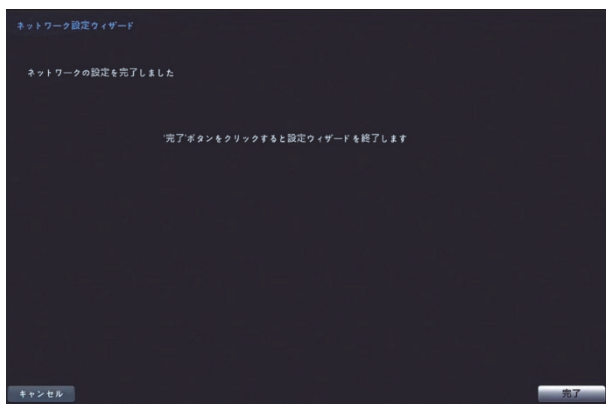
“UCN名”を選択してUCNサーバに登録するUCN名を入力後、“確認”を選択して入力したUCN名が使用できるかを確認できます。

参考: “確認”を選択して入力したUCN名を確認しなければUCN設定を保存できません。

参考: 名前を入力しないか、UCNサーバに登録済みの名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。



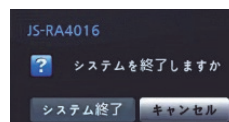
“完了”を選択して設定ウィザードを完了します。



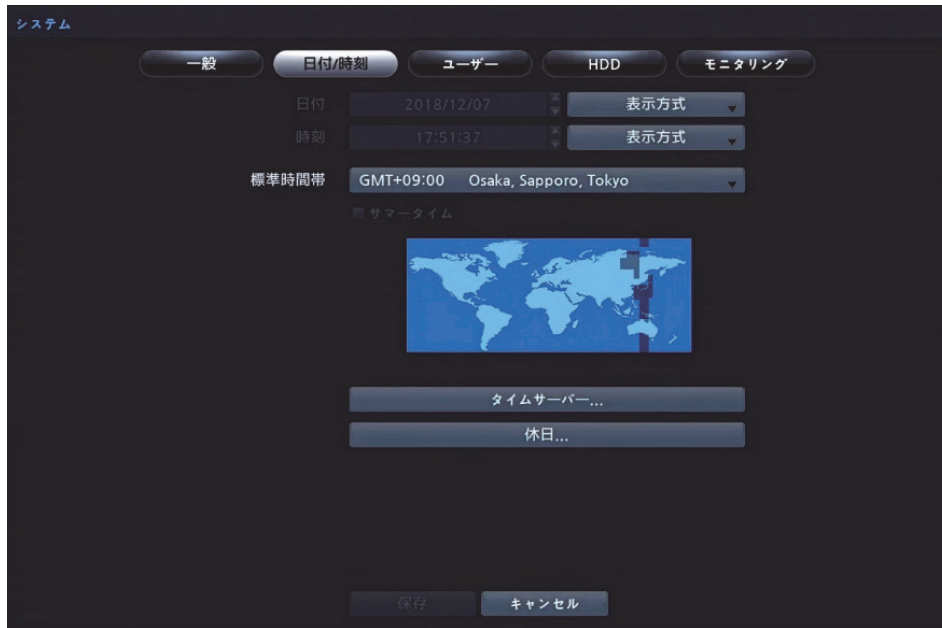
“トラブルシューティングレポート”部分を選択して  ボタンを押すかマウスをクリックすると、問題のトラブルシューティングのために生成されレポートをエクスポートできます。



“システム終了”を選択すると確認設定画面が表示され、もう一度“システム終了”を選択するとシステムは正常終了します。



日付/時刻



システム – 日付/時刻設定画面

“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時刻”を選択すると、矢印ボタンを利用して時刻を変更できます。“日付 – 形式”と“時刻 – 形式”を選択すると、日付表示方式と時刻表示方式を変更できます。

“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。以下の地図で前面パネルの左/右矢印ボタンを利用するかマウスホイールを上/下に動かして希望の標準時間帯を選択することもできます。“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

“タイムサーバー”を選択すると、タイムサーバーを選んでサーバとの時間の同期化の設定できます。

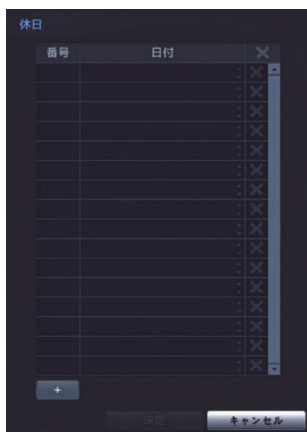


“自動調整”項目を選択してから、“タイムサーバー”のIPアドレスかドメイン名を入力するか ☒ を選択して登録されたタイムサーバーリストよりご希望のタイムサーバーを選択して、“調整間隔”を設定すると、調整間隔毎にタイムサーバーと時間を同期するようになります。“前回調整日時”項目は、最後に同期の行われた時間を表示します。

参考: “ネットワーク – LAN”設定で、DNSサーバを設定するとタイムサーバーのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

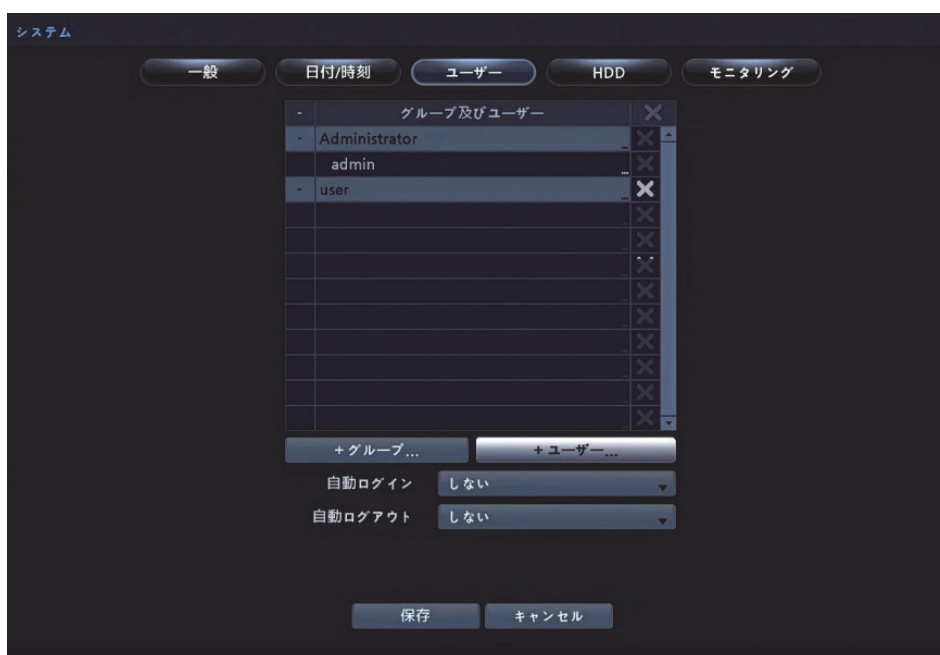
“サーバー作動”を選択すると、本装置がSNTPサーバとして動作するようになり、他の装置がこのサーバの時間に同期することが可能になります。

“休日”を選択すると、休日を追加/削除できます。



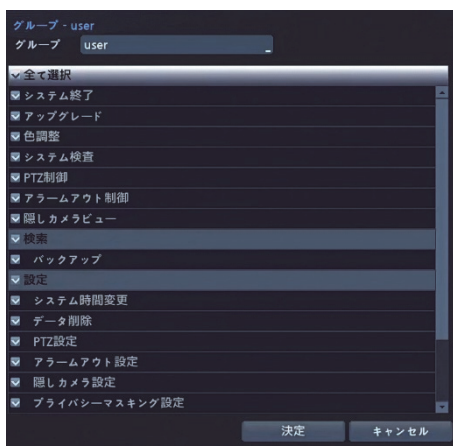
設定画面下段の“+”を選択して、任意の日付を休日に追加します。設定された日付の右側の✕表示を押して設定された休日を削除します。設定された休日の日には、録画スケジュール設定で設定した休日スケジュールに従って録画が行われるようになります。

ユーザー



システム - ユーザー設定画面

“+ グループ...”を選択するとキーボード入力画面が現れ、最高15文字までグループ名を指定できます。グループ名を指定してから該当グループの“権限”を選択します。設定できる権限のタイプとその内容は次の通りです。



- ・ システム終了 - ローカルでシステム終了を遂行できる権限で、システムメニューで“システム終了...”を実行できます。
- ・ アップグレード - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムアップグレードを遂行できる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“アップグレード”を実行できます。
- ・ 色調整 - ローカルとJSS遠隔監視システムで各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調値を調整できる権限です（各カメラのボタンをずっと押していると色相調節画面が表示されます）。
- ・ システム検査 - JSS遠隔監視システムでシステム検査の結果であるシステム状態を見ることのできる権限で、JSS遠隔監視システムで一括作業によってシステム検査を実行できます。

- ・ PTZ制御 - ローカルとJSS遠隔監視システムで各カメラのPTZを制御できる権限で、(PTZ)ボタンを押してPTZカメラを選択してから、PTZ関連ボタンによって制御できます。
- ・ アラームアウト制御 - ローカルとJSS遠隔監視システムでアラーム出力が発生した場合、これをリセットできる権限で、システムの前面パネル、リモコン、あるいはJSS遠隔監視システムのアラーム出力制御ボタンを押してアラーム出力をリセットできます。
- ・ 隠しカメラビュー - ローカルとJSS遠隔監視システムで監視モードや検索モードで隠しカメラに設定されたカメラを見ることのできる権限です。
- ・ 検索 - ローカルとJSS遠隔監視システムで保存された映像を検索できる権限です。
- ・ バックアップ - ローカルとJSS遠隔監視システムでバックアップできる権限です。
- ・ 設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムを設定できる権限で、この権限がない場合は、システム終了とログアウトを除いた全ての環境設定を遂行することができません。
- ・ システム時間変更 - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムの日付/時間を変更できる権限で、システムメニューで“日付/時間”の設定を実行できます。
- ・ データ削除 - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムの保存データを消すことのできる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“全てのデータ削除…”、HDD設定の“削除”と“初期化”を実行できます。
- ・ PTZ設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでPTZの設定ができる権限です。
- ・ アラームアウト設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでアラームアウトの設定ができる権限です。
- ・ 隠しカメラ設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムで隠しカメラの設定ができる権限です。
- ・ プライバシーマスキング設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでプライバシーマスキングの設定を行うことができる権限です。
- ・ 録画設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムで録画設定部分に属する環境設定を行える権限です。
- ・ 設定読込 - ローカルとJSS遠隔監視システムで以前保存したDVRの設定を読み込みできる権限です。
- ・ 設定保存 - ローカルとJSS遠隔監視システムで現在のDVRの設定を保存できる権限です。
- ・ VNC設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでVNCの設定ができる権限です。

“+ ユーザー…”を選択するとキーボード入力画面が表示され、ユーザー名を指定できます。ユーザー名を入力してからユーザーが属するグループを指定し、パスワードとE-mailを入力します。パスワードは最高16文字まで指定できます。

参考: マウスの右ボタンを用いてパスワード項目の右側の [] ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は“メニュー使用法—仮想キーボードを用いた文字入力”部分を参考してください。

上で作られたグループとユーザー項目右側の ✕ 表示を選択する場合、グループやユーザーを消すことができ、グループ“Administrator”とユーザー“admin”は削除できません。画面上段に“ユーザーとグループ”タイトル右側の ✕ 表示を利用して、グループAdministratorとユーザーadminを除いた全てのグループとユーザーを削除できます。システムまたは遠隔ソフトウェアで該当システムに現在ログインされている使用者はログアウトの状態でのみ削除できます。

すでに出来ているグループやユーザーを選択して、その設定値を変更することができます。ユーザーの設定値を変えるためには、パスワードを入力しなければなりません。グループAdministratorの権限オプションは変更できません。ユーザーadminを選択した場合、パスワード以外の他の情報は変更できません。

“自動ログイン”を選択して“キャンセル”とユーザーアカウントのうち一つを選択することができ、システムがブートして選択されたユーザーアカウントで自動的にログインします。“自動ログアウト”を選択して時間を設定すると、システムを設定された時間の間操作しなければ自動的にログアウトします。

HDD



システム - HDD設定画面

“タイプ”項目には、搭載されたディスクのタイプが表示され、“容量”項目には各ディスクの容量が表示されます。

“初期化”項目には初期化されたディスクの場合“録画”、“使用しない”の中に使用目的に合ったものが表示されます。初期化されていない保存媒体が接続した場合には“初期化されていません”と表示されます。



各ディスクの“初期化”を選択して録画用に初期化ができます。用途を“使用しない”に選択してフォーマットすると該当ディスクは録画に使用されません。



“情報”項目には搭載されたディスクのモデル名及びシリアルナンバーを見せ、ディスクが録画のために使われているかどうかが表示されます。他のシステムで使用されたディスクを接続した場合“外部”に表示されます。各ディスクの“情報”を選択して保存データの時間情報が確認でき、“削除”を選択して保存データを削除することもできます。

モニタリング



システム - モニタリング設定画面

“設定”の項目で各システムイベントの監視周期と監視項目の設定できます。

- ・ システム - 監視の周期を設定することができ、定期的な自己システムの点検が動作しないと異常と判断することができます。
- ・ 録画を確認 - 正常に録画スケジュールが設定されていても、設定されたスケジュールの日程上の監視周期の間に録画データが無ければ録画エラーに判断します。



“スケジュールオン”を選択してから曜日、時間範囲及び検査間隔を設定します。設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュールが追加されます。✕を選択すると検査スケジュールを削除することができます。

- ・ アラームインを確認 - 監視周期の設定ができ、アラームインが活性化されているのに設定された監視周期中にアラームイン状態に変化が生じない場合、異常と見なします。
- ・ ディスクフル警告 - 比率を80～99%まで設定でき、全体のディスク容量のうちその比率に上回る場合、イベントを発生させます。
- ・ ディスクエラー - 比率を10～90%まで10%単位で設定でき、全体のディスク容量のうち、その比率に上回って損傷して、それ以上使用できない場合、イベントを発生させます。
- ・ ディスク温度 - 上限温度が設定でき、保存スペースのうちどれか一つでも温度がこの温度値と同じになったり高くなったりした場合、ユーザーに知らせるようになっています。

“動作”の項目で各システムイベントが発生した際に実行されるアラームアウト（チャンネル、アラーム音）とお知らせ（メール、LAN1～5、アラーム画面）機能が設定できます。

参考: “システム”、“システム開始”、“システム再開”、“システム終了”と“緊急録画”イベントの場合、“アラームアウト”を選択することはできません。

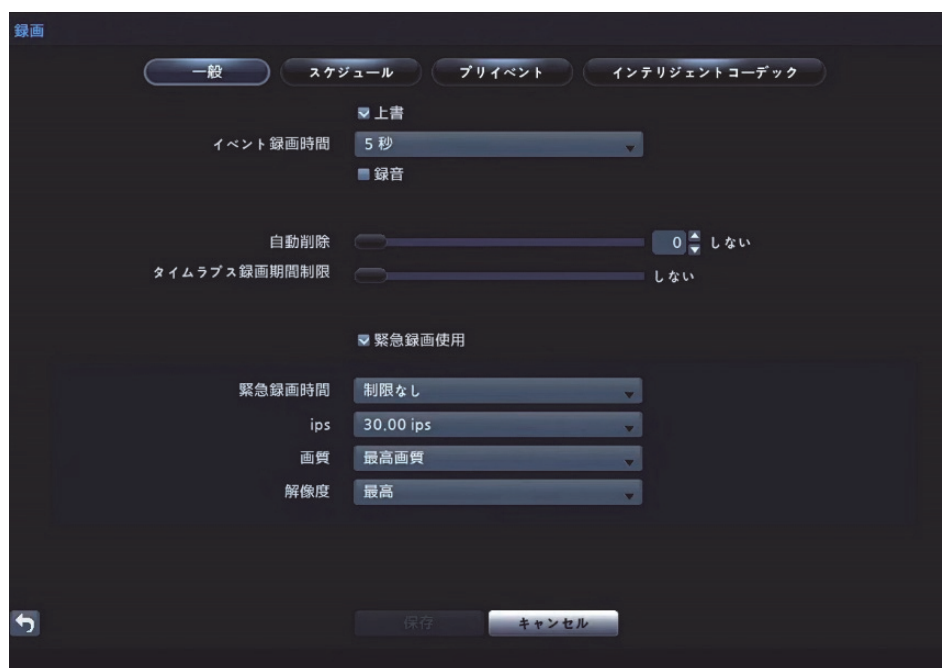
参考: “システム”イベントの場合、“メール”通知だけが選択できます。

参考: “システム”、“システム開始”、“システム再開”と“システム終了”イベントの場合、“アラーム画面”通知を選択できます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用しようとするDVRがJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

録画設定

一般



録画 - 一般設定画面

“上書”を選択した場合、録画ディスクが一杯になると古いデータから消去され、新しいデータが保存されます。“上書”を解除した場合は、録画ディスクが一杯になると録画が中止されます。システム設定 - ディスプレー設定で“残容量”を選択したならば、画面に残容量が表示されます。

“イベント録画期間”を1秒から30分（初期値5秒）まで設定できます。イベント発生時の動作で連動録画が指定されている場合、そのイベント録画期間で指定した時間だけ連動録画が実行されます。

本DVRは4チャンネルオーディオ録音をサポートします。“録音”を選択するとカメラがレコーディングする場合オーディオも一緒に録音されます。

“自動削除”を設定すると設定した期間が過ぎたら録画データを削除することができます。削除可能な期間は最小1日より最大999日まで設定でき、自動削除機能を使用したくない場合には“しない”に設定してください。例えば、“自動削除”を選択して期間を“30日”に設定すると現在時刻より30日前以降の時刻録画データのみ保存し、それより古い録画データは自動で削除されます。録画データは毎日零時に自動削除され、設定で“自動削除”設定を変更した時にも削除されます。

“タイムラプス録画期間制限”を設定してイベント録画映像をより長期間保存することができます。制限期間は1日より最大99日まで設定することが可能であり、タイムラプス録画期間制限機能を使用しないためには“しない”に設定してください。本機能は録画ディスクの容量が十分大きくて設定した期間より前のデータを保存した場合に作動し、上書きモードで録画ディスクがフルになって古いデータが上書きされるようになると設定した期間より前の“タイムラプス録画映像”データを上書きして新しいデータを保存します。

参考: ディスクへ保存した映像の期間が設定した“タイムラプス録画期間制限”期間より短い場合は普段と同じく“イベント録画映像”と“タイムラプス録画映像”の中で古いデータを上書きします。

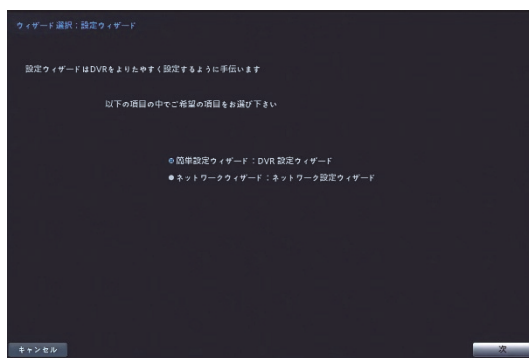
参考: 録画画質及び解像度、モーションあるいはその他のユーザーの設定内容によってシステムの録画期間が変更されることもあるため場合によっては“タイムラプス録画期間制限”より設定した期間が保証されない場合もあります。

“緊急録画使用”を選択して緊急録画機能を用いるかどうかを設定できます。

“緊急録画期間”を設定して緊急録画を自動に解除することができます。緊急録画期間は5分～1時間まで設定でき、自動解除機能を使用しない場合は“制限なし”に設定してください。

“ips”、“画質”、“解像度”項目で緊急録画の際の録画速度、画質、解像度を設定できます。“画質”値は、“最高”、“高”、“標準”、“ベーシック”に変更ができ、“解像度”値は、“最高”、“高”、“標準”に変更できます。

スケジュール



< 単純モード >



< 高级模式 >

録画スケジュール設定画面

“スケジュールオン”を解除すると、スケジュールに関係なく録画が中断されます。この状況はユーザーが意図的にスケジュールを解除した状況であることを強調するために、各カメラ画面の左上段に🕒アイコンが表示されます。その場合、⚠️ボタンを押すと🔴表示と共に緊急録画は遂行されます。

録画スケジュールのモードを“単純モード”と“高级模式”のどちらかを選択することができます。“高级模式”を選択すると各イベントについて別々の録画スケジュールを設定することができます。

参考: 録画スケジュールモードを変更すると変更時動作していたイベント連動アクションを停止します。

設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュールが追加されます。

録画スケジュールを設定する“曜日”の選択ができます。“範囲”を選択して望みの時間範囲の選択ができます。

“モード”を“録画しない”、“連続録画”、“イベント”または“指定時間 & イベント”に設定することができます。（単純モードに限る）

“モード”を“録画しない”に設定することができ、その場合には⚠️ボタンを押さない限りスケジュール上の該当曜日、時間の範囲の中では録画はされません。

“モード”を“連続録画”に設定すると、画面左上段に🕒が表示され、スケジュールされた時間帯ならば🔴が画面左上段に表示されて録画が進行します。

“モード”を“イベント”に設定すると、画面左上段に赤い🔥が表示され、そのイベントが発生すると🔴が表示されて録画が進行します。プリイベント設定になっていると、イベントが発生せず録画されていない時は黄色い🔥と🔴が表示されます。イベントが発生してプリイベント録画が行なわれている場合は赤い🔥と🔴が表示されます。

“モード”を“指定時間 & イベント”に設定すると、画面の上に🕒が表示され、時間に合った画質で録画され、イベントが発生すると赤い🔥に変わり、イベントに合った画質で録画されます。

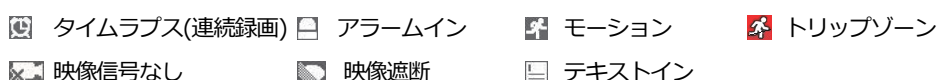
“チャンネル”を選択してスケジュールを適用するカメラを選択できます。（単純モードに限る）

“設定”を選択すると、“ips”、“画質”、“解像度”を設定できます。別途に設定しなければ下図の“初期値…”で設定した初期値に従うようになります。高級モードでは各イベントに対する連動イベント録画期間を設定することができます。



スケジュール - 設定（高級モード）設定画面

参考: “タイプ”項目から表示するアイコンの意味は下記の通りです。



参考: スケジュールの高級モード設定メニューから設定していないチャンネルは上位スケジュールの設定値が適用されます。

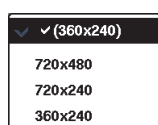
参考: 高級モードが設定されている場合、特定チャンネルで複数のイベントが発生して録画する場合、各イベント録画に対する“ips”、“画質”、“解像度”及び“時間”の設定値が異なるとより高い設定値を適用します。ただし、“ips”、“画質”及び“解像度”がすべて最大値に設定されている場合は“ips”はシステムがサポートする最大設定値を適用します。

✕を選択してスケジュールを削除することができます。

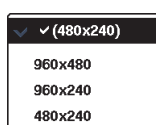
参考: 高級モードが設定されている場合、解像度の設定時、イベント別の一括設定やイベントの各チャンネル別の個別設定ができます。イベント別の一括設定では“最高”、“高”、“標準”の中で一つを選択します。“最高”を選択した場合、各カメラモード（720、960、HD、Full HD、3MP、4MP Half、4MP、5MP）で対応する最高の解像度を、“標準”を選択した場合は最低の解像度を、“高”を選択した場合はその以外の解像度を適用します。イベントの各チャンネル別の個別設定では各カメラのモードで該当モードが対応する解像度を選択することができます。



<イベント別の設定>



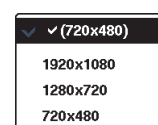
<カメラモード - 720>



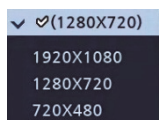
<カメラモード - 960>



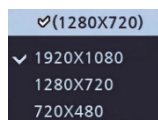
<カメラモード - HD>



<カメラモード - Full HD>



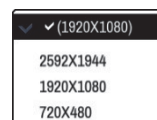
<カメラモード - 3MP>



<カメラモード - 4MP Half>



<カメラモード - 4MP>



<カメラモード - 5MP>

参考: スケジュール上でダブった区間については、下の列のスケジュールが上の列のスケジュールに優先して適用されます。

“初期値…”を選択して連続録画及びイベント録画モードの録画速度、画質、解像度の初期値をそれぞれ設定することができます。各スケジュールに他の設定がない場合“初期値（連続録画及びイベント録画）”に設定されている録画速度、画質、解像度で連続録画及びイベント録画が行われます。高級モードではイベント録画期間を設定することが可能であり、イベント発生の場合は連動録画が設定されていた

ら指定した時間分連動録画が行われます。

初期値

モード	ips	画質	解像度	時間
連続録画	30.00 ips	高画質	高解像度	
イベント	30.00 ips	最高画質	最高	5 秒

決定キャンセル

プライベート

録画

一般スケジュール**プライベート**インテリジェントコーデック

番号	ips	画質	解像度	時間
1	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
2	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
3	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
4	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
5	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
6	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
7	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
8	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
9	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
10	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
11	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
12	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
13	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
14	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
15	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒
16	30.00 ips	標準画質	720X480	00 分 05 秒

保存キャンセル

録画 – プライベート設定画面

もしスケジュール上にイベントモードスケジュールが一つもない場合は、プライベート録画のためにイベントモードスケジュールをリストに追加せよというアラームメッセージが表示されます。

参考: “指定時間 & イベント”モードの場合にもアラームメッセージが表示されます。

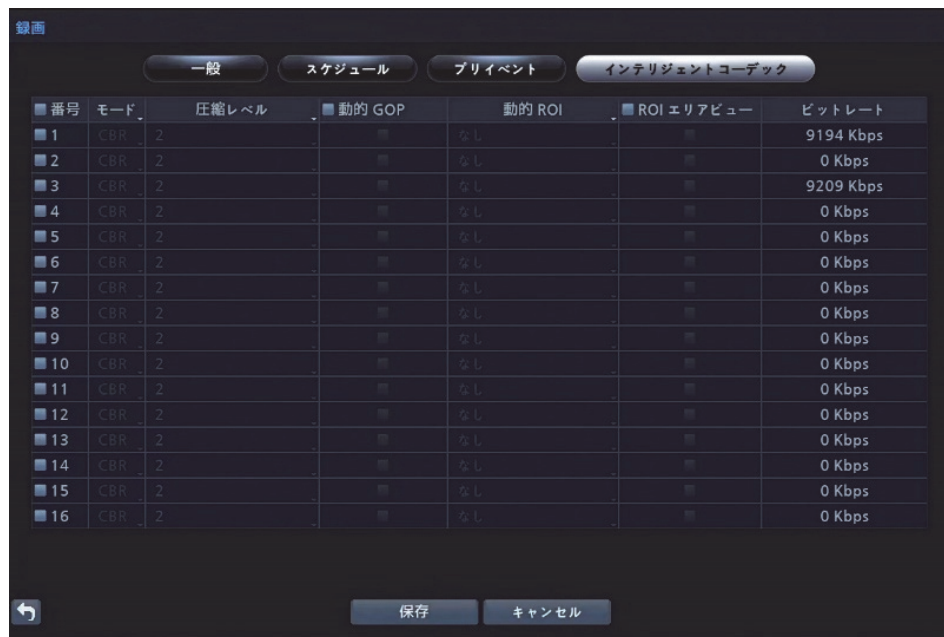
“番号”を選択/解除して、プライベートを設定するカメラを選択/解除できます。

録画する“ips”、“画質”、“解像度”を設定できます。

“期間”を設定できます。指定した時間が延びると設定可能な最大ips値が小さくなります。

参考: 連続録画時間中はプライベート録画が無効であること。

インテリジェントコーデック



録画 – インテリジェントコーデック設定画面

インテリジェントコーデックを使用してビットレートを下げます。

“モード” でCBRとVBRの間に表示されます。

“圧縮レベル”でVBRの圧縮レベルやDynamic ROIの設定時に圧縮レベルを選択することができます。1（最小圧縮）～3（最大圧縮）の3段階で設定することができます。ROI（Region Of Interest）は、圧縮映像フレーム内の他の領域に比べて相対的にビットレートを高く維持するための領域を指します。

“動的GOP”を選択すると、動きが感知されないときは、GOPを動的に上げてビットレートを下げることができます。GOP（Group Of Pictures）は、圧縮映像フレームのセットをいい、単一の完全な図であるIフレームと前のフレームで変わった部分だけ持つPフレームで構成されます。一般的に、IフレームはPフレームよりもデータサイズが大きい特性を有するので、Iフレームの生成頻度を下げ、全体的なビットレートを下げることができます。

“動的ROI”設定で動きが感知されたり、複雑なエリアは相対的に高く維持し、そうではないエリアはビットレートを下げたりすることができます。

“モーション”を選択すると、動きが感知されたエリアのビットレートを高く維持します。

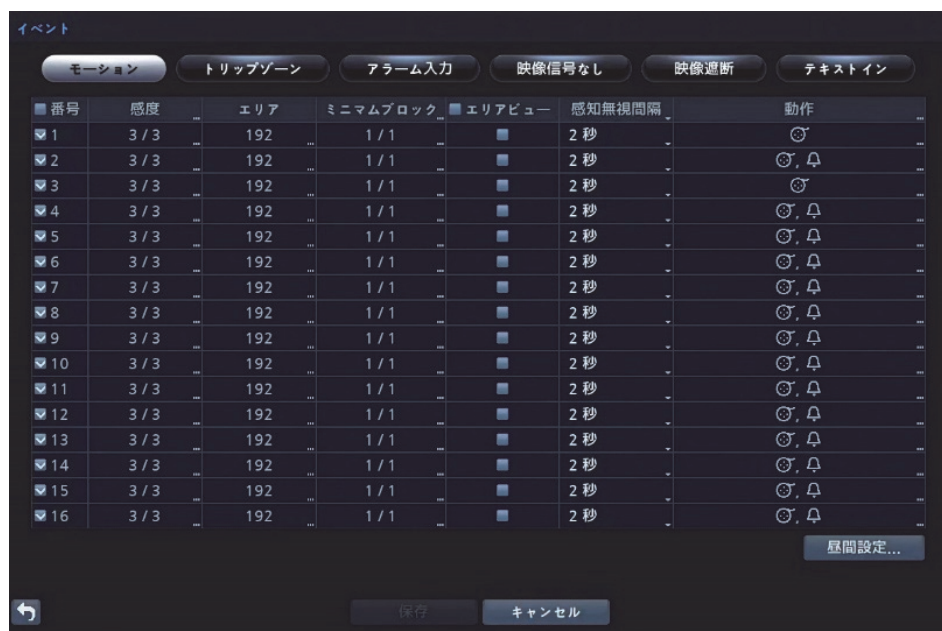
“モーション& Detail”を選択すると、動きが感知されたり、複雑なエリアのビットレートを高く維持されたりします。

“ROI エリアビュー”を選択すると、動きが感知されたり、複雑でビットレートが高く維持されたりするエリアを表示します。エリアビューモードでビットレートが高いエリアは緑色に表示されます。本機能を設定すると、モーション感知およびトリップゾーン感知エリアビュー機能は作動しません。

“ビットレート”は現在録画されているデータのビットレートを表示します。

イベント設定

モーション



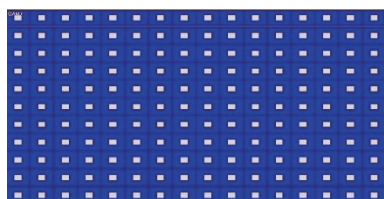
イベント - モーション設定画面

“番号”を選択/解除して、モーション感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。

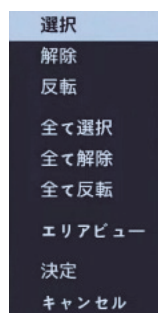


“感度”を選択するとモーション感度の敏感度を設定する画面が表示されます。1（低感度）～5（高感度）の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもできます。

各カメラ別に“エリア”を選択すると、画面がモーション感知エリア設定画面に変わります。エリア設定はモーション感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。



エリア設定画面で矢印ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。選択画面は16個のブロックサイズの一行に該当します。カメラボタンで各ブロックを選択/解除できます。エリア設定モードで  ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。



エリア設定で、“選択”は一行に該当するブロックを選択し、“解除”は一行に該当するブロックを解除します。“反転”は、一行に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“全て選択”は画面全体のブロックを選択し、“全て解除”は画面全体のブロックを解除します。“全て反転”は、画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“エリアビュー”を選択してモーションに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したモーション感知エリアが表示され、エリア内のモーション感知は赤色枠で表示されます。“決定”は、変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。“キャンセル”を選択すると、変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。



“ミニマムブロック”を選択するとモーション感知のミニマムブロックを設定する画面が表示されます。設定したブロックの個数以上のエリアでモーションが発生したらモーション感知イベントが発生します。昼間と夜間を区分して設定することができます。

“エリアビュー”を選択してモーションに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したモーション感知エリアが表示され、エリア内のモーション感知は赤色枠で表示されます。

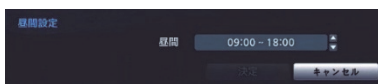
“動作”を選択してモーション感知時に行う動作を設定することができます。

- ・ 録画: モーション感知時に連動録画するカメラを選択することができます。モーション感知が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・ アラーム出力: モーション感知時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択できます。
- ・ 通知: モーション感知時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- ・ PTZ: モーション感知時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

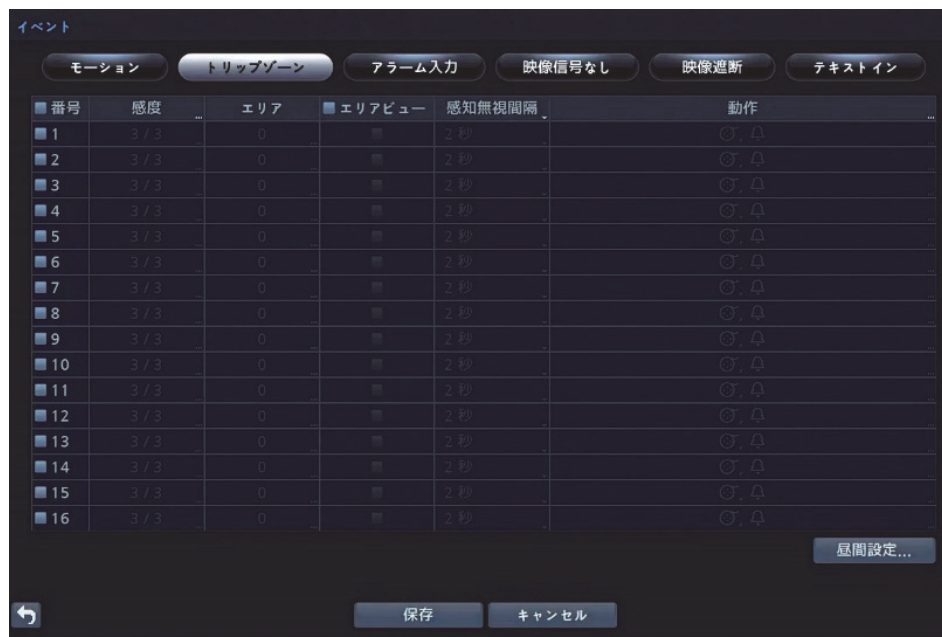
“モーション感知無視間隔”を設定するとモーションが感知された以後、設定した間隔の間に発生するモーションに対してイベントログを残さず遠隔地通報もしません。1秒～10秒または“しない”を選択することができます。

参考: “モーション感知無視間隔”を設定してもモーション感知連動録画は録画設定の通り録画します。



“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。

トリップゾーン



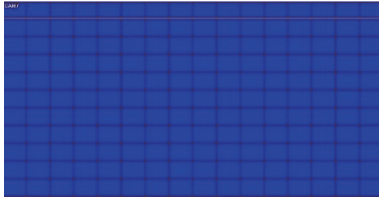
イベント - トリップゾーン設定画面

“番号”を選択/解除して、トリップゾーン感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。

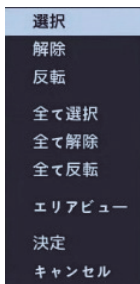


“感度”を選択するとトリップゾーン感度の敏感度を設定する画面が表示されます。1（低感度）～5（高感度）の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもできます。

各カメラ別に“エリア”を選択すると、画面がトリップゾーン感知エリア設定画面に変わります。エリア設定はトリップゾーン感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。



エリア設定画面で矢印ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。選択画面は16個のブロックサイズの一行に該当します。カメラボタンで各ブロックを選択/解除できます。エリア設定モードで  ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。



エリア設定で、“選択”は一行に該当するブロックを選択し、“解除”は一行に該当するブロックを解除します。“反転”は、一行に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“全て選択”は画面全体のブロックを選択し、“全て解除”は画面全体のブロックを解除します。“全て反転”は、画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“エリアビュー”を選択してトリップゾーンに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したトリップゾーン感知エリアが表示され、エリア内のトリップゾーン感知は赤色枠で表示されます。“決定”は、変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。“キャンセル”を選択すると、変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。

“エリアビュー”を選択してトリップゾーンに対するDVRの反応を確認することができます。エリアビューモードからは設定したトリップゾーン感知エリアが表示され、エリア内の外部から内側に向かうトリップゾーン感知は青色枠で表示されます。

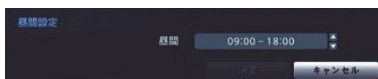
“動作”を選択してトリップゾーン感知時に行う動作を設定することができます。

- ・録画: トリップゾーン感知時に連動録画するカメラを選択することができます。トリップゾーン感知が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・アラーム出力: トリップゾーン感知時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- ・通知: トリップゾーン感知時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- ・PTZ: トリップゾーン感知時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

“トリップゾーン感知無視間隔”を設定するとトリップゾーンが感知された以後、設定した間隔の間に発生するトリップゾーンに対してイベントログを残さず遠隔地通報もしません。1秒～10秒または“しない”を選択することができます。

参考: “トリップゾーン感知無視間隔”を設定してもトリップゾーン感知連動録画は録画設定の通り録画します。



“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。

アラーム入力

番号	タイトル	タイプ	動作
☒ 1	Alarm-In 1	NO	録画
☒ 2	Alarm-In 2	NO	録画
☒ 3	Alarm-In 3	NO	録画
☒ 4	Alarm-In 4	NO	録画
☒ 5	Alarm-In 5	NO	録画
☒ 6	Alarm-In 6	NO	録画
☒ 7	Alarm-In 7	NO	録画
☒ 8	Alarm-In 8	NO	録画
☒ 9	Alarm-In 9	NO	録画
☒ 10	Alarm-In 10	NO	録画
☒ 11	Alarm-In 11	NO	録画
☒ 12	Alarm-In 12	NO	録画
☒ 13	Alarm-In 13	NO	録画
☒ 14	Alarm-In 14	NO	録画
☒ 15	Alarm-In 15	NO	録画
☒ 16	Alarm-In 16	NO	録画

イベント - アラーム入力設定画面

“番号”を選択/解除して、アラーム入力を選択/解除できます。

“タイトル”を選択してからキーボード入力画面を使用してタイトルを入力できます。

“タイプ”を選択してアラームのタイプを変更することができます。

“動作”を選択してアラーム入力の発生時、実行する動作を設定することができます。

- ・ 録画: アラーム入力発生時に連動録画するカメラを選択することができます。アラーム入力が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・ アラーム出力: アラーム入力発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- ・ 通知: アラーム入力発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- ・ PTZ: アラーム入力発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

映像信号なし

イベント - 映像信号なし設定画面

“ビデオロス検知時間”は映像信号なしが感知された後、状態が持続して映像信号なしのイベントを発生させる基準時間です。従って、映像信号なしが感知されても、設定した期間以内に再び映像信号が元通りになった場合、映像信号なしのイベントとみなしません。

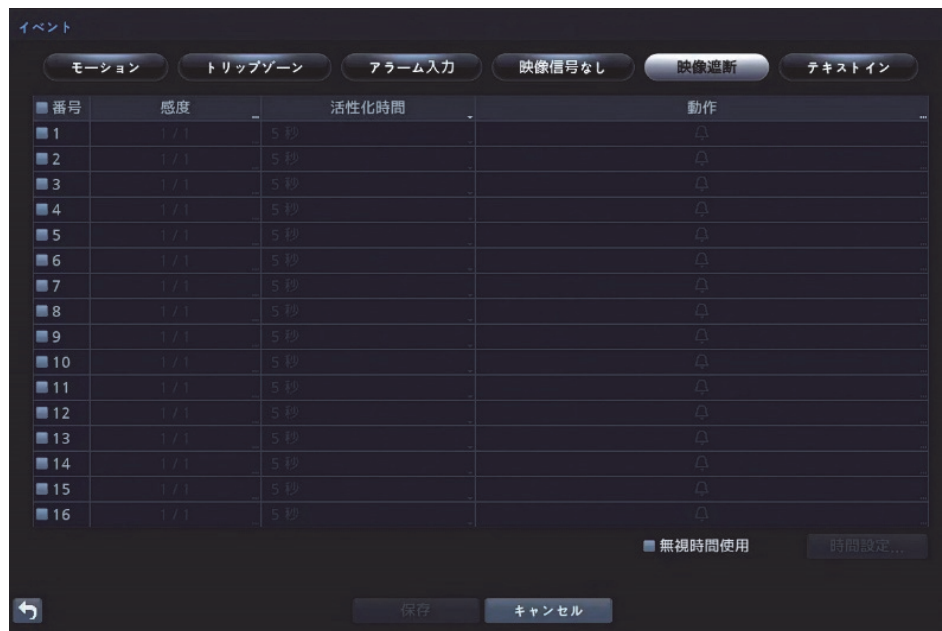
“動作”を選択して映像信号なしが発生時に実行する動作を設定することができます。

- ・ 録画: 映像信号なしが発生時に連動録画するカメラを選択することができます。映像信号なしが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・ アラーム出力: 映像信号なしが発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- ・ 通知: 映像信号なしが発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- ・ PTZ: 映像信号なしが発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

“無視時間使用”を選べると、設定した時間の間、映像信号なし感知機能が作動しません。“時間設定...”を選択して映像信号検知無視間隔を設定します。

映像遮断



イベント - 映像遮断設定画面

“番号”を選択/解除して、映像遮断感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。

“感度”を選択して、0（使用しない）または1（低い）～15（高い）の間の値に感度値を変更することができ、黒および白をそれぞれ設定します。

参考: ノイズのひどいカメラの場合、感度を低く設定すると映像遮断が感知されない恐れがあります。

“活性化時間”は映像遮断が感知されてから映像遮断イベントを発生させる基準時間です。したがって、映像遮断が感知されても設定された活性化時間以内に再び映像信号が元通りに回復されたら映像遮断イベントは発生しません。

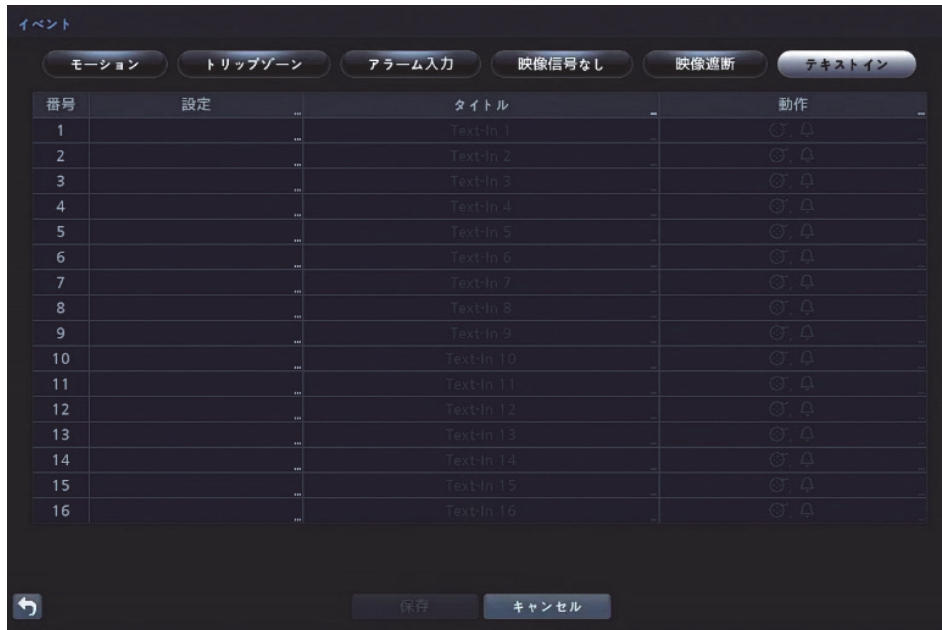
“動作”を選択して映像遮断が発生時、行う動作を設定することができます。

- ・ 録画: 映像遮断が発生時に連動録画するカメラを選択することができます。映像遮断が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・ アラーム出力: 映像遮断が発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択できます。
- ・ 通知: 映像遮断が発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- ・ PTZ: 映像遮断が発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

“無視時間使用”を選択すると設定した間、映像遮断感知機能が作動しません。“時間設定...”を選択して映像遮断無視間隔を設定します。

テキストイン



イベント－テキストイン設定画面

各番号の“設定”を選択して該当番号のテキストイン装置を選択することができます。また“設定”タイトルを選択するとポート設定を除いた他の設定を全てのテキストイン装置にできます。

参考: 多くのチャンネルに大量のテキストインが同時入力されるとシステムの性能に影響を与えるおそれがあります。

ポートをRS232、RS485、USB-Serial 1～8、LAN 1～16の中でひとつを選択する場合、ポート設定ボタンが活性化します。“設定”ボタンを押して“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”値を正しく設定してください。

参考: USB-シリアルポートを使用する場合、システム稼動中USBケーブルを抜くとテキストイン機能が誤動作する場合があります。

参考: テキストインが16個LANチャンネルから同時に受信される場合、テキストインデータのバッファ不足により、一部のデータが失われる可能性があります。

テキストインの“製品”を選択すると、ポート設定の下の部分で該当テキストイン装置に合わせて設定画面が変更表示されます。現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関連した設定内容です。

“開始文字列”を選択すると、これに該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションがスタートするものと認識します。開始文字列を“任意文字からスタート”に指定することができます。その場合、どんな文字が入力されても一つのトランザクションがスタートするものと認識します。

“終了文字列”を設定すると、該当する文字列が入力された場合に一つのトランザクションが終わるものと認識されます。終了文字列の前に“0ライン追加”を選択して、1～10の間の値で設定することができます。終了文字列で文字列が入力されてから、ここで設定した追加ラインだけさらに入力されると一つのトランザクションが終わったものと認識します。

“改行文字列”を選択して、行の終りを決定する文字列を入力することができます。コントロール文字は  を押して^ に続けて文字を選択すれば入力できます。例えば、Carriage Returnは「^M」で、Line Feed (New Line) は「^J」です。

“無視文字列”を選択して、トランザクションを記録する場合に除外する文字列を設定することができます。

“大小文字区分”を選択/解除して、“開始文字列”、“終了文字列”、“改行文字列”、“無視文字列”で設定した文字列が大小文字を区分する/しないを選択できます。

参考: コントロール文字の場合、“大小文字区分”の選択有無は影響しません。

“トランザクションタイムアウト”期間を設定すると最後の文字列が入力されてから設定した時間の間、新しい文字列が入力されないといつのトランザクションを終了します。時間は5秒～15分まで設定することができます。

“タイトル”を選択するとテキストイン装置のタイトルを設定することができます。

“動作”を選択してテキストイン発生時、行う動作を設定することができます。

- ・ 録画: テキストイン発生時に連動録画するカメラを選択することができます。テキストインが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- ・ アラーム出力: テキストイン発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- ・ 通知: テキストイン発生時に実行される機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- ・ PTZ: テキストイン発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

参考: 通知（コールバック）機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。



ネットワーク設定

一般



	ips	画質	解像度
第一ストリーム	30.00 ips	標準画質	標準
第二ストリーム	15.00 ips	標準画質	標準

ネットワーク - 一般設定画面

“マルチストリーム”項目を選択すればひとつ以上のストリームに対応します。JSS遠隔監視システムなどの 遠隔プログラムから画面分割モードまたはチャンネルに応じて互いに異なるストリームを使用するように設定することができます。

“ips”を設定すると、設定した速度以下でのみ映像がネットワークに伝送されます。“画質”を設定すると、設定した画質で映像がネットワークに伝送されます。“解像度”を設定すると、設定した解像度で映像がネットワークに伝送されます。伝送速度の単位はbpsまたはipsのどちらかを選択することができます。

参考: 再生中、ネットワーク伝送速度が低下する場合があります。

参考: 映像伝送速度は最高速度です。ネットワーク環境により設定した速度以下の映像が伝送されることがあります。

“ネットワークバンド幅制限”の項目で、制限したい帯域幅を設定します。

参考: ネットワーク帯域幅を制限する場合、遠隔プログラムの監視映像が不自然な映像になる恐れがあります。

“遠隔オーディオチャンネル”を設定すると、遠隔オーディオ動作時、選択したチャンネルのオーディオがJSS遠隔監視システムで伝送されます。“遠隔ソフトより選択”を選ぶとJSS遠隔監視システムから選択されたチャンネルのオーディオが伝送されます。

参考: オーディオ伝送時、ネットワーク環境によって音声の途切れやオーディオ同期のズレが生じることもあります。

“データ伝送をするためのSSLを適用”を選択すると遠隔プログラムを用いて映像を監視したり録画したりする時、遠隔監視または遠隔録画のために伝送されるデータ(映像及び音声除外)にSSL(Secure Sockets Layer)認証を利用したセキュリティ機能が適用されます。ただし、SSL機能を使用する場合SSL機能の支援が出来ない遠隔プログラムは本DVRに接続できません。

参考: SSL設定を変更すると、それを反映するためにDVRの遠隔接続がしばらく切断されます。

参考: この製品はOpenSSLツールキットを利用するために、OpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含んでいます(<http://www.openssl.org/>)。

LAN

タイプの横のボックスを選択して手動、DHCPを選択することができます。



“タイプ”で“DHCP”を選択した場合、DHCPでネットワークに接続されているDVRのネットワークの設定ができます。“保存”を選択するとDHCPサーバからIPアドレスなどのネットワーク情報を自動で受け入れます。ネットワーク情報を受け入れるとIPアドレスの項目にDVRの現在IPアドレスが表示されます。

“自動”（デフォルト値）を選択するとDNSサーバのIPアドレスを自動に取得します。

参考: “自動”項目の選択はDVRがDHCPネットワークである場合のみ有効です。

参考: DVRの設定がDHCPの場合、DVRのIPアドレスは接続する度に変わる可能性があります。



“手動”を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することが出来ます。“IPアドレス”、“ゲートウェイ”、“サブネットマスク”の各項目を選択してから上下矢印ボタンで増加できます。

工場出荷時のLAN設定:

IPアドレス: 192.168.1.129
ゲートウェイ: 192.168.1.254
サブネットマスク: 255.255.255.0

“DNSサーバ”を選択してDNSサーバのIPアドレスを入力します。

“ポート番号設定…”を選択すると遠隔管理/遠隔コールバック/遠隔監視/遠隔検索/遠隔オーディオプログラムの各ポート番号を8000より12000までの番号で選択でき、DVRのポート番号を変更した時PCの遠隔ソフトも同様に変更する必要があります。



工場出荷時のIPポート設定:

遠隔管理: 8200
遠隔コールバック: 8201
遠隔監視: 8016
遠隔検索: 10019

参考: ポートの変更はファイアウォールなどを使用する場合に、ファイアウォールで許可されるポート番号に変更する際に使用します。

参考: 各プログラムのポート値は互いに異ならなければならず、ポート値が同じ場合はJSS遠隔監視システム及びWEB Clientにアクセスできません。

注意: ポート値を変更する場合、JSS遠隔監視システムの遠隔地点IPポート設定も同じ値に変更してください。詳しい事項は、JSS遠隔監視システム取扱説明書を参照してください。

参考: ポートを変更すると、それを反映するためにシステムが再起動されます。

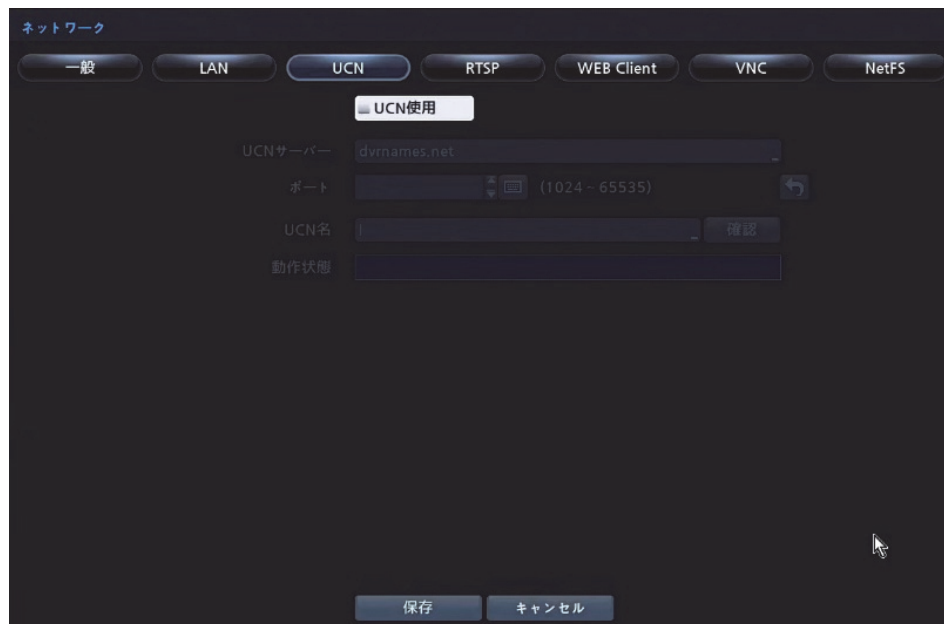
UPnP (Universal Plug and Play、ユニバーサルプラグアンドプレイ) サービスを使用するには“UPnP使用”を選択してください。UPnPサービスを通じてIPルータ (またはNAT) 使用時そのデバイスでDVRへのポートフォワーディングを自動に行えて、この機能は私設IPアドレスで構成されたポートに接続する際、活用されます。

参考: UPnPサービスを使用する為には使用するIPルータ (またはNAT) がUPnPポートフォワーディング機能を支援しなければいけませんし、その機能が使用できるように活性化されていなければいけません。

参考: “UPnP使用”を選択するとポート番号は変更できません。

“状態”を選択するとUPnPサービスを通じてIPルータ (またはNAT) でDVRにポートフォワーディングされた番号が表示されます。

“テスト”を選択すると、現在設定された値で、LANの接続状態がテストできます。



ネットワーク – UCN設定画面

UCNサービスを使用するためには、“UCN使用”を選択してください。

参考: UCNは、インターネット接続を遠隔から把握し、ネットワークを簡単に接続できるよう、DVRを自動設定させる機能です。ネットワークルータをDVRに接続することで、即座にネットワークができます。また、UCNを動作させるため、UCN名（UCNに登録するDVRの名前）が必要です。“UCNサーバ”を選択してUCNサーバのIPアドレスかドメイン名を入力します。

参考: “LAN”設定で、DNSサーバを設定するとUCNサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

ポートの横のボックスを選択してUCNサーバのポート番号を入力してください。ポート番号は10000～12000が設定できます。

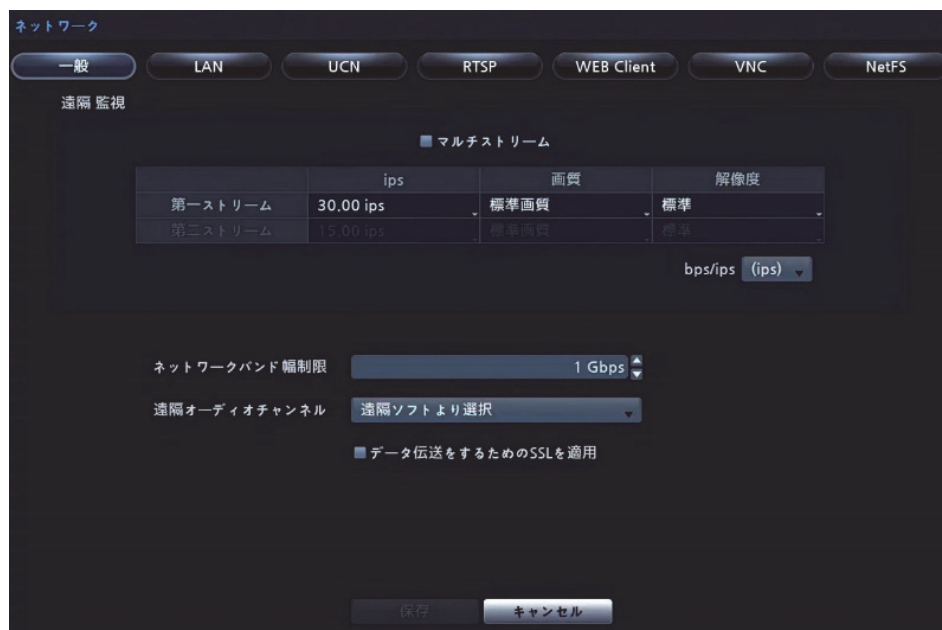
“UCN名”を選択してUCNサーバに登録するDVRのネームを入力します。入力後“確認”を選択して入力したネームが使用できるかどうかを確認できます。

参考: “確認”を選択して入力したUCN名を確認しなければUCN設定を保存できません。

参考: 名前を入力しないか、UCNサーバに登録済みの名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。

“動作状態”項目はランデブーサーバとの接続状態を見せます。

参考: ユーザーのネットワーク環境により、UCNサービスが動作されず、ネットワーク接続ができないこともあります。この場合、ポートをマニュアルで設定する必要があります。ポート設定に関する詳しい内容は“LAN”の設定をご参照ください。



ネットワーク – RTSP設定画面

RTSP(Real-Time Streaming Protocol、リアルタイムストリーミングプロトコル)サービスの使用には“RTSP使用”を選択してください。

“RTSPポート”を選択してRTSPサーバのポート番号を選択することができます。

“RTPポート”を選択してRTSPスタートポート及び最後ポート番号を選択することができます。

“モバイル使用”を選択するとBlackBerryのようなモバイルデバイスを用いて遠隔地でDVRに接続できます。

参考: “モバイル使用”を選択する場合、ネットワーク - WEB Clientの設定と関係なくWEB Clientは常に使用するよう自動設定されます。

参考: RTSPサービスを支援するメディアプレーヤーを通じて遠隔地でDVRに接続してリアルタイムの映像を監視することができます。接続方法は以下のようです。

- ・ PCを通じた接続: メディアプレーヤー (VLCプレーヤーなど) を実行してから“rtsp://ID:パスワード@IPアドレス:RTSPポート番号/trackID=チャンネル番号&ストリームID=ストリーム 番号”入力
- ・ モバイルデバイス (BlackBerryなど) を通じた接続: IEを実行してからhttp://IPアドレス:WEB Clientポート番号/”入力

参考: Black berryまたはAndroidデバイスを用いてDVRに接続する場合、ルータを使っているかFirewallが設定されていればUDPポートを全てオープンしなければなりません。

参考: 一部のメディアプレーヤーではネットワークの状態によって綺麗な映像の再生ができない場合があります。

参考: RTSPサービスはお使いになっているメディアプレーヤーの種類によって支援されない場合があります。

WEB Client

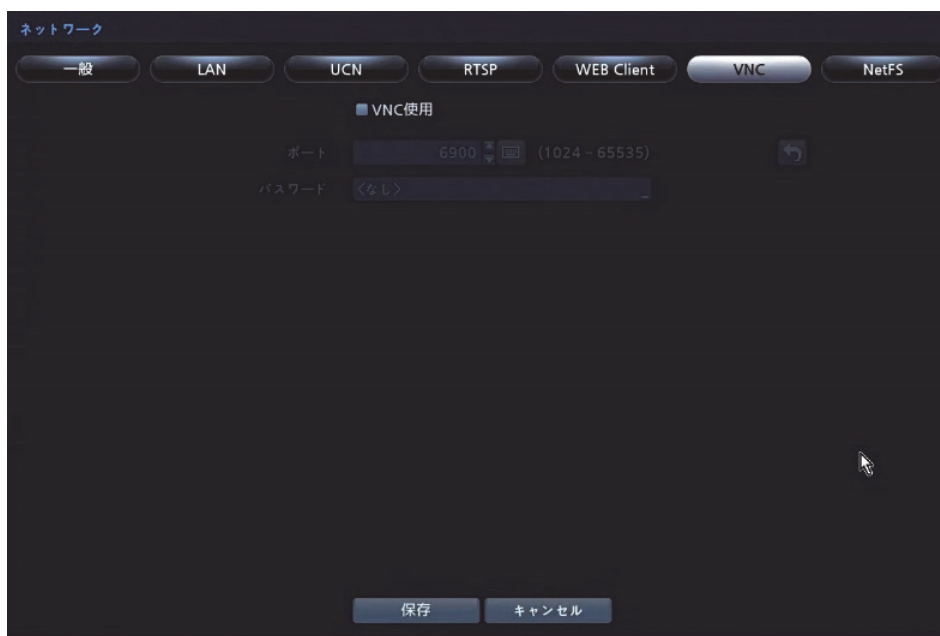


ネットワーク – WEB Client設定画面

WEB Clientを使用するためには“WEB Client”画面で“WEB Client使用”を選択してください。WEB Clientの詳細内容は“付録 – WEB Client”を参考してください。

WEB Client接続に使用するポート番号は12001から14000までの番号の中で選択することができます。

VNC



ネットワーク – VNC設定画面

VNC(Virtual Network Computing、仮想ネットワークコンピューティング)サービスを使用するためには“VNC 使用”を選択してください。

参考: VNCサービスとは、遠隔地からPCかモバイルデバイスを用いてネットワークを通じてDVRに接続してコントロールする機能です。

“ポート”を選択してVNCサーバのポート番号を選択することができます。

“パスワード”を選択して遠隔でDVR 接続に使用するパスワードを設定することができます。

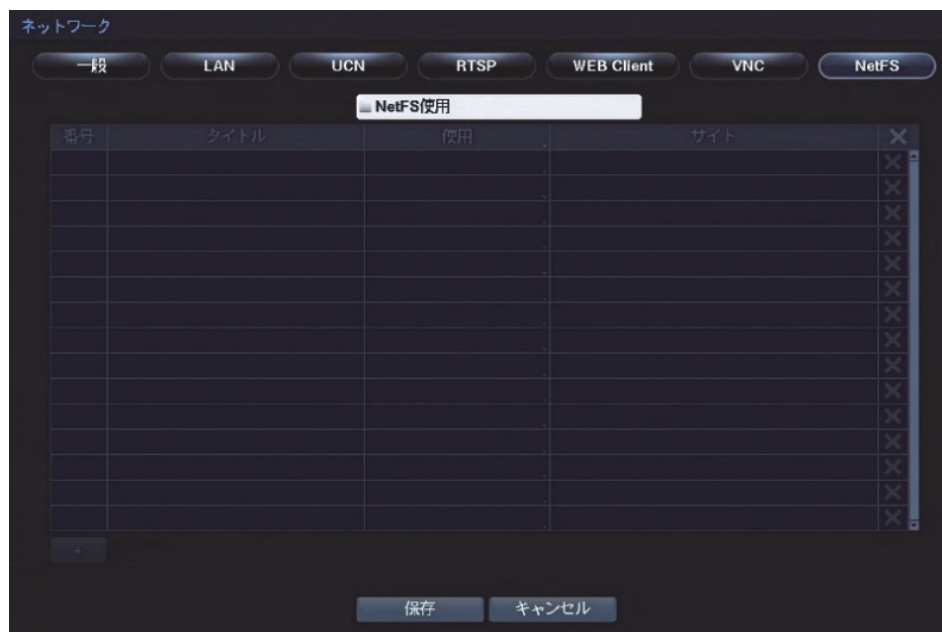
参考: VNCサービスを通じた遠隔接続の最大人数は3人です。

参考: 遠隔でDVRコントロール時、PCのキーボードを使用する場合、ショートカットキーの機能は以下のようです。

キー	機能
“←”と“h”	リモコンの左側の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで左側に移動します。
“→”と“l”	リモコンの右側の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで右側に移動します。
“↑”と“k”	リモコンの上の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで上に移動します。
“↓”と“j”	リモコンの下側の矢印ボタンを押す時と同じくメニューで下に移動します。
“m”と“田”(Windowsキー)	リモコンの(MENU) ボタンと同じく画面にリアルタイム監視メニューと検索メニューを現します。
“Enter”と“Return”	リモコンの (↵) (エンター) ボタンを押す時と同じくメニューの設定時、項目を選択するか入力事項を決定する場合に使用します。
“d”と“PageUp/PageDown”	リモコンの DISPLAY ボタンを押す時と同じく画面分割のフォーマットを転換します。
“c”と“Home”	再生モードでリモコンの(MENU) ボタンを3秒以上 押す時と同じくクリップコピーを行います。
“F5”	VNC出力の画面を更新して再度表示します。

注意: VNCを使用してLiveや検索画面等の確認はできません。設定等をRealTimeで変更することができます。

NetFS



ネットワーク – NetFS設定画面

以下の機能のためにFTPサイトの登録ができます。

- ・ アップグレード、設定ファイル読み込み/移入、ログ移入、ファイル印刷のためのファイルをFTPサイトにアップロードしたり、FTPサイトからダウンロードしたりできます。関連設定は以下の通りです。
 - 監視モードの ⚙️ (設定) メニュー > “システム”メニュー > “一般”タブ > “アップグレード”、“読み込み”、“移入”、“システムログ

- 移出”設定

- 検索モードの  (移出) > “プリント”

- ・ FTPサイトにクリップファイルのアップロード機能。関連設定は以下の通りです。
 - 検索モードの  (移出) > “A-Bクリップコピー”または“クリップコピー”
- ・ イベント感知FTP通知（システムイベントを除く）。関連設定は以下の通りです。
 - 監視モードの  (設定) メニュー > “通知”メニュー > “FTP”タブ > “FTP”設定
 - 監視モードの  (設定) メニュー > “イベント”メニュー > “アクション - 通知” (FTP) 設定

参考: 現在、FileZillaとsmallFtpサーバに対応しています。

参考: 本機能はFTPサイトの手動モードにのみ対応します。

NetFSを使用するには、“NetFS使用”を選択してください。

“タイトル”を選択してNetFSサイト名を入力できます。仮想キーボードを利用してサイト名を入力します。

“使用”を選択してNetFS機能の用途を選択できます。

- ・ N/A - NetFS機能を使用しません。
- ・ ALL - すべてのNetFS機能を使用します。
- ・ アップグレード - NetFSサイトにアップロードされたアップグレードファイルが使用できます。
- ・ 設定 - NetFSサイトにアップロードされた設定ファイルを読み込んだり移出したりできます。
- ・ システムログ - NetFSサイトにシステムログを保存できます。
- ・ バックアップ - NetFSサイトにビデオクリップを手動で保存したりイベント感知されたビデオクリップを自動で保存したりできます。
- ・ 印刷 - イメージをPDFファイルでNetFSサイトに保存できます。

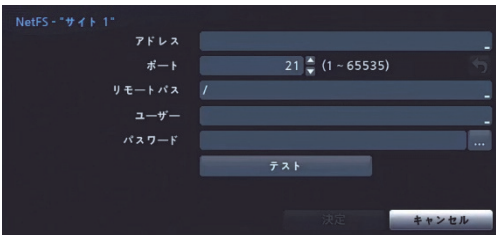
“サイト”を選択してNetFSサイトの情報を入力できます。

 ボタンを選択してNetFSサイトを消すことができます。

参考: “ネットワーク - NetFS”設定画面でFTPサイトを削除する場合、“通知 - FTP”設定画面でも該当FTPサイトが削除されます。

参考: FTPサイトの用途を“ALL”または“クリップコピー”ではない別の設定に変更する場合、FTPの通知機能が非活性化されます。

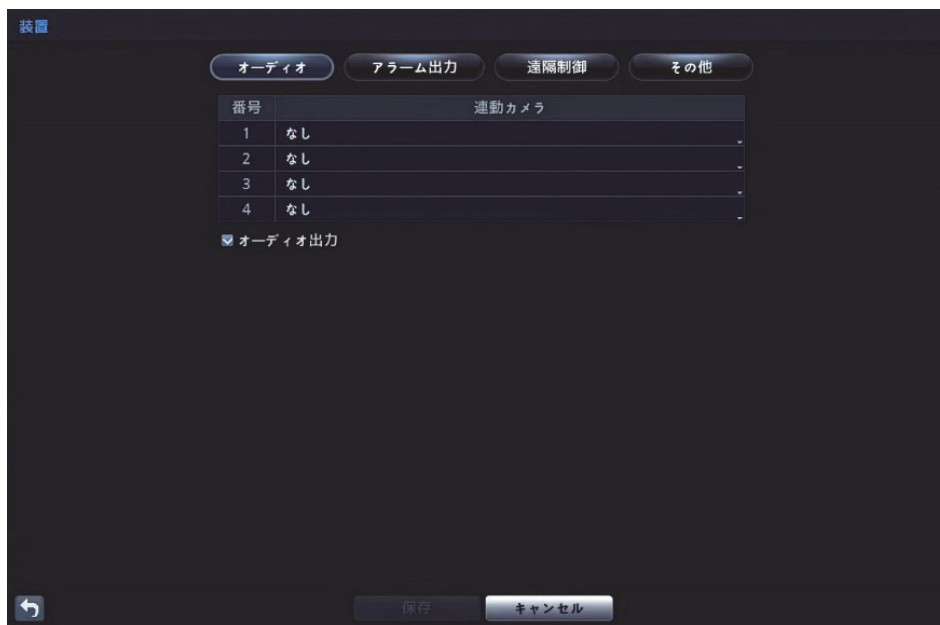
+ を選択してFTPサイトを登録します(最大16個)。



- ・ アドレス: 仮想キーボードを利用してNetFSのアドレスを入力します。
- ・ ポート: NetFSサイトにアクセスするためのポート番号を設定します。
- ・ リモートパス: 仮想キーボードを利用してNetFSサイトでのフォルダのパスを入力します。
- ・ ユーザー/パスワード: 仮想キーボードを利用してNetFSサイトにアクセスするためのユーザーとパスワードを入力します。
- ・ テスト: 設定したNetFSサイト情報が正しいかテストします。

装置設定

オーディオ



番号	連動カメラ
1	なし
2	なし
3	なし
4	なし

☒ オーディオ出力

装置 - オーディオ設定画面

“連動カメラ”を設定して“オーディオ出力”を選択すると、カメラが録画される際に該当チャンネルオーディオも一緒に録音されます。“オーディオ”を選択すると当該チャンネルの全画面を再生する場合、オーディオを再生します。再生時には該当チャンネルの全画面モードでのみオーディオが再生されます。

アラーム出力



番号	曜日	範囲	モード	チャンネル	
1	全て	00:00 ~ 24:00	イベント	1~4	X
					X
					X
					X
					X
					X
					X
					X
					X
					X
					X

装置 - アラーム出力 設定画面

“期間”は5秒から30分まで設定できます。アラーム出力はここで設定された時間の間作動します。

“タイトル”を選択して、アラーム出力タイトルを設定できます。

タイトル	リレー反
Alarm Out 1	☐
Alarm Out 2	☐
Alarm Out 3	☐
Alarm Out 4	☐

リレー反転ボックスをチェックした場合、DVRの背面パネルに接続されるアラーム出力タイプを反転させることができます（NO→NC）。

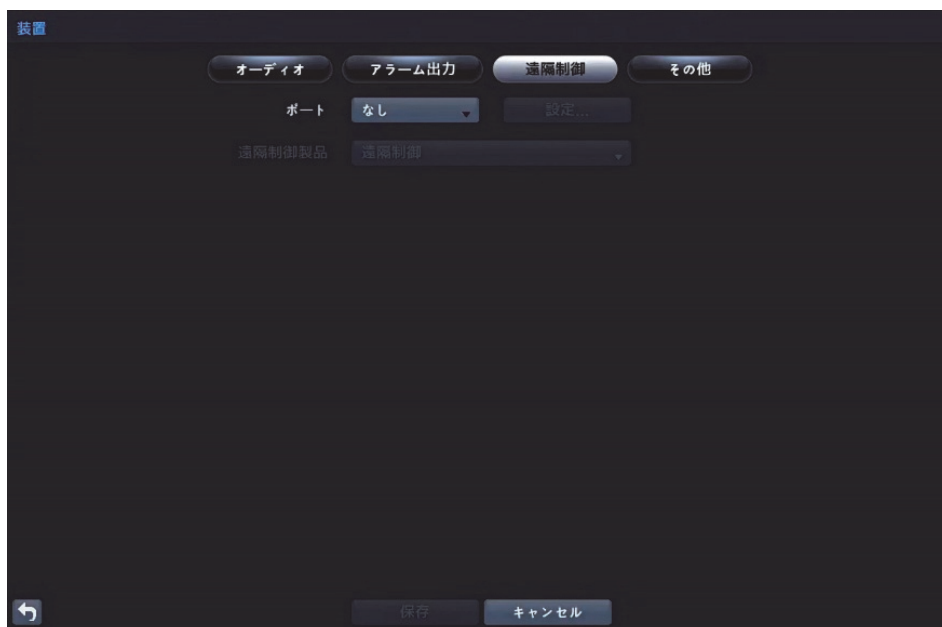
スケジュールのリストの左下にある“+”を選択してスケジュールを追加できます。“曜日”別に選択することができ、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更できます。

“モード”では“イベント”、“On”、“Off”を選択できます。指定されたスケジュールに従って“イベント”モードならばイベントに連動してアラーム出力が発生するし、“On”モードならばアラーム出力が無条件でOnになり、“Off”モードならば無条件でOffになります。

“チャンネル”を選択してアラーム出力するポートとアラーム音のon/offを指定できます。

✕ ボタンを選択してスケジュールを消すことができます。

遠隔制御



装置 - 遠隔制御設定画面

“ポート”を選択すると、RS232かRS485のどちらか一つを選択することができ、その場合PTZかテキストインなど別の装置が同一ポートを使用する設定を行うと、ポートが重複してその別の装置は使用できなくなるというアラームメッセージが表示されます。

“ポート”をRS232またはRS485の中に選択して、右側の“設定…”を選択して“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”を設定することができます。

“遠隔制御製品”の中で遠隔制御製品を選択することができます。

その他



装置 – その他の装置設定画面

UPSと電波時計を別に設定することができます。各装置の“ポート”を選択するとRS232またはRS485の中に一つを選択することができます。この場合、PTZカメラ、またはテキストインなどの装置が同じポートを使用しているとポートが重複するので警告が表示されます。“ポート”をRS232またはRS485のいずれか一つを選択し、右側の“設定…”を選択して“ポーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”を設定することができます。

参考: 電波時計とDVRが正常に接続されていると30分単位に電波時計の時刻にDVRの時刻が同期されます。電波時計との接続及び設定方法は電波時計の説明書を参照してください。

ディスプレイ設定

OSD



ディスプレイ – OSD設定画面

“OSD”画面で次のような情報を画面に表示するように設定できます。

– 監視画面下段の各種状態を表示する項目

- ・ 遠隔制御 – システムIDが“0”か、“第3章 – システム設定 – リモコン接続”部分の説明の通りリモコンを設定して使用できる場合、 アイコンが表示されます。
- ・ 拡大 – 画面が拡大状態の場合は  アイコンが表示されます。
- ・ ネットワーク – ネットワークが接続されると  アイコンが表示されます。ネットワークを通じて双方向オーディオを使用している時は  アイコンが、VNCサービスが動作中である場合は  アイコンが表示されます。
- ・ フリーズ & 自動切替 – 一時停止状態の際に  アイコンを、連続モードの際に  アイコンが表示されます。
- ・ 画面グループ – 16画面ではない場合に何番目の画面であるかが表示されます。
- ・ 残容量 – 上書が選択された場合は  アイコンが、上書きではない場合は残りの容量が%単位で表示されます。
- ・ 日付、時間 – 日付と時間が表示されます。
- ・ ユーザー名 – 画面右下にログインしたIDが表示されます。
- ・ バックグラウンドパネル – OSD情報が表示される画面の下段のバックグラウンドパネルを黒く表示します。

– 監視画面の各カメラ画面にカメラに関する情報を表示する項目

- ・ 番号 – カメラ番号がカメラ画面左上段に表示されます。
- ・ タイトル – カメラ名がカメラ画面左上段に表示されます。
- ・ 録画 – 録画とスケジュールに関連したアイコンが表示されます。
- ・ オーディオ – 該当チャンネルのオーディオが出力中の場合は  アイコンが表示されます。
- ・ PTZ – カメラがPTZカメラに設定されている場合、 アイコンが表示されます。
- ・ テキストイン – テキストイン装置によって入力される文字列が表示されます。“表示時間間隔”を選択してテキストイン文字を画面に表示する期間を設定することが可能です。



“タイトル”のカラーを白または自動（Live）の設定ができます。デフォルトの設定は白であり、“自動”に設定すると、タイトル領域画像の明るさに応じて白または黒中に自動的に設定されます。

“OSD余白…”を選択して垂直、水平余白を設定できます。使用するモニタに合わせて適当なOSD位置を選択してください。

参考: “自動”機能はLive画面でのみ適用可能です（Play画面適用不可）。

メインモニター



ディスプレイ – メインモニター設定画面

プライマリモニタの“モード”を“フル切替”または“切替”に変更でき、“カメラ切替間隔”を設定できます。

切替監視につきましては“第4章 – 運用 – リアルタイム監視、切替監視”部分を参照してください。

“イベントモニタリング”を選択するとイベントモニタリング機能を使用することができます。この機能につきましては“第4章 – 運用 – リアルタイム監視、イベントモニタリング機能”部分を参照してください。

メインモニタの画面の“解像度”を選択できます。

参考: HDMIモニタとVGAモニタをメインモニタとして同時に使用する場合には、同じ解像度をサポートするモニタの使用をお勧めします。サポートする解像度が違う場合、映像が設定された解像度の値で、見えないこともあります。

“解像度マニュアルモード”に合わせる”を選択して、モニタの解像度情報に関わらず、ユーザーが解像度を手動で設定することができます。

“画面に合わせる”を選択して、映像をプライマリモニタ画面にピッタリ合うように調節できます。

“モニター解像度”は現在DVRに繋がっているモニタの解像度情報を見せます。

外部モニター



ディスプレイ – 外部モニター設定画面

外部モニター 1: チャンネル			
カメラ	時間	カメラ	時間
1. CAM1	1 秒	9. CAM9	1 秒
2. CAM2	1 秒	10. CAM10	1 秒
3. CAM3	1 秒	11. CAM11	1 秒
4. CAM4	1 秒	12. CAM12	1 秒
5. CAM5	1 秒	13. CAM13	1 秒
6. CAM6	1 秒	14. CAM14	1 秒
7. CAM7	1 秒	15. CAM15	1 秒
8. CAM8	1 秒	16. CAM16	1 秒
		決定	キャンセル

“チャンネル”を選択して外部モニター切替監視に使用するカメラを選択/解除でき、選択したカメラの監視時間が設定できます。

通知設定

コールバック

通知

番号	IPアドレス
☐ 1	0.0.0.0
☐ 2	0.0.0.0
☐ 3	0.0.0.0
☐ 4	0.0.0.0
☐ 5	0.0.0.0

リトライ

通知 - コールバック設定画面

“番号”を選択すると、コールバックを受け取るサーバのIPアドレスを設定できます。DVRが遠隔アクセスに失敗した場合、再アクセスを試みる際に“リトライ”の回数は1回から10回まで選択できます。

メール

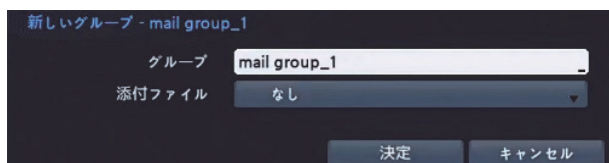
[illegible]

通知 - メール設定画面

メール機能とは、各種イベントの動作の通知の中に“メール”が含まれた場合、該当イベントが発生すると指定されたアドレスにメールを送る機能です。

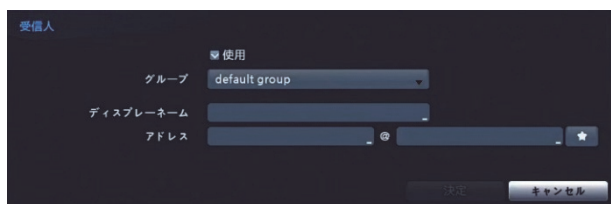
“グループ & 受信人”左のボックスを選択/解除して、該当メールのアドレスを選択/解除することができます。

画面の左下にある“+ グループ”を選択してメールの受信人グループを追加し、メールに添付するイメージのファイル設定ができます。



“グループ”を選択すると、キーボードの入力窓が、表しグループ名を指定できます。“添付ファイル”で、“CBF”を選択する場合、ビデオクリップ形の、“JPG”を選択する場合JPEGファイル形の、“MP4”を選択する場合MP4ファイル形のイベント映像が、該当のグループでメール発送の時、添付されます。

画面の左下にある“+ メール”を選択してメールのアカウントを追加することができます。



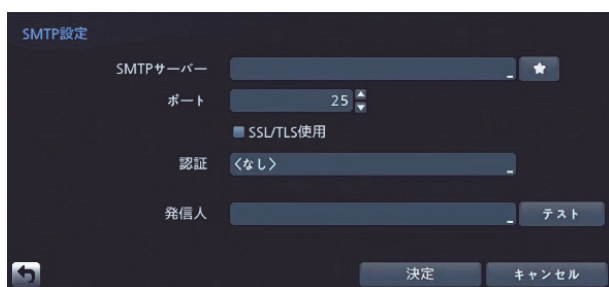
“使用”を選択し、追加したメールアドレスの使用可否を選択した後、宛先が属する受信人“グループ”を選択します。“ディスプレイネーム”を選択し宛先の表視ネームを指定した後“アドレス”項目の受ける側のメールアドレスおよびメールサーバを設定します。★を選択すると、メールサーバリストから、希望するメールサーバが選択できます。

“添付ファイル”を選択し、メールに添付するイメージファイルの形を変更できます。

参考: イベント映像の添付機能はテキストインのイベントに対しては除外されます。

設定されたメールのアカウントの右側の ✕ のアイコンを押して設定されたアカウントを削除します。

“SMTP設定”を選択するとSMTPサーバが設定できます。



“SMTPサーバ”のIPアドレスかドメイン名、SMTPサーバの“ポート番号”、“発信人”を設定してください。SMTPサーバのポート番号初期値は“25”です。

参考: “LAN”設定で、DNSサーバを設定するとSMTPサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

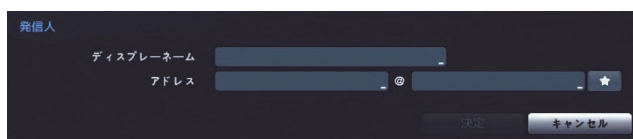


“SSL/TLS使用”を選択するとSSL接続を要求するSMTPサーバを使用することができます。

SMTPサーバに使用者認証が必要な場合“使用”を選択して使用者認証を使用するかどうかを判断してから“ユーザー”と“パスワード”を設定します。

参考: この製品はOpenSSLツールキットを利用するために、OpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含んでいます (<http://www.openssl.org/>)。

“発信人”を選択して選択して 発信人のメールアドレスを設定します。



“ディスプレイネーム”を選択し、発信人の表記ネームを指定した後、“アドレス”項目で、発送人のメールアドレス及び、メールサーバを設定します。★を選択すると、登録されたメールサーバリストから、希望するメールサーバの選択ができます。

“テスト”を選択すると、現在設定された値でメールが転送されるかテストすることができます。



通知 – FTP設定画面

FTP機能を設定すると、イベント発生時にFTPサイトにイベントが感知されたイメージまたはビデオクリップのアップロードができます。画面の左下にある“+”を選択してFTPサイトを追加できます。

“FTP”を選択してFTPサイトの情報を入力できます。仮想キーボードを利用して名前を入力します。

“アップロードファイル”を選択してFTPサイトにアップロードするファイルのフォーマットを選択できます。

+ を選択してFTPサイトを登録します(最大5個)。

- ・ サイト: 登録されたFTPサイトのリストが表示されます。リストからFTPサイトを選択します。NetFSサイトの“使用”設定が“ALL”または“バックアップ”ではない別の設定になっている場合、該当のFTPサイトを選択することはできません。“ネットワーク – NetFS”設定画面で“使用”設定を変更するか、別のFTPサイトを登録できます。

- ・ アップロードファイル: CBF、MP4、JPGから選択でき、CBFを選択時は、イベントが感知されたビデオクリップをFTPサイトにアップロードします。MP4選択時は、イベントが感知されたビデオクリップ(MP4 フォーマット)をFTPサイトにアップロードします。JPGを選択時は、イベントが感知されたイメージファイル(JPEGフォーマット)をFTPサイトにアップロードします。
- ・ サイト情報: FTPサイトの情報を表示します。

参考: FTP通知機能が正しく動作するためには、関連設定がなされていなければなりません。

- ・ “ネットワーク”メニュー – “NetFS”タブ: “使用”設定
- ・ “イベント”メニュー – “動作” – “通知” (FTP) 設定

参考: “ネットワーク – NetFS”設定画面からFTPサイトを削除する場合、“通知 – FTP”設定画面でも該当のFTPサイトが削除されます。

参考: 短期間に多くのイベントが発生する場合、ビデオクリップがFTPサイトにアップロードされないことがあります。

参考: システムイベントには対応していません。

参考: アップロードが何度も失敗する場合、該当のビデオクリップを削除します。

参考: DVR起動時にアップロードされなかったビデオクリップがあってもすべて削除します。

参考: JPGファイルのビデオクリップはストレージが十分でない場合もアップロードされます。

スケジュール



通知 – スケジュール設定画面

画面の左下にある“+”を選択し、通知スケジュールを追加できます。“曜日”別に選択でき、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更します。“通知”を選択してイベント検知時、実行されるアラーム機能で“メール”、“LAN1～5”、“サマリー”などを選択することができます。



参考: 通知（コールバック）機能を使用しようとするとDVRがJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

参考: 通知“スケジュール”は、システム – システムイベント設定で、設定した、アラーム動作には影響がありません。

“サマリーEmail間隔”を設定すると決めた間隔でイベントの内容を要約したメールを遠隔地に伝送します。

カメラ設定

一般



カメラ 一般設定画面

“番号”を選択/解除して、カメラをOn/Offさせられます。各カメラ番号の横のチェックボックスが選択されていればカメラがOn、空いていればOff状態です。選択されたカメラだけが監視画面に表示され、録画と再生ができます。

“タイトル”を選択すると、カメラのタイトルを決めることができます。

“使用”を選択すると、“普通”、“隠し1”、“隠し2”のうちの一つに変更できます。“隠し1”か“隠し2”に設定した場合、“隠しカメラビュー”の権限がないユーザーがログインすると、該当カメラの映像が監視画面に表示されず、再生時にも該当カメラの映像が再生されません。“隠し1”と“隠し2”の違いは、“隠し1”に設定した場合映像は表示されませんが、各種OSDは表示され、“隠し2”に設定した場合はカメラが接続されていないように、映像だけでなく各種OSDも表示されません。

“タイプ”を選択すると、カメラが対応するタイプの値を 自動、SD、HD-TVI、AHD の中で一つを選択することもできます。

自動
720
960
HD
Full HD

“モード”を選択すると、カメラが対応する横解像度の値を自動、720、960、HD、Full HD、3MP、4MP Half、4MPまたは5MPの中で一つを選択することもできます。“自動”を選択する場合、カメラが対応する横解像度の値をDVRが自動で感知します。

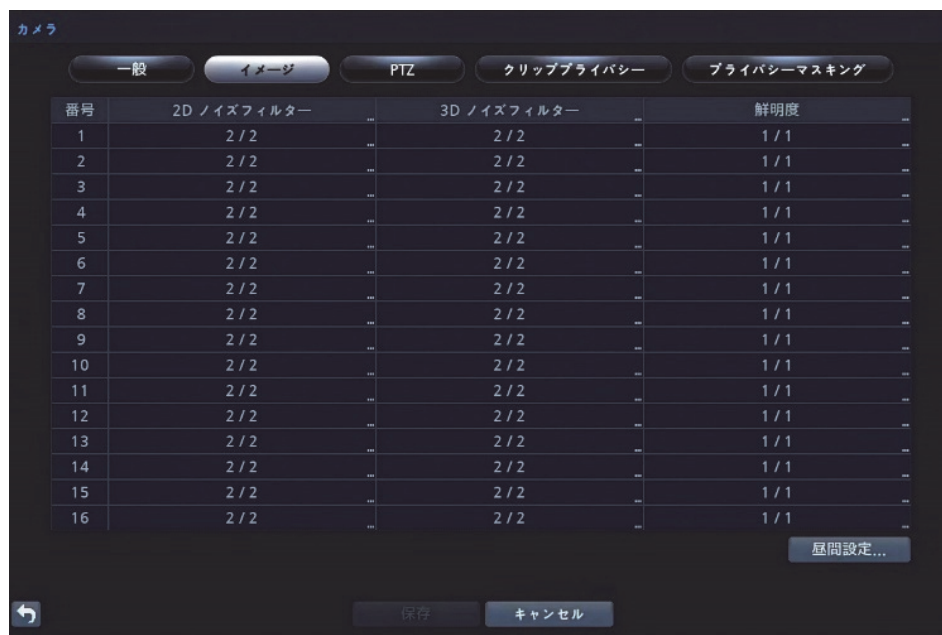
3MP 18、4MP Half 25/30、5MP 12を選択すると、レコーダに接続すると自動的に検出され、リアルタイムモニタリングモードと検索モードではすべてのチャンネルが使用されます。

4MP 25/30および5MP 20を選択しても自動検出することができません。カメラの設定で、手動でモードを選択すると、ペアの他のチャンネルは無効になります（チャンネル1・2、チャンネル3・4、チャンネル5・6、...、チャンネル15・16はペアとして動作します）。この場合、リアルタイムモニタリングモードとサーチモードでは1/2チャンネルが使用されます。1/2チャンネルの場合、8チャンネルを使用します。

参考: “モード”を変更した場合、変更された解像度の値を反映するためにシステムが再起動されます。

参考: 自動感知の場合、再起動をしなくても入力した解像度が適用され、720、HD、Full HD、3MP 18、4MP Half 25/30、5MP 12 モードのみ動作し、960カメラの場合は720モードに設定されます。

イメージ

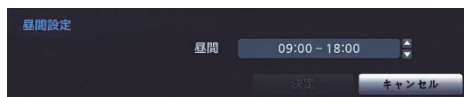


カメラ - イメージ設定画面

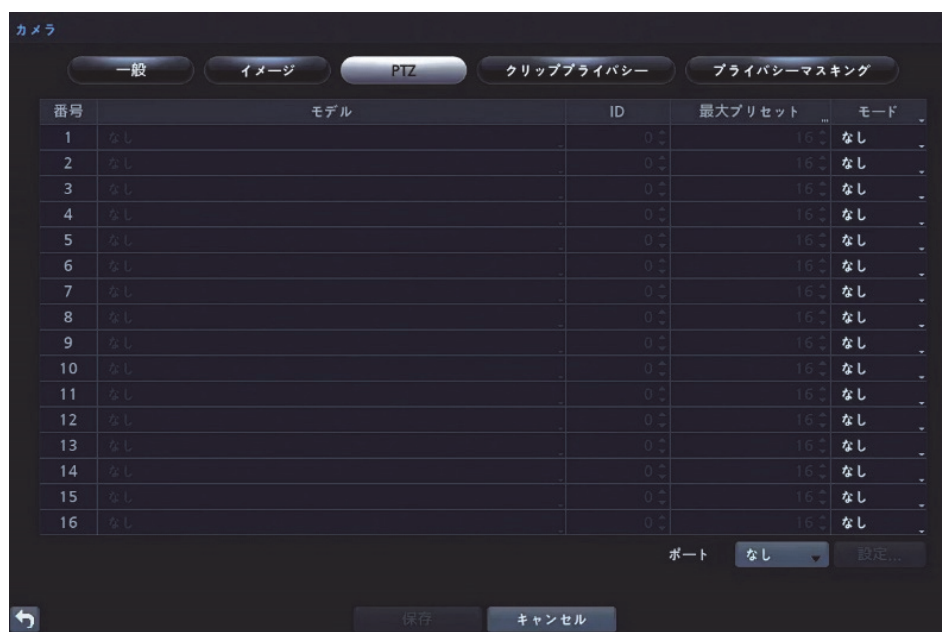
“イメージ”を選択してチャンネル別2Dノイズフィルタ、3Dノイズフィルタと鮮明度機能を設定することができます。



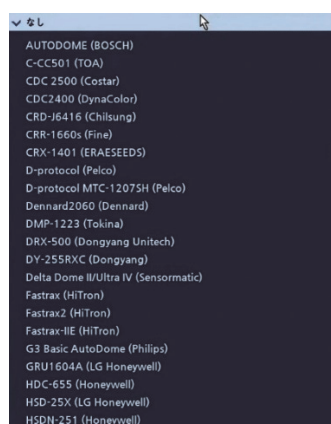
各機能は、昼間/夜間に応じて1（弱）～5（強）の程度を設定することができます。



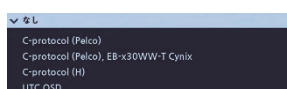
“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。



カメラ - PTZ設定画面



<RS232, RS485>



<UTC>



“モデル”を選択すると、PTZカメラのタイプを選択しIDを選択すると、該当カメラをPTZモードで操作することができます。

“モード”を選択すると、なし、UTC、RS232 またはRS485の中で一つを選択することもできます。

UTC (=CoC / Control over Coax) は、対応しているアナログHDカメラだけ使用できます。

参考: 当社カメラ以外の場合、CoC機能が正常に動作しないことがあります。

[UTCのモデル選択方法]

- ・ ACP : 遠隔からPF-CA4040、CA4031、CA4041、CA4032のZOOM / FOCUS操作、カメラメニュー操作をする場合。
- ・ JSS-D : その他の当社アナログHDカメラのPTZ等を操作する場合。

“最大プリセット”を選択するとカメラが対応するプリセットの数を設定することができます。

参考: カメラが対応する最大プリセットの数を確認してください。設定されている最大プリセット数、カメラが対応するプリセットの数を超える場合、超過したプリセットに移動時カメラが誤作動することがあります。

“ポート”の項目で、PTZカメラと通信するポートをRS232とRS485のどちらかを選択することができます。この場合、もしネットワークや遠隔制御、テキストインなど別の装置が同一ポートを使用している場合は、その別の装置は使用できなくなるというアラームメッセージ

が表示されます。ポートをRS232かRS485のどちらかを選択する場合、ポート設定ボタンが活性化し、“設定…”ボタンを押すと、ポートの“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”値を設定する画面が表示されます。

ボーレート: 9600
 データ長: 8
 ストップビット: 1
 パリティ: なし
 決定 キャンセル

“ボーレート”、“データ長”、“ストップビット”、“パリティ”値を正しく設定してください。

保存する際にID値が別のPTZのID値と重複するならば、アラームメッセージが表示されます。ID値が重複しないようにもう一度設定し直してください。

クリッププライバシー

カメラ

一般 イメージ PTZ クリッププライバシー プライバシーマスキング

番号	タイトル	プライバシーゾーン
1	CAM1	
2	CAM2	
3	CAM3	
4	CAM4	
5	CAM5	
6	CAM6	
7	CAM7	
8	CAM8	
9	CAM9	
10	CAM10	
11	CAM11	
12	CAM12	
13	CAM13	
14	CAM14	
15	CAM15	
16	CAM16	

保存 キャンセル

カメラ – クリッププライバシー設定画面

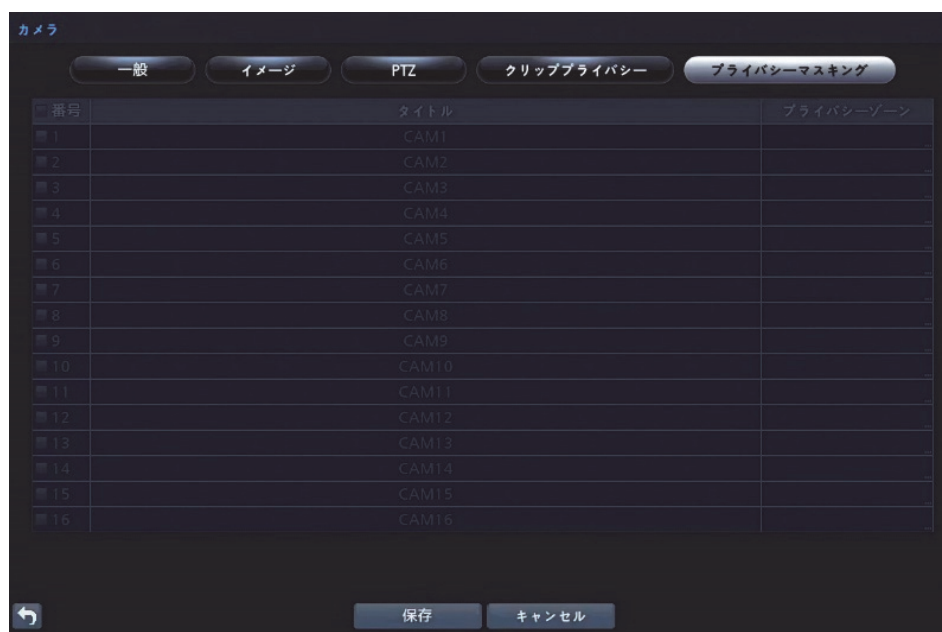
“クリッププライバシー”を選択すると、バックアップに適用するプライバシーマスキングゾーンを設定することができます(最大16個)。“プライバシーゾーン”をクリックすると、当該チャンネルのライブ画面が全画面表示され、マウスでドラッグすることでプライバシーゾーンを設定することができます。“番号”を選択すると、カメラ番号を表示したり、非表示にしたりすることができます。

削除
 全て削除
 保存
 キャンセル

“削除”は選択されたプライバシーマスキングエリアを削除します。“全て削除”は全てのプライバシーマスキングエリアを削除します。“保存”を選択すると、変更事項を保存し、プライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。“キャンセル”を選択すると、変更事項を保存せずにプライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。

参考: SD画像には、マスキング領域を設定する際に制限（横方向は80%までしか設定できない）があります。

プライバシーマスキング



カメラ - プライバシーマスキング設定画面

“プライバシーマスキング”を選択するとライブや録画面面に適用するプライバシーマスキングを設定することができます（最大4つ）。

“番号”を選択すると、カメラ番号を表示したり、非表示にしたりすることができます。

“プライバシーゾーン”をクリックすると、当該チャンネルのライブ画面が全画面表示され、マウスでドラッグすることでプライバシーゾーンを設定することができます。

削除
全て削除
保存
キャンセル

“削除”は選択されたプライバシーマスキングエリアを削除します。“全て削除”は全てのプライバシーマスキングエリアを削除します。“保存”を選択すると変更事項を保存し、プライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。“キャンセル”を選択すると、変更事項を保存せずにプライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。

参考: SD画像には、マスキング領域を設定する際に制限（横方向は80%までしか設定できない）があります。

第4章 — 運用

DVRの動作はビデオを録画して再生することが主要機能です。しかし、ビデオを録画して再生することの他に、もっといろいろな機能を提供します。時間別、曜日別に録画スケジュールを設定することができ、多様な方法で録画されたデータを検索できます。また、遠隔制御、遠隔監視、録画された映像を再生しながら同時に現在の映像を録画、プリンタに映像出力するなどのような付加的な機能を提供します。ボタンとリモコン、マウスの使用方法などについては、第3章 – システム設定 – メニューの使用 방법에説明されています。

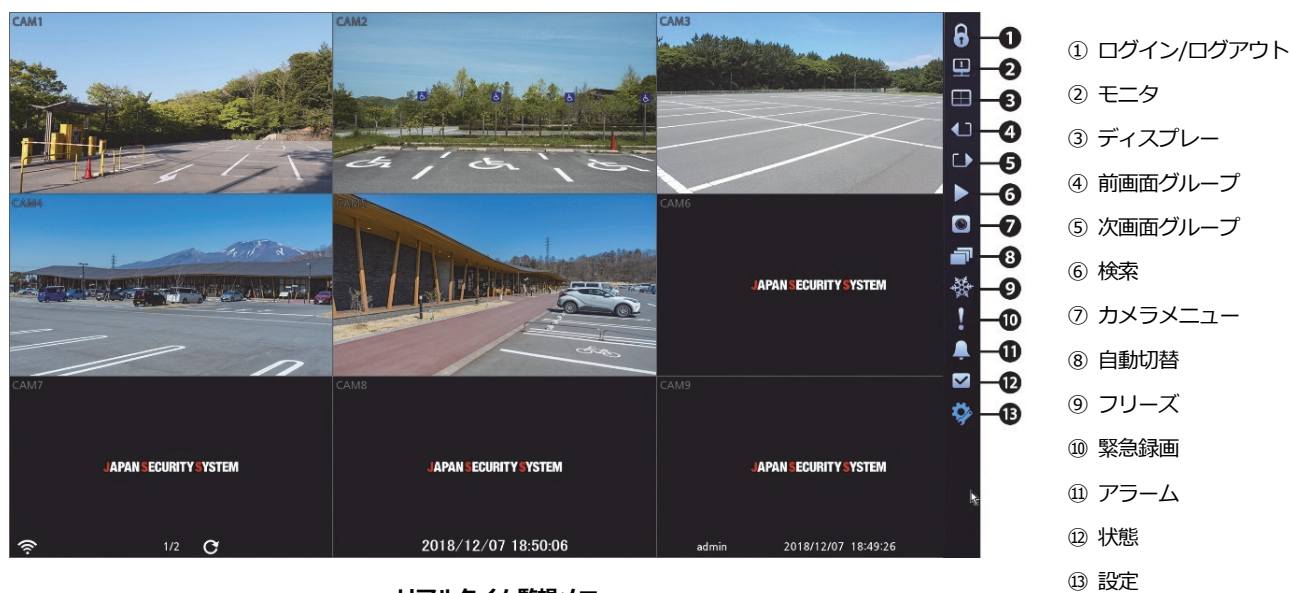
電源を入れる

“第2章 – 設置”の説明の通りDVRを設置すれば、記録する準備は完了です。装置に電源をつなげばシステムがブートします。

リアルタイム監視

DVRが初期化過程を完了すると、直ちに接続されているモニタとスピーカによって監視画面が表示され、オーディオが聞こえます。工場出荷時の基本モードは、全てのカメラを一画面に表示するようになっています。カメラのボタンを押すと、該当カメラの映像を全画面に表示します。

リアルタイム監視モードで(MENU)ボタンを押すと、画面の右側に下記のリアルタイム監視メニューが現れます。(MENU)ボタンをもう一回押すとメニューが消えます。リモコンの矢印ボタンを利用し、各メニュー及び項目に移動できます。



リアルタイム監視メニュー

参考: リアルタイム監視メニューはマウスポインタを画面の右側に置いて表示させることもできます。

ステータス情報ウィンドウ

	リモコンが使える場合、このアイコンが表示されます。
	遠隔プログラムでDVRに接続した場合、このアイコンが表示されます。
	双方向オーディオにつながっている場合、このアイコンが表示されます。
	映像拡大機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	VNCサービスでDVRに接続した場合、このアイコンが表示されます。
	フリーズ機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。

	自動切替機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
1/4	全体画面モードではない場合、現在の画面が属しているグループを表示します。
	イベントモニタリング中の場合、このアイコンが表示されます。
	HDD録画状態を表示します。上書きの場合、このアイコンが表示されます。 上書きを使用しない場合、残っているHDD容量が%で表示されます。

リアルタイム監視メニュー

ログイン/ログアウト

リアルタイム監視メニューで  (ログイン) 又は  (ログアウト) を選択時、ログイン又はログアウト窓を呼びます。

モニタ

 (モニタ) を選択するたびに、プライマリモニタ ()、スポット (外部) モニタ () を選択します。選択したモニタの画面分割と切替監視を設定することができます。

ディスプレイ

- ・ **全画面:** リアルタイム監視メニューで  (ディスプレイ) →  (全画面) を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択するとリモコンの該当カメラ番号ボタンを押す時やマウスで特定のカメラ画面をクリックする時と同じく、該当するカメラ画面が全画面に切り替わります。全画面のどこかをもう一度クリックすると、全画面になる直前の分割画面に切り替わります。
- ・ **PIP、2x2、1+5、1+7、3x3、4x4:** リアルタイム監視メニューで  (ディスプレイ) → 、、、、、 (PIP、2x2、1+5、1+7、3x3、4x4) を選択すると **DISPLAY** ボタンを押す時と同じく PIP → 4 → 6 → 8 → 9 → 16 画面に切り替わります。

参考: 1+5 または 1+7 画面の左側の上部に大きい画面である“メイン画面”に希望のカメラ映像を表示することができます。リアルタイム監視画面または検索画面で希望のカメラ画面でマウスの右クリックし、カメラメニューで“メイン画面に移動”を選択すると選択したカメラの映像がメイン画面に表示されます。

- ・ **カメラのOSD、状態のOSD:** リアルタイム監視メニューで  (ディスプレイ) → “カメラのOSD”を選択するとカメラ関連OSD (画面上に文字表示) 機能を、“状態のOSD”を選択するとシステム状態関連OSD機能を活性化、または非活性化させます。

前画面グループ、次画面グループ

リアルタイム監視メニューで  (前グループ)、 (次グループ) を選択すると、  (左右の矢印ボタン) ボタンを押す時と同じく現在の画面の前/次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

検索

- ・ **全てのカメラ:** リアルタイム監視メニューで  (検索) → “全てのカメラ”を選択すると  (再生ボタン) を押す時と同様に検索モードに入ります。
- ・ **トリプレックス:** リアルタイム監視メニューで  (検索) → “トリプレックス”を選択すると、分割画面モードで  ボタンを押す時と同様にトリプレックス再生モードに変わり、当該チャンネルの映像を再生します。

カメラメニュー

- ・ **PTZ:** リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “PTZ”を選択すると **PTZ** を押す時と同様にPTZコントロール機能を実行することができます。詳しい内容は下記の“PTZ制御”部分を参照してください。
- ・ **拡大:** リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “拡大”を選択すると **ZOOM** ボタンを押す時と同様に映像を拡大することができます。詳しい内容は下記の“拡大機能”部分を参照してください。
- ・ **オーディオ:** リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “オーディオ”を選択するとオーディオ出力をOn/Offにできます。
- ・ **色調整:** リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “色調整”を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると

色調整画面が表示されます。ここでは各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調を調整することができます。

参考: ここで変更した色調整のとりの映像が監視されるだけでなく録画されます。

- ・ **メニューコントロール:** リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “メニュー調整”を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると該当カメラが対応するメニュー調整画面が表示されます。本機能は該当カメラがCoC機能に対応する場合のみ動作します。
- ・ **グループ編集:** リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “グループ編集”で画面のグループ編集モードがスタートします。詳しい内容は下記の“画面グループ編集機能”部分を参照してください。

参考: カメラメニューは各カメラの画面でマウスを右クリックして呼ぶこともできます。カメラメニューをリアルタイム監視メニューか、各カメラ画面でマウスを右クリックするかによって、カメラメニューの項目が変わります。

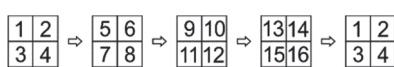
自動切替

リアルタイム監視メニューで  (自動切替) を選択するとリアルタイム監視モードで **SEQUENS** ボタンを3秒以上押す時と同じく自動切替がスタートします。自動切替をストップさせたい場合は、もう一度  を選択するか、**SEQUENS** ボタンを3秒以上押してください。システム設定 - ディスプレー設定で“自動切替”を選択し活性化していると、画面左下に  が表示されます。自動切替にはフル切替と切替があります。

“フル切替”モードを選択すると、監視モードの全画面及び分割画面で全てのチャンネルが順番に切り替わって表示されます。フル切替機能を使用するためには、システム設定 - ディスプレー設定の自動切替設定で“フル切替”を選択してください。

“切替”モードでは、監視モードの分割画面で、右下の一画面だけ別の画面に変わり続けるようになります。切替機能を使用するためには、システム設定 - ディスプレー設定の自動切替設定で“切替”を選択してください。

例えば、4分割画面で  を選択すると、以下のように切替監視が進みます。



< フル切替モード例 >



< 切替モード例 >

参考: “フル切替”で動作中ならば、画面左下の自動切替表示の横にページ番号が表示されます。

参考: ページを構成している全てのカメラが不活性化状態か、映像信号なしか、ロックカメラなら（そしてそのカメラを見る権限のないIDでログインしたならば）、該当ページを飛ばすようになります。

フリーズ

リアルタイム監視メニューで  (フリーズ) を選択すると、リアルタイム監視モードで  (エンター) ボタンを押す時と同様に画面が停止されます。システム設定 - ディスプレー設定で“フリーズ”を選択し活性化していると、画面左下に  が表示されます。画面停止状態から、また  を選択するか  ボタンを押せば画面停止状態が解除されます。但し、**MENU**、 ボタンは押してもフリーズ状態はそのままです。

緊急録画

リアルタイム監視メニューで  (緊急録画) を選択時、 ボタンを押す時と同様に緊急録画機能を使用/解除します。

アラーム

リアルタイム監視メニューでアラームが作動している間  (アラーム) を選択すると内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。

状態

リアルタイム監視メニューで  (状態) を選択するとシステムイベント及び保存スペースの状態が確認できます。詳しい内容は下記の“状態監視”部分を参考して下さい。

参考: “状態”メニューの選択は“システム検査”の権限を持ったユーザーでログインした時だけ、可能になります。

設定

リアルタイム監視メニューで  (設定)を選択すると設定メニューに入ります。

画面グループ編集機能

画面グループ編集モードは、監視画面（PIP、4、6、8、9、16画面）や4画面以上の再生モードで、自分の望む配置でカメラ映像を見ることができるよう設定する機能です。

PIP、4、6、8、9、16画面でリアルタイム監視メニューの （カメラメニュー）→ “グループ編集”で、画面グループ編集モードがスタートします。画面上に黄色い枠線が現れます。枠線は矢印ボタンやマウスを利用して、カメラ画面を選択でき、別のカメラボタンを押すと、選択された位置にボタンを押したカメラ画面が表示されます。もし、ボタンを押したカメラがその画面で表示していない画面ならば、選択された位置は、ボタンを押したカメラ映像が表示されます。その場合、画面が交換することはありません。そして、ボタンを押したカメラがその画面に表示されている画面ならば、選択されたカメラと位置が入れ替わります。このような方法によって各画面に望みのカメラ番号を配置することができます。画面グループ編集モードでもう一度 （エンター）ボタンを押すと、画面グループ編集モードから抜け出します。またはメニューボタンを押してカメオメニューが表示されたら、“グループ編集を終了する”を選択してグループ編集モードから抜け出します。画面グループ編集モードは、操作のない場合約15秒で終了します。

拡大機能

拡大機能は、リアルタイム監視モードでのみ作動します。システム設定 - ディスプレー設定で“拡大”を選択して活性化させると、拡大モードで  アイコンが表示されます。

ZOOM ボタンを押して拡大して見るカメラを選んでください。一画面だけ見える全画面モードでは、現在の画面が自動的に選択されます。カメラを選択すると全画面に転換され、右下に拡大する位置を設定する画面が表示されます。矢印ボタンを利用し、拡大して見る位置を変更することができます。（エンター）ボタンを押すと、映像が2倍、4倍に拡大されます。拡大画面を抜け出すには、もう一度 **ZOOM** ボタンを押してください。

参考: 拡大機能の応比率はカメラモードによります。

PTZ制御

PTZドームカメラをDVRで使用するためには、背面のRS485かRS232端子のうちカメラがサポートするものをカメラに正しく接続してください。そして、その端子をカメラ設定で説明したように正しく設定してください。

1. CAM1
2. CAM2
3. CAM3
4. CAM4
5. CAM5
6. CAM6
7. CAM7
8. CAM8
9. CAM9
10. CAM10
11. CAM11
12. CAM12
13. CAM13
14. CAM14
15. CAM15
16. CAM16

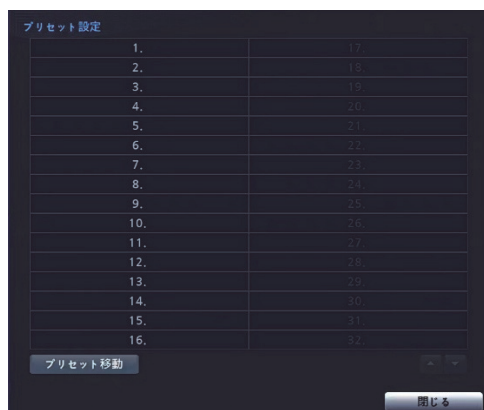
監視モードで現在の監視画面上にPTZカメラがある場合、 ボタンを3秒以上押すと、PTZカメラを選択する画面が表示されます。

望みのPTZカメラを選択してください。その場合、該当カメラのOSD画面に  アイコンが点滅します。現在の監視画面上にPTZカメラがない場合には、それを知らせるメッセージ画面が表示されます。PTZモードで再び  ボタンを押すとPTZモードから抜け出ることができる。

PTZモードでは、矢印ボタンによってPTZカメラの上/下/左/右移動（Pan, Tilt）機能を調整でき、 や  ボタンによって拡大と縮小機能を、 や  ボタンによっては近距離と遠距離焦点機能を調整することができます。

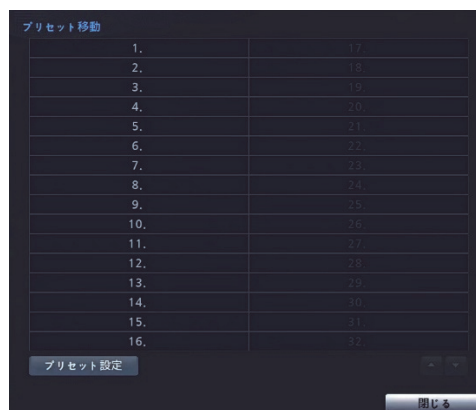
PTZカメラ選択メニュー

参考: PTZカメラを操作するためには、“PTZ制御”の権限を持ったユーザーでログインしてください。



< プリセット設定 >

PTZモードで  ボタンを押すと、“プリセット設定”設定画面が表示され、現在位置を望みのプリセット番号に保存することができます。

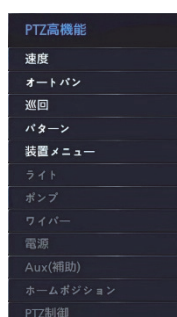


< プリセット移動 >

PTZモードで  ボタンを押して“プリセット移動”設定画面が表示されたらプリセット番号を選択し、その番号に保存された位置にPTZカメラをすぐ移動させることができます。

PTZ設定画面

PTZモードで  ボタンを押してから画面上段メニューで  (PTZ高機能) を選択すると下記のPTZ高機能メニューが表示されます。



速度、自動巡回などのPTZカメラが支援する機能を使用できます。

参考: マウスを用いて上/下/左/右の移動速度を制御することができます。PTZモードでマウスの左ボタンを押したままご希望の方向に移動してから回転速度を選択します。

参考: PTZカメラが支援しない機能は選択できません。

PTZモードでマウスを用いて簡単にPTZカメラを操作することができます。該当カメラのスクリーンでマウスの左ボタンを押したままカメラを任意の方向に移動させ、マウスのホイールを動かして映像の大きさを調整することができます。PTZモードでマウスのカーソルを画面の下に位置させば下図のようなPTZ制御ボックスが表示されます。



PTZ制御ボックスの  をクリックするとPTZ制御ボックスが消えます。アイコンの下をクリックしてからドラッグ&ドロップしてボックスの位置を変更できます。矢印アイコンをクリックしてPTZカメラを上下左右など8方向に移動できます。各アイコンの機能は下記の通りです。

- | | |
|--|---|
|  拡大/縮小 |  近距離/遠距離焦点調整 |
|  しぼり開/閉 |  プリセット設定/移動 |
| |  PTZ高機能 |

イベントモニタリング機能

システム設定 - ディスプレー設定で“イベントモニタリング”が選択されていたら、イベントが発生した場合はイベントが連動録画されるカメラの画面だけ表示する状態に自動的に切り替わります。

イベントモニタリングはイベント録画時間の分割表示にされ、続いて新しいイベントが発生しなければ、イベントモニタリング画面に転換する前の画面に戻ります。

イベントモニタリングの状態イベント録画時間が経過する前でも  ボタンを押したりカメラ番号ボタンを押したりすると、その監視画面に切り替わります。

隠しカメラ機能

カメラ設定で特定カメラを“隠し1”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、監視画面で該当カメラの映像は表示されなくなります。しかし、該当カメラのタイトルと現在の状態を示すアイコンは正常に表示されます。

カメラ設定で特定カメラを“隠し2”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、該当カメラがoff設定のように表示されます。すなわち、カメラ映像はもちろん表示されず、カメラタイトルはグレーになり、各種の状態アイコンも表示されなくなります。

“隠しカメラビュー”権限を持ったユーザーがログインした場合には、カメラが“隠し1”か“隠し2”に設定されていても隠し機能が適用されず、映像だけでなく状態アイコンも表示されます。

外部モニター監視機能

参考: ネットワークカメラおよびビデオエンコーダの場合、外部モニターでの映像監視機能は支援されません。

外部モニターで分割画面（4画面、1+5画面、1+7画面、3x3画面、16画面）の監視と切替監視ができます。リモコンの **SPOT** ボタンを押すか、リアルタイム監視メニューで **MON**（モニター）を選択してから“外部”を選択すると、外部モニターをコントロールできます。

リアルタイム監視メニューで **DIS**（ディスプレイ）→“画面分割”→“2x2”、または“4x4”を選択すると、外部モニターの画面モードが選択した分割画面に切替わります。

リアルタイム監視メニューで **ALT**（自動切替）を選択すると、外部モニターで切替監視が行われるようになります。もちろんカメラが選択されていない設定、映像信号なしや隠し設定であれば（そして隠しカメラを見る権限がなければ）、そのカメラは自動切替の対象から除外されます。システム設定 - ディスプレー - 外部モニター設定で自動切替モードの場合に映像が切り替わる時間の間隔を決められます。

状態監視

リアルタイム監視メニューまたは検索メニューで **STAT**（状態）を選択するとシステムイベント及び保存スペースの状態が確認できます。

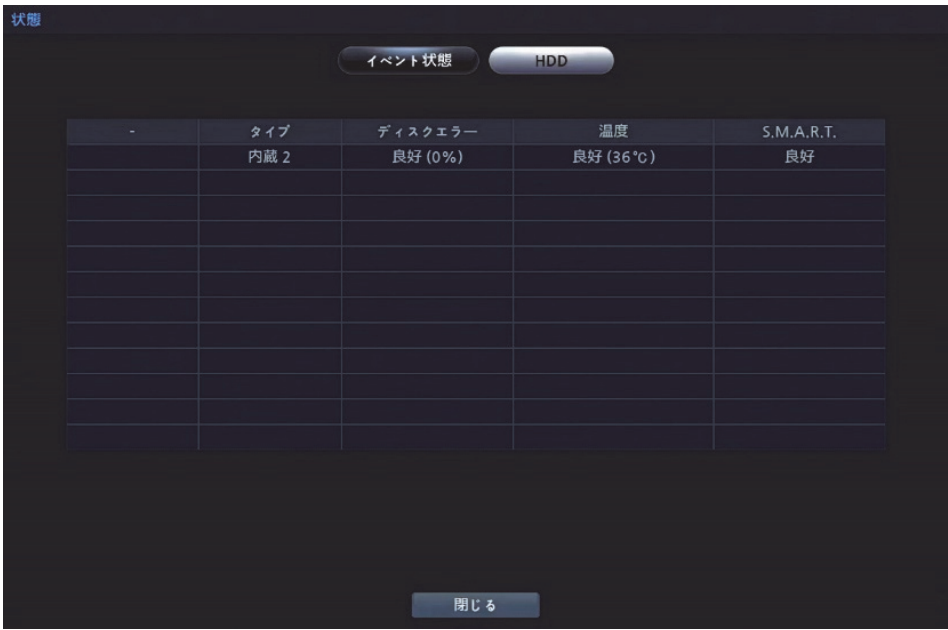


状態 - イベント状態画面

現在のいろいろなイベントの状態を調べることができます。イベントが発生したところは目立つように表示されます。イベントが発生してから5秒間点滅するので瞬間のイベントも簡単に把握できます。

アラーム入力の設定で、設定した通りにアラーム入力イベントが発生した場合、該当  “アラーム入力”チャンネルが黄色で強調されます。そして  “モーション”、 “トリップゾーン”、 “映像信号なし”、 “映像遮断”、 “テキストイン”項目は、それぞれイベント - モーション設定、映像信号なし設定、テキストイン設定で設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。また、 “アラーム入力エラー”、“録画エラー”項目は、システム - モニタリング設定によってイベント状態が表示されます。“緊急録画”項目は緊急録画を行っているときイベント状態が表示されます。“ディスクがほぼフルになります”項目と“ディスクフル”項目は“上書”モードに設定されていない場合、システム - モニタリング設定で指定したディスクの割り合いになった場合、或は100%フルになった場合に発生するイベントです。“ファンエラー”は電源コードコネクタ側のクーリングファンが約4秒以上動作しない場合、発生するイベントです。“録画用保存スペース無し”はDVRの最初起動時、録画用の保存装置に接続されていない場合発生するイベントです。“ディスク構成変更”はハードディスクの入れ替わりの後、システムを再起動する場合発生するイベントです。

“イベント状態”設定画面で“HDD”タブを選択して現在のHDDの状態を調べることができます。



状態 - HDD画面

“ディスクエラー”項目には使用されたことのないディスクの場合は“初期化されていません”と、正常に使用されているディスクの場合は“良好”と表示されます。“良好”と表示されてもHDDの一部が使用できない場合、その比率が“%”で一緒に表示されます。この比率がユーザーの指定した比率より高い場合は“エラー”として表示され、システムイベントが発生します。

“温度”項目には、温度を読み取れないディスクの場合は“N/A”と、温度を読み取って正常な場合は“良好”と表示され、温度が一緒に表示されます。この温度がユーザーの定めた温度以上の場合は“不良”と表示され、システムイベントが発生します。

“S.M.A.R.T.”項目には、S.M.A.R.T.機能をサポートしないディスクの場合“N/A”、S.M.A.R.T.状態に異常があって24時間以内にディスクが使用できなくなる可能性のある場合は“不良”、正常な場合は“良好”と表示されます。“不良”の場合はシステムイベントが発生します。

映像録画

“第2章 - 設置”部分で説明した通り、DVRを設置すると録画ができます。

いつ録画するかについての設定は、“第3章 – システム設定 – 録画スケジュール設定”部分で説明されています。また、プリイベント機能を利用する場合は、“第3章 – システム設定 – プリイベント設定”部分を参照してください。録画モードの設定については、“第3章 – システム設定 – 録画設定”部分に詳しく説明されています。ここでは幾つかの設定について簡略に説明します。

ハードディスクが一杯になった場合、中止するか上書きすることができます。初期設定は“上書”に設定されており、最も古い録画から上書きします。“上書”を解除するとディスクが一杯になった場合録画が中止されます。

緊急録画機能

リアルタイム監視メニューで **!!** (緊急録画) を選択するか、リアルタイム監視モードで **!** ボタンを押すとボタンLEDが点き、活性化した全てのカメラで緊急録画が行われます。その場合、画面の各カメラ画面には感嘆符の形の **!** アイコンが表示されます。この緊急録画は、ユーザーが設定した録画スケジュールに関係なく実行されます。

緊急録画状態では、システム設定 - 録画設定で緊急録画のために設定されたipsと画質で録画がおこなわれます。

緊急録画状態でもう一度 **!!** (緊急録画) を選択するか、**!** ボタンを押すと、緊急録画モードは解除されます。システム設定 - 録画設定で“緊急録画期間”が設定されている場合、設定された時間の通り緊急録画後自動に緊急録画モードが解除されます。

参考: HDDが“上書”に設定されていない状態ながら、100%フルになってしまった場合は緊急録画が行われません。

オーディオ録音

システム設定 - 録画設定でDVRのオーディオ録音が設定されていれば、その設定の通りビデオが録画される時にオーディオも録音されます。

注意: オーディオを録音する場合には、全ての関連法規と条例を確認してください。

保存映像の再生

保存映像を再生するためには、“検索”の権限を持ったユーザーでログインしてください。本DVRは全チャンネル再生とトリプレックス再生をサポートします。リアルタイム監視モードでは **▶** (再生ボタン) を押すと分割画面モードで、**▶** ボタンを押すとトリプレックス再生モードに入ります。

トリプレックス機能を利用し、リアルタイム監視モードから録画しながら特定のチャンネルの映像を再生することができます。分割画面モードで **▶** ボタンを押してトリプレックス再生モードになると次のような再生カメラ選択メニューが表われます。



“全てのカメラ”を選択すると全チャンネルを再生します。全てのカメラ再生モードでも画面グループ編集設定が保たれ、監視画面と同じく設定することもできます。ただし、PIPモードはサポートしておりません。

“トリプレックス”カメラ目録から検索しようとする特定カメラチャンネルを選択するとトリプレックス再生モードに変わり、選択したチャンネルの映像を再生します。ただし、全画面モードではすぐ再生モードに変わり、PIPモードではPIPチャンネルが再生チャンネルとなります。トリプレックスモードの画面構成は監視モードの画面構成をそのまま使用し、再生チャンネルとして選択されたカメラのタイトル及び、画面の枠が赤色となります。

再生カメラ選択メニュー

検索モードの初期位置は以前に再生した位置か、録画の最後の位置です。録音されたオーディオの再生は該当カメラが全画面ではなければなりません。

参考: “隠し”として設定されたカメラの場合、隠し機能が再生モードでも同様に適用されます。

カメラボタンを押すと該当カメラの映像を全画面で見ることができます。

◀◀ ボタンはビデオを高速で逆再生します。ボタンを押すたびに ◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀ に速度が切り替わります。▶▶ ボタンを押すと、ビデオを高速で再生します。ボタンをもう一度押すと、▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶ に速度が切り替わります。一時停止状態から ▶▶ ボタンを押すと現在の画面の次の画面を、◀◀ ボタンを押すと現在の画面の前の画面を見ることができます。

⏻ (エンター) ボタンを押すたびにビデオを一般速度で再生するか一時停止させます。

▶ (再生ボタン) を押すと、検索モードに入り、■を押すと検索モードから抜け出ます。|| ボタンを押すとビデオは一時停止され、▶ (再生ボタン) を押すと普通のスピードで再生します。一時停止モードでは画面上 || が、再生中には画面に ▶ が表示されます。

ZOOM ボタンを押して再生画面を拡大して再生ができます。

参考: 拡大機能の対応比率はカメラモードによります。

田 ボタンを押すと4 → 6 → 8 → 9 → 16 画面に変わります。

◀ ▶ (左右の矢印ボタン) を押すと現在の画面のグループから次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

再生モードでマウスを使用するとより便利に操作できます。マウスポインタを再生画面に置くと、次のような録画テーブル検索画面 (単純表示) が表示されます。



映像検索

検索モードで **MENU** ボタンを押すと画面の右側に下記の検索メニューが現れます。**MENU** ボタンをもう一度押すとメニューが消えます。リモコンの矢印ボタンを利用して各メニューと項目に移動することができます。



検索メニュー

- ① ブックマーク
- ② ディスプレー
- ③ 前画面グループ
- ④ 次画面グループ
- ⑤ 監視
- ⑥ 移動
- ⑦ カメラメニュー
- ⑧ 検索
- ⑨ 緊急録画
- ⑩ アラーム
- ⑪ 保存
- ⑫ 状態
- ⑬ データベース
- ⑭ 印刷

参考: 検索メニューはマウスポインタを画面の右側に置いて表示させることもできます。

検索メニュー

ブックマーク

検索メニューで  (ブックマーク) を選択して現在再生時点をブックマークに追加します。詳しい内容は“ブックマーク”部分を参照してください。

ディスプレイ

- ・ **全画面:** 検索メニューで  (ディスプレイ) →  (全画面) を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると全面パネルの該当カメラ番号ボタンを押す時やマウスで特定のカメラ画面をクリックする時と同じく、該当するカメラ画面が全画面に切り替わります。全画面のどこかをもう一度クリックすると、全画面になる直前の分割画面に切り替わります。
- ・ **2x2、1+5、1+7、3x3、4x4:** 検索メニューで  (ディスプレイ) → 、、、、 (2x2、1+5、1+7、3x3、4x4) を選択するとリモコンの分割表示ボタンを押す時と同様4 → 6 → 8 → 9 → 16画面に切り替わります。分割画面モードでマウスホイールを上下に回しても4 → 6 → 8 → 9 → 16画面 (逆) 順に画面構成が切り替わります。
- ・ **カメラのOSD、状態のOSD:** 検索メニューで  (ディスプレイ) → “カメラのOSD”を選択するとカメラ関連OSD (画面上に文字表示) 機能を、“状態のOSD”を選択するとシステム状態関連OSD機能を活性化、または非活性化させます。

前画面グループ、次画面グループ

検索メニューで  (前グループ) 、 (次グループ) を選択すると、  (左右の矢印ボタン) を押す時と同じく現在の画面の前/次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

監視

検索メニューで  (監視) を選択すると、検索モードから抜け出してリアルタイム監視モードに戻ります。

移動

- ・ **最初へ:** 検索メニューで  (移動) → “最初へ”を選択すると、録画された映像の最初の画面に移動します。
- ・ **最後へ:** 検索メニューで  (移動) → “最後へ”を選択すると、録画された映像の最後の画面に移動します。
- ・ **日時指定検索:** 検索メニューで  (移動) → “日時指定検索”を選択すると、日付と時間で録画映像を検索することができます。



移動する日付/時間を設定した後、“決定”を選択すると該当録画映像に移動します。

カメラメニュー

- ・ **拡大:** 検索メニューで  (カメラメニュー) → “拡大”を選択すると  ZOOM ボタンを押す時と同様に映像を拡大できます。“拡大”をもう一度選択すると拡大モードが解除されます。
- ・ **オーディオ:** 検索メニューで  (カメラメニュー) → “オーディオ”を選択するとオーディオ出力をOn/Offにすることができます。録音されたオーディオは、該当カメラを全体画面で再生する時だけ再生できます。
- ・ **グループ編集:** 検索メニューで  (カメラメニュー) → “グループ編集”を選択すると、画面のグループ編集モードがスタートします。詳しい内容は“リアルタイム監視 - 画面グループ編集機能”部分を参照してください。

参考: カメラメニューは各カメラの画面でマウス右クリックして呼ぶこともできます。

検索

- ・ **イベントログ検索:** 検索メニューで  (検索) → “イベントログ検索”を選択すると、イベントログを利用して録画映像を検索できます。詳しい内容は以下の“イベントログ検索”部分を参考してください。
- ・ **録画テーブル検索:** 検索メニューで  (検索) → “録画テーブル検索”を選択すると、録画テーブルを利用して録画映像を検索でき

ます。詳しい内容は以下の“録画テーブル検索”部分を参考してください。

- ・ **モーション検索:** 検索メニューで  (検索) → “モーション検索”を選択すると、モーション検索の結果を基準として録画映像を検索できます。詳しい内容は以下の“モーション検索”部分を参考してください。
- ・ **テキストイン検索:** 検索メニューで  (検索) → “テキストイン検索”を選択すると、テキストイン検索の結果を基準として録画映像を検索できます。詳しい内容は以下の“テキストイン検索”部分を参考してください。
- ・ **サムネイル検索:** 検索メニューで  (検索) → “サムネイル検索”を選択すると、サムネイル検索の結果を基準として録画映像を検索できます。詳しい内容は以下の“サムネイル検索”部分を参考してください。

緊急録画

検索メニューで  (緊急録画) を選択すると  ボタンを押す時と同じように緊急録画機能を使用/解除します。

アラーム

検索メニューでアラームが作動している間  (アラーム) を選択すると、内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。

保存

- ・ **ツータッチクリップコピー:** 検索メニューで  (保存) → “ツータッチクリップコピー”を選択すると、ある二つのポイントを指定して二つのポイント間のデータをコピーすることができます。詳しい内容は以下の“バックアップ”部分を参照してください。
- ・ **バックアップ:** 検索メニューで  (保存) → “バックアップ”を選択するとすぐ“クリップコピー”設定画面が表示され、“開始”と“終了”時刻をデータの最初と最後に決めるなどお好みで調節できます。詳しい内容は以下の“バックアップ”部分を参照してください。
- ・ **印刷:** 検索メニューで  (保存) → “印刷”を選択すると現在の映像を印刷することができます。詳しい内容は以下の“印刷”部分を参照してください。

状態

検索メニューで  (状態) を選択するとシステムイベント及び保存スペースの状態が確認できます。詳しい内容は“リアルタイム監視 - 状態監視”部分を参照してください。

参考: “状態”メニュー選択は“システム検査”の権限を持ったユーザーでログインした場合、可能です。

データベース

検索メニューで  (データベース) を選択すると、“録画”（メイン保存装置に録画されたデータ検索）または“外部”（他のシステムで使ったディスクを接続時、録画されているデータ検索）を選択することができます。

印刷

現在の画面を印刷することができます。

イベントログ検索

検索メニューで“イベントログ検索”を選択すると、下のようなイベントログ検索画面が表示されます。検索されたイベントログリストで、右下の矢印によってリスト上で上下に移動できます。



時刻	タイプ	タイトル
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 16	CAM16
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 15	CAM15
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 14	CAM14
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 13	CAM13
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 12	CAM12
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 11	CAM11
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 10	CAM10
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 9	CAM9
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 8	CAM8
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 7	CAM7
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 6	CAM6
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 5	CAM5
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 4	CAM4
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 3	CAM3
2018/12/07 18:53:11	映像信号なし 2	CAM2

条件... [↑] [↓]

閉じる

イベントログ検索画面

イベントログ検索画面で特定イベントを選択すると、連動録画が行われたチャンネルの選択日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。

参考: 現在表示されている画面には、録画された映像がないこともあります。その場合、**分割表示**ボタンを押して16分割画面に切り替えると、該当時間帯の映像が保存された画面を簡単に探すことができます。

登録されたユーザーでログインしていれば、イベントログ検索画面を表示するために特に必要なユーザー権限はありません。もちろん、検索するためには“検索”権限を持ったユーザーでログインしてください。

イベントログ検索画面で左下の“条件…”を選択すると、“イベントログ検索条件”の設定画面が表示されます。



開始	📅 始め	2018/12/07 18:53:11	🕒
終了	📅 終わり	2018/12/07 18:53:14	🕒
🔍 検索対象項目			
アラーム入力	1-16	→	📺 システムイベント
セーシェン	1-16	→	📺 緊急録画
トリップゾーン	1-16	→	📺 録画を確認
映像信号なし	1-16	→	📺 アラームインを確認
映像遮断	1-16	→	📺 ディスクフル警告
テキストイン	1-16	→	📺 ディスクエラー
録画チャンネル	1-16	→	📺 ディスク温度
			📺 ディスクS.M.A.R.T.
			📺 ディスク構成変更
			📺 ファンエラー

決定 キャンセル

“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

“開始”または“終了”時間をユーザーが指定する場合には、“時間重複検査”を選択/解除できます。“時間重複検査”が選択されていないければ、システムの使用途中でシステム時間が変更され、ユーザーが指定した“開始”時間がニヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択せよという画面が表示され、やはりユーザーが指定した“終了”時間がニヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択せよという画面が表示されます。そして、ユーザーが選択した“開始”と“終了”時間帯に発生したイベントだけが検索され表示されます。そうでなく“時間重複検査”

査”が選択されれば、全ての“開始”、“終了”時間帯に発生したイベントを検索します。

“アラーム入力”でアラーム入力イベントを検索するアラーム入力チャンネルを選択します。

“モーション”でモーション感知を検索するカメラチャンネルを選択します。

“映像信号なし”で映像信号なしのイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。

“ビデオ遮断”でビデオ遮断のイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。

“テキストイン”でテキストインのイベントを検索するチャンネルを選択します。

“録画チャンネル”でイベントを検索する録画チャンネルを選択します。ここで設定された録画チャンネルのうち、一つでも連動録画が発生したイベントのみ検索します。どのカメラも選択しなければ、連動録画カメラが一つもないイベントのみ検索します。

“緊急録画”、“録画を確認”、“アラームインを確認”、“ディスクフル警告”、“ディスクエラー”、“ディスク温度”、“ディスク S.M.A.R.T.”、“ディスク構成変更”、“ファンエラー”などのシステムイベントを検索する際に含めるかどうかを設定できます。

録画テーブル検索

検索メニューより“録画テーブル検索”を選択すると下図のような録画テーブル検索画面を表示します。



録画テーブル検索画面

録画テーブル検索画面は現在画面に表示するチャンネルの録画情報を表示します。検索画面の上段へ日付及び時間情報が表示され、録画テーブルの白色の縦線は現在再生位置を表示します。前面パネルの矢印ボタンを利用して現在再生位置を区間単位で移動することが可能であり、マウスを利用するとより簡単に再生位置を変更することができます。

ユーザーがシステム時間を過去に戻して録画を行い、同時時間帯に1つ以上の映像がある場合、重複した時間帯は黄色の分離線で分けられて録画テーブルに表示されます。

参考: 録画テーブルの後段へ表示するほどより最新データであります。

併合表示検索画面の左下の▲を選択すると現在の画面へ表示するチャンネルの録画情報が表示されるチャンネル別表示モードに変わり、▼を選択すると検索及び再生道具のみ表示される単純表示モードに変わります。単純表示検索画面で▲を押すか、チャンネル別表示画面で▼を押すと併合表示モードに変わります。

🔍 (拡大表示) を選択すると8時間 (1920x1080 解像度からは12時間) の録画情報が表示されて1分単位区間で構成されます。🔍 (縮小表示) を選択すると24時間の録画情報が表示されて3分単位区間で構成されます。画面へ表示する日付及び時間より以前あるいは以後の録画データが存在する場合、日付及び時間情報表示欄の両方へスクロールが表示されます。スクロールを前面パネルの矢印ボタンあるいはマウスでクリックしてからドラッグして当該録画データの情報を確認することができます。

参考: 区間別録画映像が複数のモードで録画されていたら「緊急 (赤色) → プリイベント (黄色) → イベント (紫色) → タイムラプス

(青色) “録画の順”に表示します。

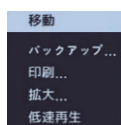
参考: 低解像度のSDをズームすると、画像が表示されないことがあります。

 を選択するとカレンダー検索画面が表示されます。



録画された映像がある日付が白色に表示され、その日付だけ選択できます。日付を選択すると選択された日付の最初に当たる時間に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。イベントログ検索と同様に現在の画面に録画された映像がない場合には、16分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。

 を選択すると検索メニューが表示され、必要な機能を実行することができます。



- ・ 移動: 録画された映像の最初の画面または最後の画面に移動したり、日時で録画映像を検索したりできます。
- ・ バックアップ: バックアップが行えます。
- ・ 印刷: 現在の画面を印刷することができます。
- ・ 拡大: 再生画面を拡大することができます。
- ・ 低速再生: 再生画面を遅くできます。(x1/2、x1/3、x1/4、x1/6、x1/8)

検索画面の下段にある各再生ボタンの機能は次の通りです。

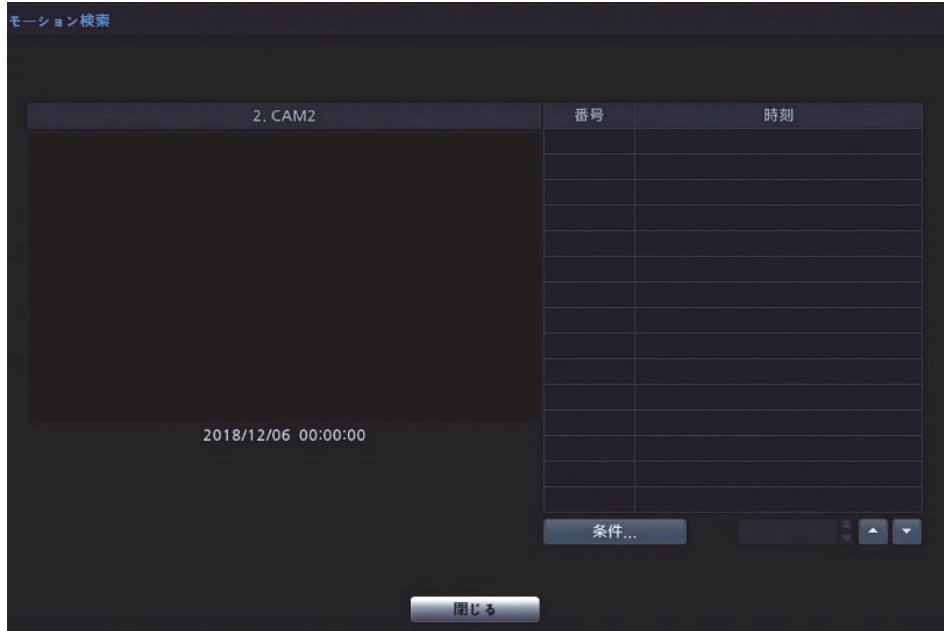
- | | | |
|---|---|---|
|  前の映像に移動 |  再生/一時停止 |  次の映像に移動 |
|  高速逆再生 |  高速再生 | |

★ 選択するとブックマーク画面が表示されます。詳しい内容は下記の“ブックマーク”部分を参照してください。

検索メニューの左上の  を選択して録画テーブル検索メニューを閉じます。

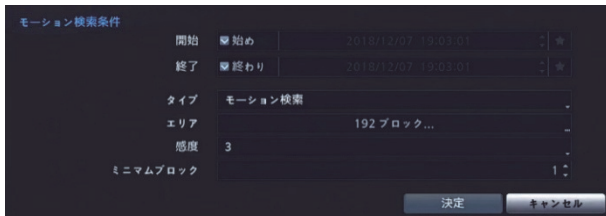
モーション検索

一画面の再生時のみ、検索メニュー上に“モーション検索”メニューが活性化されて選択することができます。検索メニューで“モーション検索”メニューを選択すると、“モーション検索”設定画面が表示されます。



モーション検索画面

“条件...”を選択すると、モーション検索で検索する条件を設定することができます。



“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータの最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されたデータの最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接設定できます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

“タイプ”で“モーション検索”や“オブジェクト検索”のどちらかに設定できます。“モーション検索”はすぐ前の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。すなわち、持続的な変化にもかかわらず変化がとても遅い場合は感知しません。反対に“オブジェクト検索”は、“開始”に設定された日時の映像と比較して、選択されたエリアでの変化を探します。従って、とても遅い変化であっても“開始”に設定された時と比較してある程度以上変化したら、その変化は感知されます。

“エリア”設定は、システム設定 - モーション設定でエリアを設定する方法と同じです。

参考: “オブジェクト検索”のエリアを設定する場合、対象物のヘリ部分をエリアに含めるとうまく検索されない恐れがあります。正確な検索のためにできるだけ対象物のヘリの内側を検知エリアに設定してください。

“感度”を1（低感度）～5（高感度）の間で設定でき、“ミニマムブロック”も設定できます。

条件設定を終えてから“検索”を選択すると検索を開始します。検索中に“中止”を選択すると検索が中止されます。

モーション検索設定の右側のリストに表示される検索結果のうちの一つを選択すると、左側に該当時間に録画された映像が表示されます。該当映像を再生する場合、“閉じる”ボタンを選択してください。

別のカメラの全画面モードに切替えて“モーション検索”を選択すると、以前のモーション検索結果が消えるというアラームメッセージが表示されます。その場合、“結果削除”を選択すると以前の検索結果が消え、“キャンセル”を選択すると以前の検索結果が検索結果リストに表示されます。

テキストイン検索

検索メニューで“テキストイン検索”を選択すると、下のようなテキストイン検索画面が表示されます。



テキストイン検索画面

トランザクションリストで特定トランザクションを選択すると、選択された日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。イベントログ検索と同様に現在の画面に録画された映像がない場合には、16分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。

参考: 1倍速再生時には、画面上にテキストイン情報が重ねて表示されます。別の速度では表示されません。

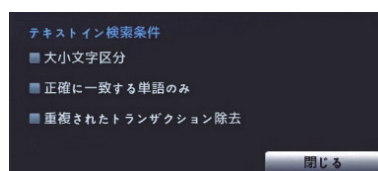
左下の“条件…”を選択すると、テキストイン検索で検索する条件を設定することができます。



“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータの最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されたデータの最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。検索するテキストイン“チャンネル”を選択することができます。テキストイン装置を選択して汎用テキストのようなテキストイン装置のタイプを選択することができます。現在の設定画面の内容は、汎用テキストに関する検索設定内容です。

“+”を選択して検索変数設定を追加することができます。右側の✕を選択して当該項目及び全体項目を削除することができます。検索変数設定の詳細内容は“付録 - テキストイン情報のクエリー例”をご参照ください。

“条件”を選択して大小文字を区分可否、正確に一致する単語のみ検索するかどうか、重複されたトランザクションを除去可否などの検索条件が設定できます。



“取込”を選択して保存された検索条件設定値を読み込むことができます。

“保存”を選択して現在検索条件設定値を保存できます。仮想キーボードを利用して検索条件名を入力します。

設定が終わってから“検索”を選択すると、検索後に“テキストイン検索”の設定画面に戻ります。

サムネイル検索

検索メニューで“JV Search”を選択すると、下のようなサムネイル検索画面が表示されます。



サムネイル検索画面

画面右の🔍ボタンを押すと、連動録画が行われたチャンネルで、特定の日付の映像を検索することができます。

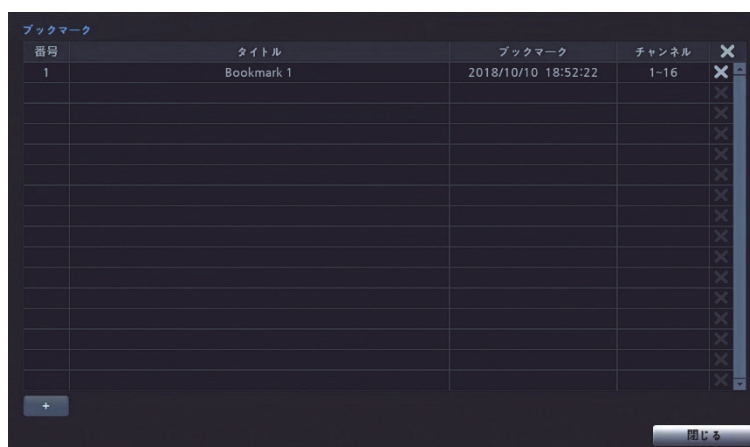
画面下の◀ / ▶ ボタン、または右の🔍ボタンを押すと、映像の精密度を日付/時間/分単位で変更できます。

画面下の◀ day ▶、または右側の🔍ボタンを押すと、日付/時間/分単位で映像を前後に移動することができます。

選択した日付や時間に該当する映像がない場合、画面に“NO IMAGE”と表示されます。画面をダブルクリックすると、その日付の単位が変更されます。

ブックマーク

検索メニューで“ブックマーク”を選択すると、“ブックマーク”設定窓が表示されます。



ブックマーク設定窓

“現在位置追加”を選択して現在再生時点をブックマークに追加します。ブックマーク設定メニューから特定のブックマークを選択すると登録された再生時点に移動することができます。

参考: 保存可能ブックマークの数は64個までです。

設定されたブックマーク項目の右側の ✕ の表示を選択してそのブックマークを削除することができます。

バックアップ

任意の二つの時点を設定してその間の録画データをバックアップすることができます。検索メニューで“保存 - ツータッチクリップコピー”を選択するか再生モードでリモコンの CLIP COPY ボタンを1回押すと1番目の時点が設定されカメラ左下位置に アイコンが表示されます。

再び一度“保存 - ツータッチクリップコピー”を選択するか CLIP COPY ボタンを押すと2番目の時点が設定されバックアップ設定窓が表示されます。指定した二つの時点の範囲が“開始”と“終了”時刻に自動に設定されます。

ライブ監視または再生モードでリモコンの CLIP COPY ボタンを3秒以上押すとワンタッチモードでバックアップ設定窓を表示することができます。ワンタッチモードではいつも最新録画データを終了時刻に設定し保存ドライブの空き容量によって開始時刻が自動的に計算されます。

検索メニューで“保存 - バックアップ”を選択するかライブ監視モードでリモコンの CLIP COPY ボタンを押すと“バックアップ”設定窓が表示され“開始”と“終了”時刻を設定できます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。



データベース		録画	
開始	■ 始め	2018/12/10 18:16:32	☆
終了	■ 終わり	2018/12/10 18:16:32	☆
チャンネル	2		
パスワード	〈なし〉		
メディア選択	1. SanDisk Cruzer Blade [4.00 GB]		
ファイル名	20181210.exe		
☐ テキストインデータ含む			
☐ DVR名使用			
進行状況			
		スタート	閉じる

バックアップ設定窓

“チャンネル”でどのカメラの映像を保存するのかが選択してください。“パスワード”を登録すると、このファイルを再生する時、パスワードの入力が必要になります。パスワード使用するかどうかを選択しパスワードを設定してください。“メディア選択”で保存するメディアまたはFTPサイトを選択してください。NetFS機能が使用中で（“ネットワーク”メニュー - “NetFS”タブ）、“使用”設定が“ALL”または“クリップコピー”となっていれば、FTPサイトにビデオクリップをコピーできます。NetFSを選択する場合、登録されたFTPサイトのリストからFTPサイトを選択します。“ファイル名”を選択して保存するファイル名を設定してください。最高63字まで入力できます。

参考: ファイル名を設定する場合、¥、/、:、*、?、"、<、>、|などの文字は使用できません。

参考: NetFSサイトにビデオクリップをコピーする場合、NetFSサイトのディスク容量は確認できません。DVRは実際のディスク容量と関係なく30GBと表示し、バックアップのためのファイルサイズは30GB以下に制限されます。ビデオクリップがコピーされたからアップロードが失敗した場合、コピーされたビデオクリップが削除されます。同一のファイルが存在する場合、ビデオクリップはコピーされません。

“テキストインのデータ含み”を選択すると当該録画映像のテキストイン情報がある場合、テキストイン情報を映像と共に保存します。

“DVR名使用”を選択すると、バックアップファイル名にサイト名を追加します。

参考: バックアップファイル名にサイト名を追加する場合、サイト名に使用された ¥、/、:、*、?、“、<、>、| などの文字は“_”に代わります。

“開始”を選択すると指定した保存範囲のバックアップするデータ容量を計算して表示します。ただし、ワンタッチバックアップモードでは保存媒体の容量に合わせて保存範囲が自動に設定されます。また選択した保存媒体に空き容量が足りない場合には空き容量に合わせてバックアップすることができます。時間範囲と容量を確認してから“継続”を選択するとバックアップが始まります。バックアップが開始されると、“キャンセル”を押してバックアップをキャンセルでき、“閉じる”を押して画面を隠すことができます。“閉じる”を選択してもバックアップは続けられ、作業が完了するとそれを確認する画面が表示されます。

参考: 2GBを超える場合には保存範囲を調節してファイルサイズを減らしてください。2GBを超える映像区間をバックアップする場合、システムが2GB単位に分けて保存します。

バックアップで作ったファイルをWindows上で実行して、保存された動画を再生することができます。再生方法に関する詳しい内容は、JSS遠隔監視システムの取扱説明書をご覧ください。

参考: USB保存メディアの場合、外部でFAT32に初期化されたものを使用してください。USBハードディスクをFAT32に初期化して使用する方法は、“付録 - USBハードディスクのインストール”部分に説明されています。

注意: USBバックアップの途中でUSBケーブルを抜いたり、USB装置の電源を切ったりしないでください。もし、バックアップの途中でケーブルが抜けたり装置の電源が切れたりした場合、DVRシステムが誤動作や外付USB装置のファイルシステムが損傷して、再度アーカイブを試みる場合にアーカイブができないというエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージを取り除くには、DVRを終了させて再起動させなければなりません。もし、USBハードディスクのファイルシステムが損傷したならば、DVRを再起動してもアーカイブを試みる際にエラーメッセージが出続けるようになります。そのような場合はUSB-HDDをもう一度初期化するか、市販の復旧プログラムを利用して外付ドライブのファイルシステムの損傷した部分を復旧してください。

印刷

現在の映像を印刷するために、再生モードで  (エンター) ボタンを押して再生を一時停止します。検索メニューで“印刷”を選択すると、“印刷”の設定画面が表示されます。NetFS機能が使用中の場合 (“ネットワーク”メニュー - “NetFS”タブ)、イメージをNetFSサイトにアップロードできます。



印刷画面

“プリンターモデル名”で“PostScriptプリンター”または“ファイルプリンター”を選択します。PostScriptプリンターを選択した場合、現在の映像がUSBコネクタに接続されたプリンターで印刷されます。ファイルプリンターを選択した場合、現在の映像がUSB保存媒体またはNetFSサイトにPDFファイルで保存され、保存された映像はパソコンに接続されているプリンターで印刷します。

“用紙サイズ”で望みの用紙サイズを選択します。

参考: LPTコネクタ（並列ポート用コネクタ）のみサポートするプリンタの場合、LPTをUSBに変換するケーブルがありますので、別途購入して使用してください。

付録

USBハードディスクのインストール

USBハードディスクをDVRに接続するためには、事前にWindows PCを用いて初期化する必要があります。本章ではこの初期化の方法について説明します。

参考: USBハードディスクの初期化は、Windows®のバージョンにより多少異なる場合があります。

1. USBケーブルを使用してUSBハードディスクをPCに接続します。
2. PCを起動させます。
3. USB装置のアイコンがタスクバーに表示されます。
4. もしUSBハードディスクのパーティションが既に作成され、データが保存されている場合、他のハードディスクと同様にマイコンピュータで内容を確認できます。「登録情報」→「一般」→「ファイルシステム」の順にアイコンにカーソルを当てて、マウスの右ボタンをクリックして確認します。もし、ファイルシステムがFAT32フォーマットでない場合、USBハードディスクをFAT32フォーマットにフォーマットし直します。
5. USBハードディスクのパーティションを作成するには「管理者ツール」→「コントロールパネル」→「コンピュータ管理」を実行します。「保存装置」の「ディスク管理者」を開けて、USBハードディスクの未割当領域にマウスカーソルを当て、マウスの右ボタンをクリックしてパーティションを作ります。
6. 「パーティション作成ウィザード」で「Next」をクリックすると、「メインパーティション」画面の説明に従ってパーティションを作ります。ファイルシステムをFAT32に選択したかどうか確認します。

参考: パーティションのサイズはマイクロソフトの制限があるため、32GBより小さく設定してください。

7. フォーマットを完了すると、USBハードディスクがマイコンピュータ内に追加されます。
8. DVRにUSBハードディスクを接続します。

テキストイン情報のクエリー例

クエリー例1

1	2	3	4	5	6
123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890					
Item	Unit price	Qty	amount		
=====					
Coke	\$ 2.20	1(s)	\$ 2.20		
Fanta	\$ 2.20	1(s)	\$ 2.20		
Hotdog	\$ 3.50	3(s)	\$ 10.50		
Pepsi	\$ 1.95	1(s)	\$ 1.95		
=====					
			total : \$	16.85	

Thank you~~

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目（Unit price）、28文字目（Qty）、および40文字目（amount）に位置していま

す（スペース文字を含みます。\$記号は自動的に無視されます）。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を入力できます。例えば、Qty（数量）が1より大きいCokeと、amount（合計金額）が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

テキストイン検索条件

開始

☒ 始め

2018/12/12 21:03:43

★

終了

☒ 終わり

2018/12/12 21:03:43

★

チャンネル

1~16

...

汎用テキスト

▼

番号	-	名前	比較演算子	値	コラム	列	×
1		Coke	>	1	28	0	×
2	AND	Hotdog	>	8	40	0	×
					0	0	×
					0	0	×
					0	0	×

+

条件...

取込

保存

決定

キャンセル

クエリー例2

1	2	3	4	5	6
1234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890					
Item	Unit price	Qty	amount		
=====					
Coke	\$ 2.20	1(s)	\$ 2.20		
Fanta	\$ 2.20	1(s)	\$ 2.20		
Hotdog	\$ 3.50	3(s)	\$ 10.50		
Pepsi	\$ 1.95	1(s)	\$ 1.95		
=====					
total : \$			16.85		

Thank you~~

このテキストイン情報では、比較値が左端から17文字目（Unit price）、28文字目（Qty）、および40文字目（amount）に位置しています（スペース文字を含みます。\$記号は自動的に無視されます）が、amountカテゴリの行がItemとは異なっています。この場合、コラムボックスの各行に17、28、40を、列ボックスには次行を示す1を入力できます。例えば、Qty（数量）が1より大きいCokeと、amount（合計金額）が8ドルを超えるHotdogを検索する場合は、検索条件を次のように設定できます。

テキストイン検索条件

開始 ☒ 始め 2018/12/12 21:03:43

終了 ☒ 終わり 2018/12/12 21:03:43

チャンネル 1~16

汎用テキスト

番号	-	名前	比較演算子	値	コラム	列	×
1		Cake	>	1	28	0	×
2	AND	Hotdog	>	8	40	1	×
					0	0	×
					0	0	×
					0	0	×

+

条件...

取込 保存 決定 キャンセル

WEB Client

WEB Clientはインターネット上で別度のプログラムがなくても遠隔地の映像を監視及び検索できるもので、一般ブラウザ（インターネットエクスプローラー）を用いて簡単に接続できます。

WEB Clientの行うためには下記の通りPCのシステムの仕様が必要です。

- ・ OS: Microsoft® Windows® 7 (Home Premium、Professional、Ultimate)、Microsoft® Windows® 10
- ・ CPU: Intel Pentium III (Celeron) 600MHz以上
- ・ RAM: 128MB以上
- ・ VGA: 8MB以上 (1024x768、24bpp以上)
- ・ Internet Explorer: バージョン6.0以上 (32-Bit)

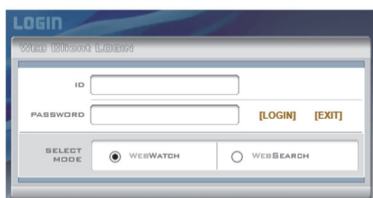
インターネットエクスプローラーを実行してからアドレス入力欄へ下の情報を入力してください。

- “http://IPアドレス:ポート番号” (DVRシステムIPアドレス及びネットワーク – WEB Client設定から設定したWEB Client接続ポート番号 (デフォルト値: 12088)入力)
- 或いは“http://UCNサーバアドレス/UCN名” (UCNサーバアドレス及びUCNサーバへ登録されたDVR名入力)
- 或いは“http://www.dvronline.net” (ログイン時DVR IPアドレス或いはUCNサーバへ登録したUCN名を入力要求)

参考: 接続するDVRのIPアドレス及びWEB Clientのポート番号はネットワーク管理者へお問い合わせください。

参考: WEB Clientはマイクロソフトインターネットエクスプローラー (Microsoft Internet Explorer) のみ対応しており、他のブラウザには対応していません。

参考: WEB ClientはMicrosoft® Windows® 10のEdgeでは、動作しません。



WEB Clientのログイン画面が出ると“WEBWATCH”（ウェブ監視）または“WEBSEARCH”（ウェブ検索）を選択します。ID及びパスワードを入力して[LOGIN]ボタンをクリックすると選択したモードに接続されます。

“http://www.dvronline.net”を入力して接続する場合は、“DVR ADDRESS”項目へDVRのIPアドレスを入力します。ログインメニューから“Use DVRNS”オプションを選択したらIPアドレスの代わりにUCNサーバへ登録されたUCN名を入力することが可能であり、SETUP設定からUCNサーバのアドレス及びポート番号の入力が求められます。

参考: WEB Clientプログラム運営中にはログイン窓を閉じないでください。ウェブ監視又はウェブ検索モードに切り替える際にはスクリプト (SCRIPT) エラーが発生します。この場合にはWEB Clientプログラムをリスタートする必要があります。

参考: 新しいバージョンのWEB Clientを開く場合、インターネットエクスプローラーで以前のバージョンの情報を読み込むことがあります。その場合には、コントロールパネル → インターネットオプション → 全般に移動してインターネット一時ファイルでファイルの削除をしてから、WEB Clientを行ってください。

参考: WEB Clientを実行する場合、アドレスバーやステータスバーを表示すると画面の下段部が見えなくなる場合があります。この現象を解決するためにはインターネットの設定を変更し、アドレスバーやステータスバーを表示しないでブラウザを開くことをお勧めします。（“ツール” → “インターネットオプション” → “セキュリティ” → “レベルのカスタマイズ” → “Webサイトがアドレスバーやステータスバーのないウィンドウを開くのを許可する”のオプションを“有効にする”に設定）。

参考: Microsoft® Windows®よりWEB Clientソフトを起動する場合、インターネットエクスプローラーを実行するためにはブラウザのアイコンをマウスで右クリックして表示されるメニューより“管理者として実行”をお選びください。“管理者として実行”を選択しない場合、WEB Clientの一部の機能が制限される恐れがあります。

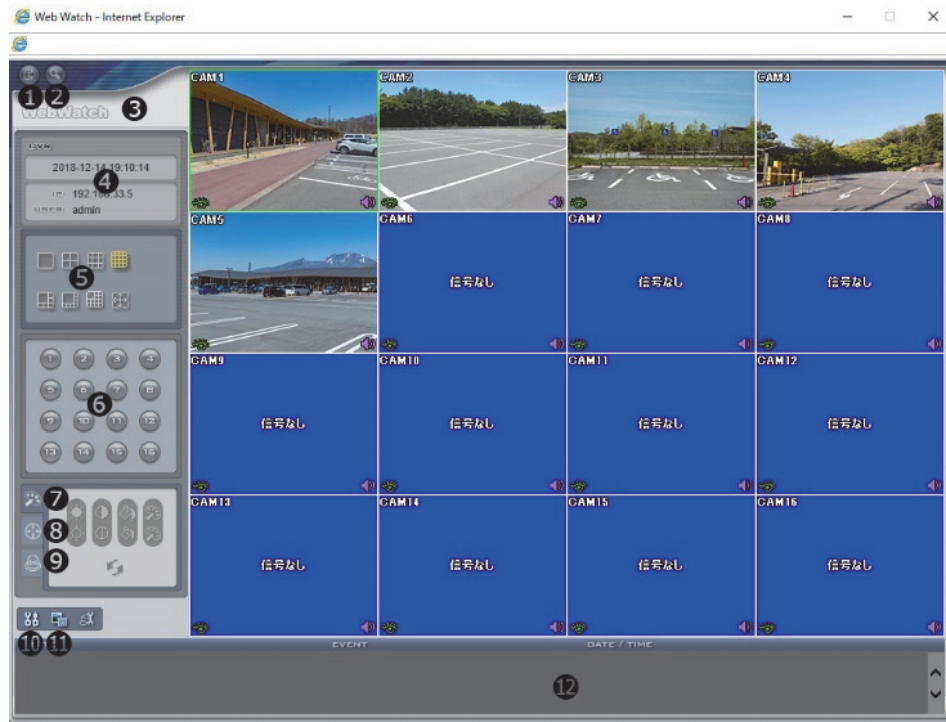
参考: Microsoft® Windows®では映像転送速度の低下によりWEB Clientのスクリーンの画面が表示されなかったり、更新しなかったりする恐れがあります。本症状の場合は、ご使用のPCのオートチューニング機能の解除をお勧めします。

管理者権限でコマンドプロンプト実行（“スタート”メニュー → “すべてのプログラム” → “コマンドプロンプト” → マウスの右ボタンを利用し、“管理者として実行”選択）。“netsh int tcp set global autotuninglevel=disable”を入力してからENTERキーを押してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

オートチューニング機能を再度復旧するためには管理者権限でコマンドプロンプトを実行してから“netsh int tcp set global autotuninglevel=normal”を入力してください。PCは再起動してから変更された設定を適用します。

ウェブ監視モード

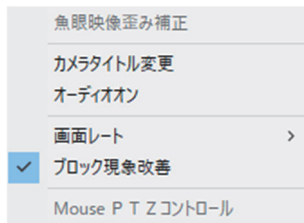
ウェブ監視は遠隔地の映像をリアルタイムで監視できる遠隔地ウェブ監視のプログラムです。



- ① [X] を押すとWEB Clientのプログラムが終了されます。
- ② [E] を押すとウェブ検索モードに転換されます。
- ③ マウスのポインタをWebWatchのロゴ部分に置くとWEB Clientのバージョンを確認することができます。
- ④ WEB Clientログイン情報を表示します。
- ⑤ ディスプレーモードを選択することができます。カメラの順番を入れ替える事が可能です。
- ⑥ 監視したいカメラを選択します。



- ⑦ [F] を押すと映像の画質を調節することができます。
- ⑧ [G] を押すと遠隔地のPTZカメラを制御することができます。
 - ・ あらかじめPTZ設定 (P.65) がされないと操作できません。
 - ・ アナログHDカメラPF-CA4040、CA4031、CA4041、CA4032は、「アイリス開ける」のアイコンでカメラOSDメニューに入ることができます。(エンターの代替機能)
- ⑨ [H] を押すと遠隔地のアラーム出力を制御することができます。
- ⑩ [I] を押すとディスプレイモード、OSDの表示、ブザーの出力を設定することができます。ディスプレイモードを選択して映像を出力するスピードを調整することが可能であり、OSD表示リストより画面に表示するOSD情報も選択することができます。Beep On及びBeep Offを選択し、遠隔からDVRの内蔵ブザー電源の切替ができます。
- ⑪ [J] を押すと監視映像をグラフィックファイルとして保存します。
- ⑫ イベント状態窓は遠隔地で検知されたイベントリストを表示します。
- ⑬ 画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。



- ・カメラタイトル変更: カメラタイトルを変更することができます。
- ・オーディオオン: 遠隔地とのオーディオの送受信機能を提供します。項目を選択するとオーディオ ボタンが表示されます。 ボタンを選択するとマイクを利用して遠隔地に音声を送ることが可能であり、 ボタンを選択するとスピーカから遠隔地のオーディオを再生することが可能であります。 ボタンと ボタンをすべて選択すると遠隔地と両方向オーディオの送受信が可能になります。 ボタンを選択するとオーディオ送受信が非活性化します。
- ・画面レート: スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
- ・マルチストリーム: DVRでリアルタイム監視映像に対してマルチストリームモードが設定されている場合、希望するストリームを選択することができます。
- ・ブロック現象改善: 拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

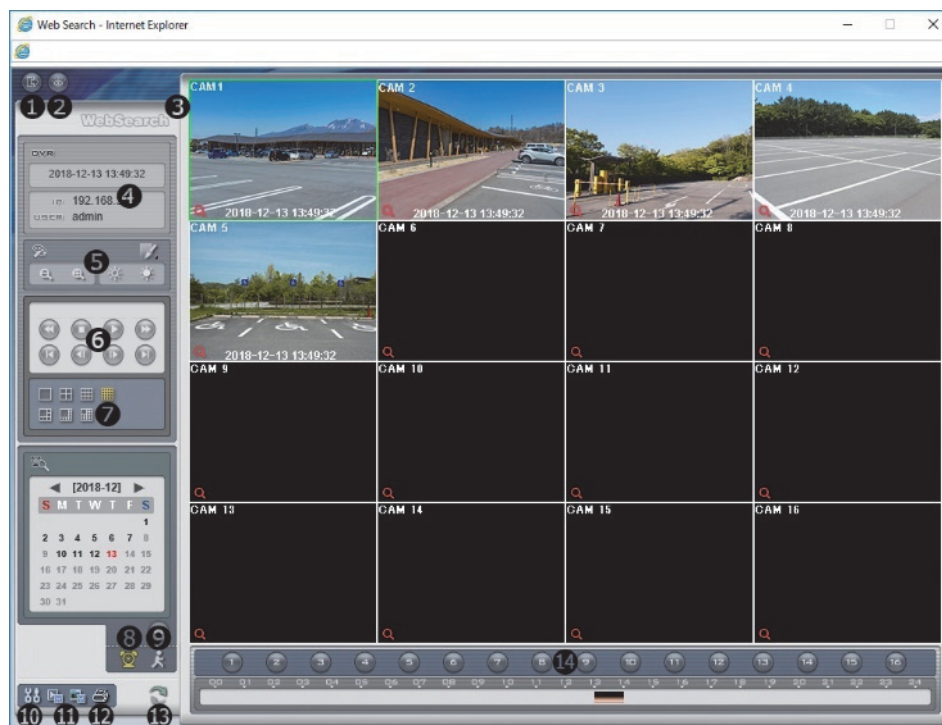
参考: ウェブ監視モードより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

参考: 接続したオーディオ制御機能をサポートする場合、当該カメラスクリーンに アイコンが表われます。

ウェブ検索モード

ウェブサーチは遠隔地の録画映像を検索することができる遠隔地ウェブ検索プログラムです。

参考: ウェブ検索スクリーンからの遠隔地接続は30分以上の操作がない場合、自動解除されます。



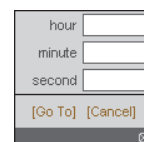
- ① を押すとWEB Clientのプログラムが終了されます。

- ②  を押すとウェブ監視モードに切り替えます。
- ③ マウスポインタをWebSearchのロゴ部分に置けばWEB Clientのバージョンを確認することができます。
- ④ 遠隔地DVRの時間情報及びWEB Clientログイン情報を表示します。
- ⑤  を押して映像に様々なイメージフィルターを適用します。  を押して映像を縮小及び拡大します。  を押して映像の明るさを調節します。



参考: 映像調整は一時停止状態でのみ適用されます。

- ⑥ 再生ボタンを押して映像を巻き戻し、一時停止、正倍速、早送、映像の最初に移動、コマ送り、映像の最後に移動します。
- ⑦ ディスプレーモードを選択することができます。
- ⑧  を押してタイムラプス検索モードを用い、録画映像を検索及び再生します。タイムラプス検索モードでの検索は日付単位に構成されカレンダーで検索しようとする日付を選択することができます。タイムテーブルはカレンダーで選択した日付の録画映像の時間情報を表示します。検索したい時間を選択すると該当の時間帯の映像を画面に表示します。該当の時間帯に一つ以上の映像がある場合には検索するセグメントを選択することができます。  を押して検索する日付及び時間を設定して特定時間帯の映像にすぐ移動することができます。
- ⑨  を押してイベント検索モード用いて使用者が指定した条件を満足するイベントを検索することができます。
- ⑩  を押すとディスプレイモード及びOSD表示を設定することができます。ディスプレイモードを選択して映像を出力するスピードを調整することが可能であり、OSD表示リストより画面に表示するOSD情報を選択することができます。
- ⑪  あるいは  を押して録画映像を静止画像またはJSS-Playerに保存します。



参考: 実行ファイルで保存する時、“プレーヤー”オプションを選択すると保存ファイルのサイズや保存時間を減らすことができます。ファイル再生に必要な専用ビューアプログラムはインターネットエクスプローラーの住所入力欄に下記の情報を入力してダウンロードできます。

- UCNを使用する時：“http://UCNサーバアドレス/UCN名前/ JSS-Player.exe” (UCNサーバアドレス及びUCNサーバに登録されたUCN名前入力)
- UCNを使用しない時：“http://IPアドレス:ポート番号JSS-Player.exe” (DVRシステムIPアドレス及びネットワークWEB Client設定で設定したWEB Client接続ポート番号(基本値: 12088)入力)

- ⑫  を押して現在の映像をパソコンに接続されているプリンタで印刷します。
- ⑬  を押すと遠隔地の録画映像をロードします。
- ⑭ 選択したカメラの録画情報を時間単位で表示します。
- ⑮ 画面よりカメラを選択してマウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューを表示します。

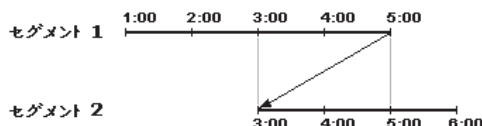


- ・カメラタイトル変更: カメラタイトルを変更することができます。
- ・オーディオオン: 当該映像を保存しながらオーディオも一緒に録音している場合にチェックするとオーディオを出力します。(単一画面再生時に限る)
- ・画面レート: スクリーン上に見える映像の出力レートを変更することができます。
- ・ブロック現象改善: 拡大映像から見られるブロック現象を除去し、画面へ表示する映像の出力品質を向上させることができます。

参考: ウェブ検索モードより変更されたカメラ名は遠隔地システムには影響しません。また、カメラ名を入力しない場合、遠隔地より設定したカメラ名がスクリーン上に表示されます。

時間重複

使用者が時刻を戻して録画を行う場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して検索する必要があります。例えば、1時より5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時より3時に変更してから6時まで録画を行うと3時より5時までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に3時より5時までの時間帯には二つのセグメントは発生します。



重なった時間の録画映像を検索する時には特定時間または時間範囲を選択することができます。重なった空間の3時より5時の間の区間で“日時指定検索”などの検索メニューを用いてある特定の検索時間を指定する場合、“4時”の録画映像を検索しようとするすると重なった二つのセグメントの中にどのセグメントの4時なのかを選択する必要があります。

セグメントを選択して下さい
1: セグメント 1
2: セグメント 0

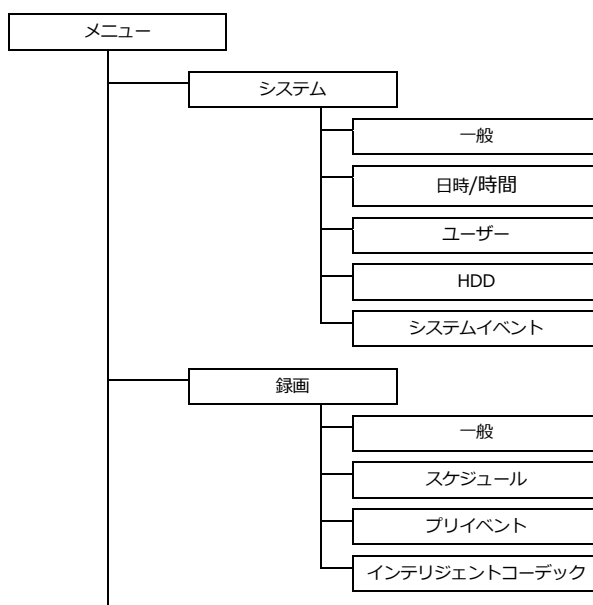
参考: “セグメント”の字の前の数字が小さいものが後に録画したデータです。

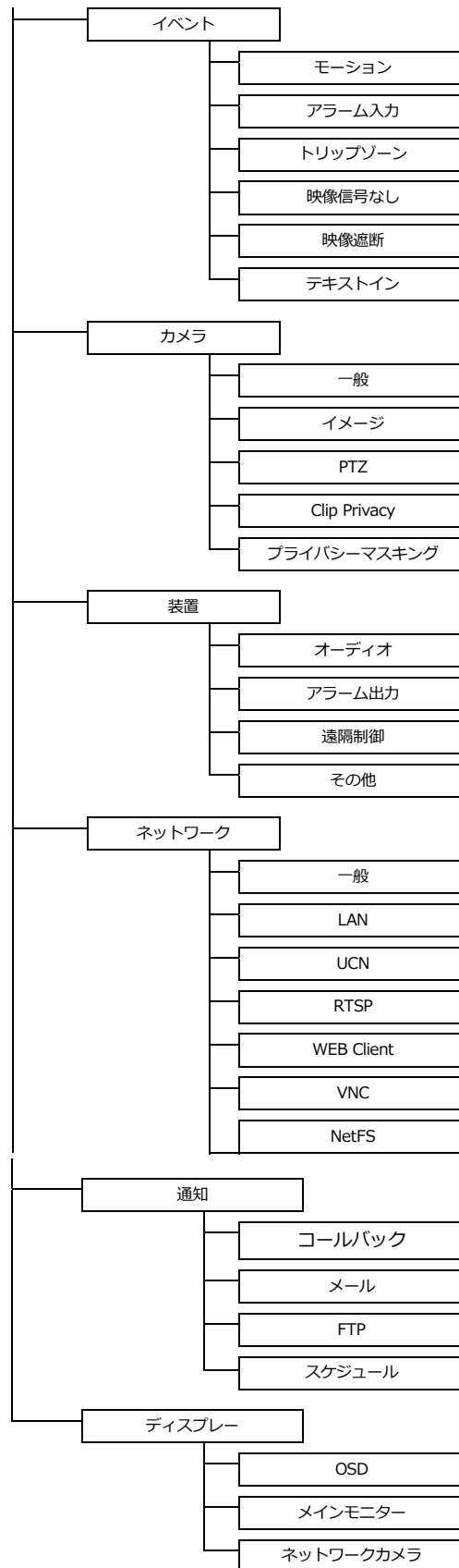
時間が重なった3時～5時区間で、“イベントログ検索”、“テキストイン検索”及び“モーション検索”などの検索メニューを使用して検索時間範囲を指定する場合、“4時～5時”の間の録画映像を検索したい場合には、重なった二つの検索開始と終了時間の中に一つを選択する必要があります。選択できる検索範囲は下記の通りです。

範囲を選択して下さい
1: 範囲 1 ~ 1
2: 範囲 1 ~ 2
3: 範囲 2 ~ 2

- ・セグメント1の4時～セグメント1の5時
- ・セグメント1の4時～セグメント2の5時
- ・セグメント2の4時～セグメント2の5時

設定画面の構成図





システムログタイプ

システム開始	接続が解除されました: NetFS:
システム終了	全てのデータ削除
システム再開	ディスク削除
アップグレード	ディスク初期化
アップグレードエラー	ディスクフル
電源エラー	ディスク構成変更
時間変更	ディスク '番号': 'シリアルナンバー'
標準時間帯変更	ディスク '番号': 除去された
タイムサーバー成功	自動削除
タイムサーバー失敗	検索開始
ディスクエラー	検索終了
ログイン	バックアップ開始
ログアウト	バックアップ終了
設定開始	バックアップキャンセル
設定終了	バックアップ失敗
遠隔設定変更	バックアップユーザー:
遠隔設定エラー	バックアップスタート:
設定読み込み	バックアップ終了:
設定読み込み失敗	バックアップ映像再生時間:
設定保存	バックアップカメラ:
設定保存失敗	コールバック失敗
設定保存取消	印刷開始
スケジュール作動	印刷終了
スケジュール終了	印刷キャンセル
緊急録画開始	ログイン: VNC (サーバのアドレス)
緊急録画終了	ログアウト: VNC (サーバのアドレス)
接続されました: NetFS:	

エラーコードタイプ

アップグレードエラーコード		バックアップエラーコード	
番号	エラータイプ	番号	エラータイプ
0	原因不明のエラー	0	原因不明のエラー
1	ファイルバージョンに合いません	1	装置エラー
2	OSバージョンに合いません	2	装置接続失敗
3	SWバージョンに合いません	3	CDメディアがありません
4	カーネルバージョンに合いません	4	間違ったメディア
100	保存装置マウント失敗	5	同じ名前のファイルがあります
101	ファイルが見つかりません	6	残容量が不足
102	ファイル圧縮解凍失敗	7	一時ファイル作成失敗
103	リロ(LILO)実行失敗	8	ディスクを開くのに失敗

アップグレードエラーコード		バックアップエラーコード	
番号	エラータイプ	番号	エラータイプ
104	リブート失敗	9	ディスク初期化失敗
106	光学ドライブのファームウェアのアップデート失敗	10	データベース変更
300	遠隔接続失敗	11	保存失敗
301	遠隔ネットワークエラー	12	ディスクエラー発生
302	遠隔アップグレード権限がありません	13	JSS-Player実行ファイルがありません
303	遠隔アップグレードファイルの保存失敗	14	JSS-Player実行ファイルを開くのに失敗
304	ユーザーが遠隔アップグレードをキャンセル	15	JSS-Player実行ファイル保存失敗
400	USB保存装置でマウント失敗	16	イメージ作成失敗
401	USB保存装置でファイル読取り失敗	19	装置接続失敗
402	USB保存装置でファイルコピー失敗	20	装置使用中
403	USB保存装置でファイルコピー失敗	21	サポートしないファイルシステム
404	USB保存装置が接続していない	22	データ検証失敗
405	USB保存装置使用中		
500	バックアップ中のためアップグレード失敗		

故障の際の確認事項

症状	確認事項
本体が起動しません。	・ 電源コードの接続状態を確認します。 ・ コンセントの電源を確認します。
リアルタイム映像が見えません。	・ カメラ映像ケーブルとの接続状態を確認します。 ・ モニタ映像ケーブルとの接続状態を確認します。 ・ カメラの電源を確認します。 ・ カメラレンズの設定状態を確認します。 ・ メインモニタの現在の解像度を確認します。
DVRが録画中に止まってしまいました。	ハードディスクが一杯になると、古い映像から消しながら録画をし続ける上書きモードに設定します。
 アイコンが画面に表示されていますが、DVRは録画しません。	プリイベント設定になっているとイベントが発生しないため録画されていない場合は、黄色い  と  が表示されます。イベントが発生して録画される場合は、赤い  と  が表示されます。
システムアップグレード途中でDVRが再起動を繰り返し、作業を完了できません。	アップグレードするファイルのバージョンを確認します。現在システムにインストールされているバージョンより下位バージョンにアップグレードする場合、デバイスにあるファクトリーリセットスイッチを押して工場初期化を先に行います。工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。

製品の仕様

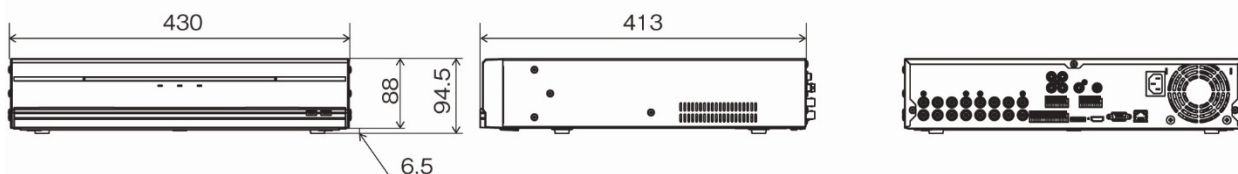
仕様

ビデオ	ビデオ入力	16ch (BNC) / アナログHD (AHD、TVI) 1M、2M、3M、4M、5M、CVBS (NTSC、PAL)
	ビデオ出力	HDMI: ×1、VGA: ×1、BNC (SPOT): ×1
	ディスプレイ解像度	HDMI: 3840×2160、1920×1080、1440×900、1280×1024 VGA: 1920×1080、1440×900、1280×1024 Composite: 720×480 (NTSC)、720×576 (PAL)
	表示速度	最大480ips
録画	録画解像度	5MP、4MP、3MP、1920×1080、1280×720、960×480、720×480、960×240、720×240、480×240、360×240
	フレームレート	480ips@1080P
	画像圧縮方式	H.264
	録画モード	タイムラプス、イベント、プリイベント、パニック
再生	性能	4ch 1080P 同期再生
	検索モード	タイムラプス、イベントログ、モーション、テキストイン
保存	HDD	内蔵: 4TB (標準) / 8TB / 12TB / 24TB (最大)
	バックアップ	USB HDD、USBメモリ
	RAID	—
ネットワーク	クライアント接続ポート	Gigabit Ethernet (Client) ×1
	伝送速度	120ips@Full HD
	イベントアラーム	Email (添付ファイル(.cbf、.MP4))、コールバック (遠隔ソフトウェア)
インターフェース	オーディオ入力 / 出力	4RCA/1RCA + 1HDMI
	アラーム入力 / 出力	16IN/4Really Out
	アラームリセット入力	1
	シリアルインターフェース	RS232、RS485 (Terminal Block)、USB2.0×1、USB3.0×1、eSATA×1
一般	外形寸法	約430 (幅) × 88 (高) × 413 (奥) mm ※突起物含まず
	質量	約6,000g (HDD1個装着時)
	使用温度範囲	0～40℃ (湿度90%未満 ※結露しないこと)
	電源 / 消費電力	AC 100-240V、50/60Hz、1.2-0.6A、最大76W
	同梱物	本体×1、電源ケーブル、簡易マニュアル×1、マウス×1、遠隔プログラム/製品のマニュアルCD、IRリモコン×1、保証書、ハードディスク固定ねじ/SATAケーブル※

※購入いただいたDVRのHDD容量によって同梱物の有無及び数量が異なります。

外形寸法図

単位: mm



アフターサービスについて

この製品は「保証書」を別途添付しております。所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

■ 保証について

正常な使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書記載内容により、お買い上げの販売店（または工事店）が修理いたします。その他の詳細は保証書をご覧ください。

- 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 本製品が故障した場合、稼働していない時間に対する営業損失は補償対象外になります。

修理を依頼されるときは

下記事項をお買い上げ販売店にご連絡ください。

- ① 故障の状況（できるだけ詳しく）
- ② 品名と品番（5MPアナログHD対応 16ch デジタルレコーダ【JS-RA4016】）
- ③ お買い上げ年月日（保証書に記入）
- ④ 製造番号（保証書に記入）
- ⑤ お名前、おところ、電話番号

■ 定期点検・保守について

特に監視用などでご使用の場合は、定期点検の実施をおすすめします。詳しくは、お買い上げ販売店（または工事店）にご相談ください。

- 万一故障が発生した場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください。
本製品は当社保証規定に基づいて保証させていただいております。

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

株式会社 日本防犯システム
<https://www.js-sys.com/>

〒105-6109 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービルディング9階
TEL：03-6809-1217
FAX：03-6809-1701

東京支店 〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-10 第一登茂ビル4階
仙台支店 〒980-6023 宮城県仙台市青葉区中央4-6-1 SS30 23階
名古屋支店 〒451-0046 愛知県名古屋市西区牛島町2-5 トミタビル9階
大阪支店 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田1丁目14-8 梅田北プレイス5階
広島支店 〒730-0051 広島県広島市中区大手町2-8-5 合人社広島大手町ビル10階
福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-8 住友生命博多ビル7階
札幌営業所 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西12-4-69 あいおいニッセイ同和損保札幌大通ビル7階
北関東営業所 〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-1-2 明治安田生命大宮ビル5階
高松営業所 〒760-0017 香川県高松市番町1-6-8 高松興銀ビル4階

本製品の仕様は製品の質を高めるために事前の予告なく変更される場合があります。